

(4) 溝 跡

溝跡は、合計28条を検出した（この中には整理段階で新しく第1号堀跡と編号した、第2・11・21号溝跡は含まれていない）。

溝跡の分布は、調査区北半部では東側に隣接するC区から続く第19号溝跡（C区SD6）、第23号溝跡（C区SD18）、第26号溝跡（C区SD17）、第30号溝跡（C区SD8）の4条が東西方向に直線的に延びているほか、第22号溝跡（C区SD7）が南北方向に延びる。このうち第26号溝跡は、現道を挟んで西側に隣接するE区SD1に合流する可能性が考えられる。

調査区南半部では、第1号堀跡によって区画された内部（郭）を中心に小規模な溝跡が数多く検出された。土壌との重複が著しく、寸断されている箇所も多い。このうち個別番号を付して調査した第13・16・17・4号溝跡は、本来同一の溝跡と考えられるもので、北辺に屈曲部をもつ方形の区画溝の可能性が高い。また、調査区南端にはL字形に屈曲する第1号溝跡が確認された。

さらに、調査区西際には南北に延びる第18号溝跡がある。調査区内の地形が南側の水田面に向かって緩やかに傾斜しているため、南端部は掘り込みが浅く消滅している。この溝跡の東側約12mには第22号溝跡が南北に平行して延びており、留意される。調査時に明確な硬化面等は確認されていないが、道路状遺構の可能性も視野に入れておくべきであろう。

出土遺物は全体に少なく、時期の決め手を欠く。唯一、第22号溝跡では在地産の瓦質（片口）鉢や鉄鏝など中世遺物が出土している。他の溝跡からは近世陶磁器、泥面子、砥石等が出土し、館廃絶以後の土地利用のあり方を窺うことができる。

第1号溝跡（第44図）

第1号溝跡は、調査区南端のA・B-7・8グリッドに位置する。土層断面の観察から、第1号堀跡（SD2）、第6号土壌を壊して、掘削され

ていることが判明した。また、この溝跡の南側は地山面が周囲よりも数10cm下がっており、この溝跡を境に段切りされた様子が、現況の畑にも明瞭に残されている。

確認長12.4m、幅2.14m、深さ0.63～1.15mである。底面は北から南に向かって緩やかに傾斜する。主軸方位は、西側でN-7°-E、北側でN-85°-Wを指す。遺物は、底面から少し浮いた状態で陶器甕瓶が出土したほか、陶器徳利・播鉢・甕、砥石、板碑、平瓦が出土した（第48図1～9）。時期は19世紀前半に位置づけられる。

第3号溝跡（第44図）

第3号溝跡は、B-6・7グリッドに位置し、第4号溝跡と重複する。くの字に緩やかに屈曲し、長さ8.4m、幅0.22～0.45m、深さ0.02～0.26mを測る。主軸方位は、北半部でN-38°-Eを指す。遺物は出土していない。

第4号溝跡（第44図）

第4号溝跡は、B-6グリッドに位置する。第13・16・17号溝跡に連結する区画溝で、第1号堀跡（SD2）、第3・25号溝跡、第45号土壌等と重複する。直線的に延び、長さ9.1m、幅0.31～0.55m、深さ0.30～0.49mを測る。底面は概ね平坦で、主軸方位は、N-5°-Eを指す。

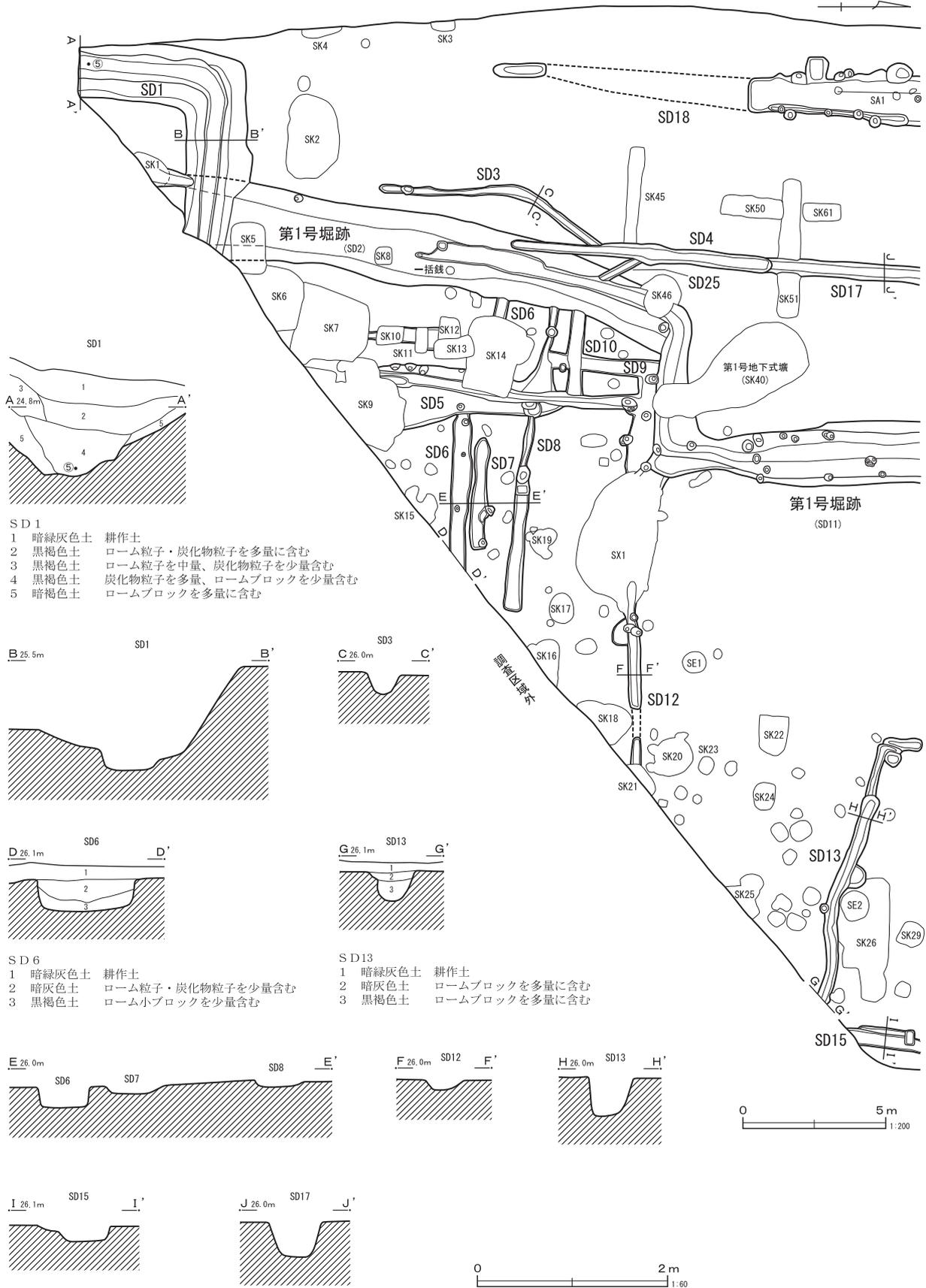
遺物は出土していない。

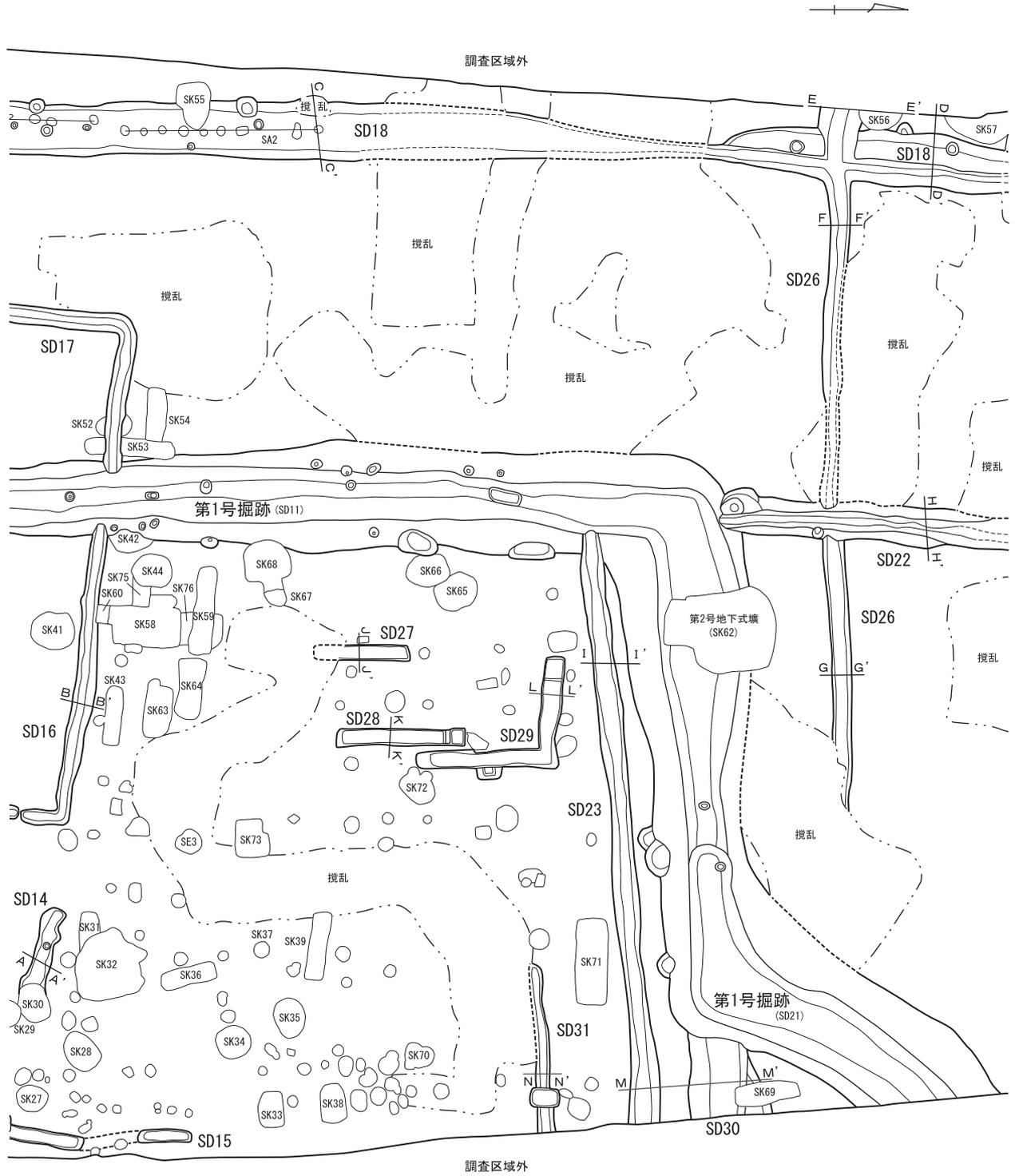
第5号溝跡（第44図）

第5号溝跡は、B・C-6・7グリッドに位置し、第1号堀跡、第6・8・10号溝跡、第9・14号土壌と重複する。直線的に延び、南側で上幅を広げ、テラス状となる。規模は長さ9.2m、幅0.42～2.19m、深さ0.15～0.52mである。底面は北から南に緩やかに傾斜する。主軸方位は、N-0°を指す。遺物は陶磁器、瓦片のほか、砥石、敲石（第48図10・11）が出土した。

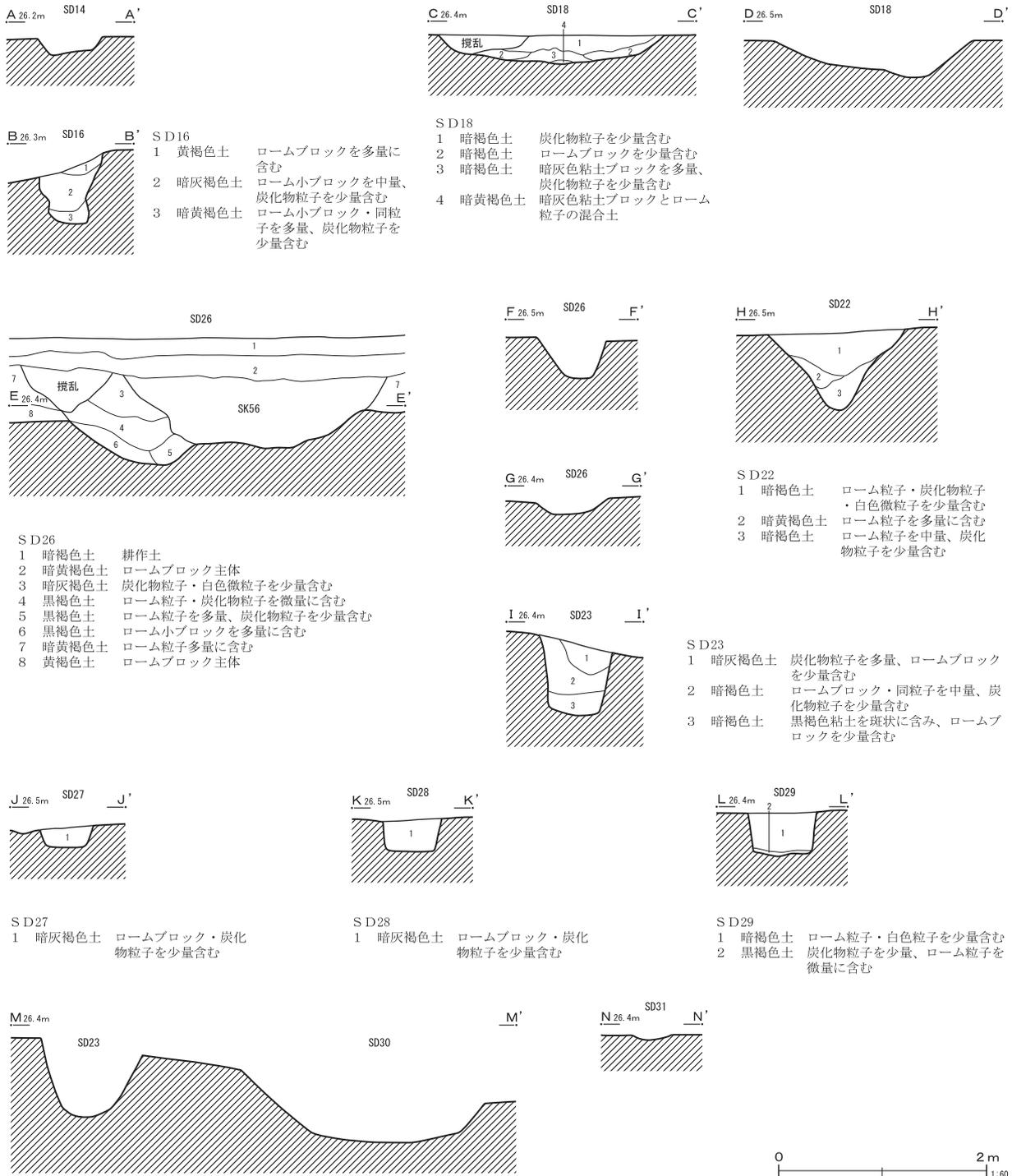
第6号溝跡（第44図）

第6号溝跡は、B-6、C-7グリッドに位置し、第1号堀跡（SD2）、第5号溝跡、第14号





第45図 溝跡 (2)



第46図 溝跡 (3)

土壌と重複する。寸断しているため明確でないが、緩やかな屈曲をもちながら東西方向に延びている。長さ9.8m、幅0.41～0.63m、深さ0.07～0.27mを測る。主軸方位は、N-86°-Wを指す。遺物は陶磁器、土器、砥石等が少量出土したが、いずれも小片のため実測図示できるものはない。

第7号溝跡 (第44図)

第7号溝跡は、C-7グリッドを中心に位置し、一部C-6グリッドにかかる。第6号溝跡の北側に接し、長さ4.0m、幅0.53m、深さ0.03～0.06mを測る。主軸方位は、N-86°-Wを指す。遺物は出土しなかった。

第8号溝跡 (第44図)

第8号溝跡は、B・C-6グリッドに位置し、第1号堀跡(SD2)、第5・9号溝跡と重複する。ほぼ直線的に東西方向に延び、長さ10.8m、幅0.18～0.69m、深さ0.03～0.13mを測る。底面には土壌状の落ち込みが数箇所見られる。主軸方位は、N-82°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第9号溝跡 (第44図)

第9号溝跡は、B-6・7グリッドに位置し、第1号堀跡、第6・8・10号溝跡、第7・10～14号土壌などと重複し、寸断されている。第5号溝跡と並走しながら南北方向に直線的に延びており、長さ10.2m、幅0.24～0.60m、深さ0.09～0.16mを測る。主軸方位は、N-7°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第10号溝跡 (第44図)

第10号溝跡は、B-6グリッドを中心に位置し、一部C-6グリッドにかかる。第1号堀跡(SD2)、第5・9号溝跡と重複する。東西に延びる直線的な溝で、長さ2.9m、幅0.53m、深さ0.06～0.11mを測る。底面はほぼ平坦である。主軸方位は、N-87°-Wを指す。

遺物は焙烙の底部片が出土したが、小片のため実測図示できなかった。

第12号溝跡 (第44図)

第12号溝跡は、C・D-6グリッドに位置し、第21号土壌、第1号竪穴状遺構と重複する。東西方向に直線的に延び、第5・9号溝跡と直交しているが、本来同一の溝であるかは不明である。長さ13.6m、幅0.40m、深さ0.06～0.14mを測る。底面はほぼ平坦で、主軸方位は、N-90°を指す。

遺物は、第1号竪穴状遺構に近接した場所から北宋銭の元祐通寶(初鑄年1086年：第48図12)が出土した。

第13号溝跡 (第44図)

第13号溝跡は、D・E-5グリッドに位置し、第26号土壌と重複する。東から西に向って蛇行して延び、西端部で北側に屈曲し、第16号溝跡に接続する。長さ10.5m、幅0.21～0.53m、深さ0.11～0.46mを測る。底面は概ね平坦である。主軸方位はN-76°-Wから、西端部でN-5°-Eに方向を転換する。

遺物は陶磁器、火鉢、瓦などの小片のほか、鎌と考えられる鉄製品(第48図13)が出土した。

第14号溝跡 (第45・46図)

第14号溝跡は、D-5グリッドに位置し、東端部は第30号土壌と重複する。平面形は不定形で、長さ2.6m、幅0.62m、深さ0.13～0.21mを測る。底面は概ね平坦で、主軸方位は、N-70°-Wを指す。遺物は染付け端反碗の破片(第49図14)が出土した。

第15号溝跡 (第44・45図)

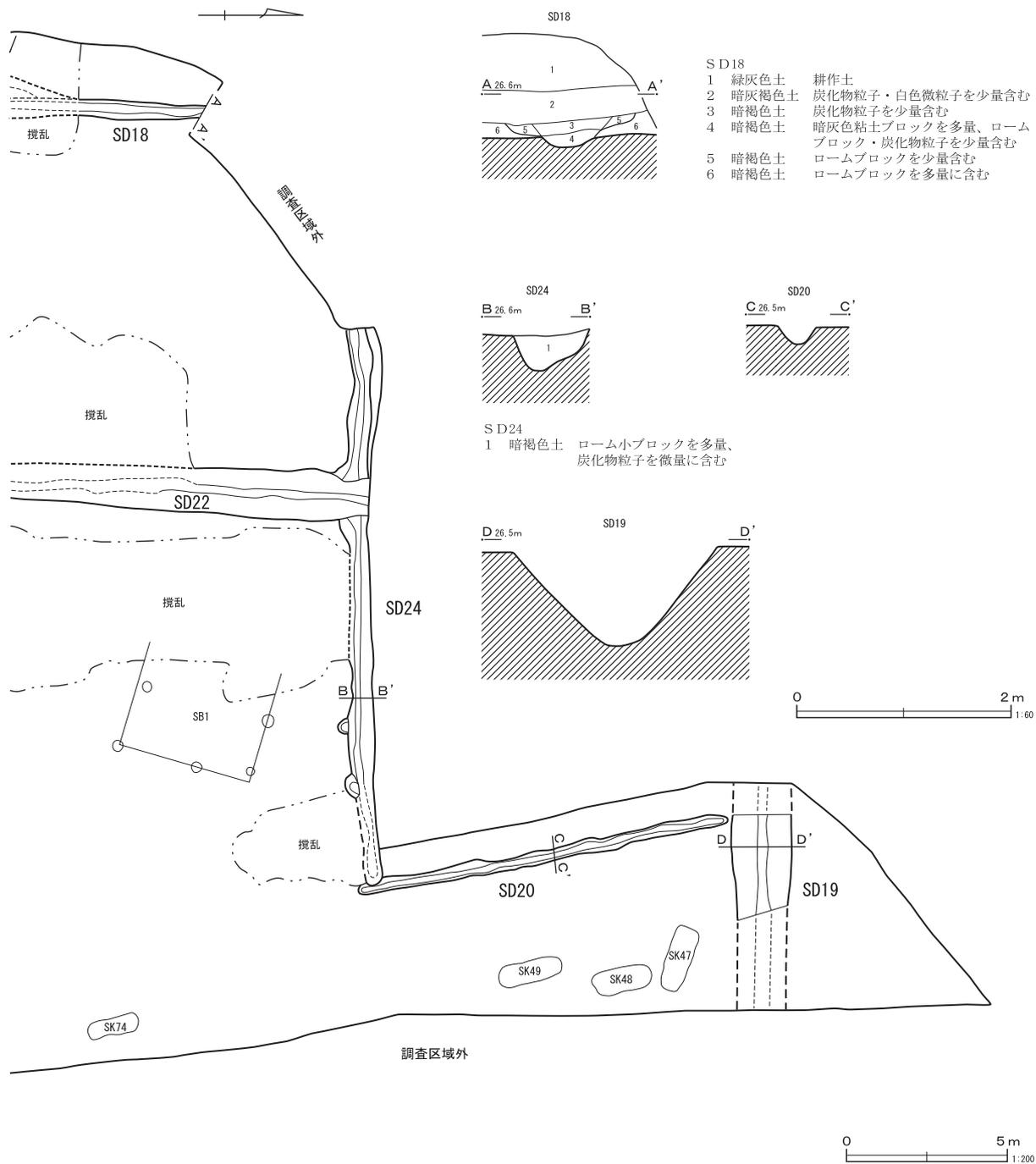
第15号溝跡は、調査区東側のE-4・5グリッドに位置する。やや蛇行して南北方向に延び、南端は調査区外に続く。断続的であるが、長さ8.2m、幅0.50m、深さ0.06～0.13mを測る。底面は概ね平坦で、主軸方位は、N-2°-Eを指す。遺物は旧石器(第11図1・3)が出土した。

第16号溝跡 (第45・46図)

第16号溝跡は、C・D-5グリッドに位置し、第1号堀跡(SD11)、第60号土壌と重複する。東端部は第13号溝跡から続いて北に進んだ後、西に折れ、直線的に延びて第17号溝跡に接続するものと考えられる。長さ11.5m、幅0.47～1.28m、深さ0.33～0.70mで、底面は概ね平坦。主軸方位は、東端部でN-5°-Eを指して北流した後、N-82°-Wに向きを変える。遺物は常滑の甕破片、砥石(第49図15・16)が出土した。

第17号溝跡 (第44・45図)

第17号溝跡は、B-5グリッドを中心に位置し、一部C-5グリッドにかかる。第1号堀跡(SD



第47図 溝跡（4）

11)、第51・52・53号土壙と重複する。第1号堀跡を挟み、第16号溝跡から真っ直ぐに延び、西端でほぼ直角に屈曲して南に直線的に延び、第4号溝跡に接続する。残念ながら第1号堀跡との新旧関係は把握されていないが、出土遺物の様相は堀跡よりも後出的である。長さ14.1m、幅0.60m、深さ0.28～0.44mを測り、底面は概ね平坦である。北辺部の主軸方向はN-82°-W、西辺

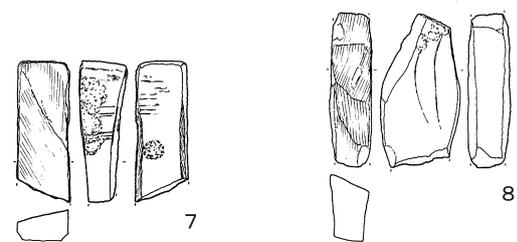
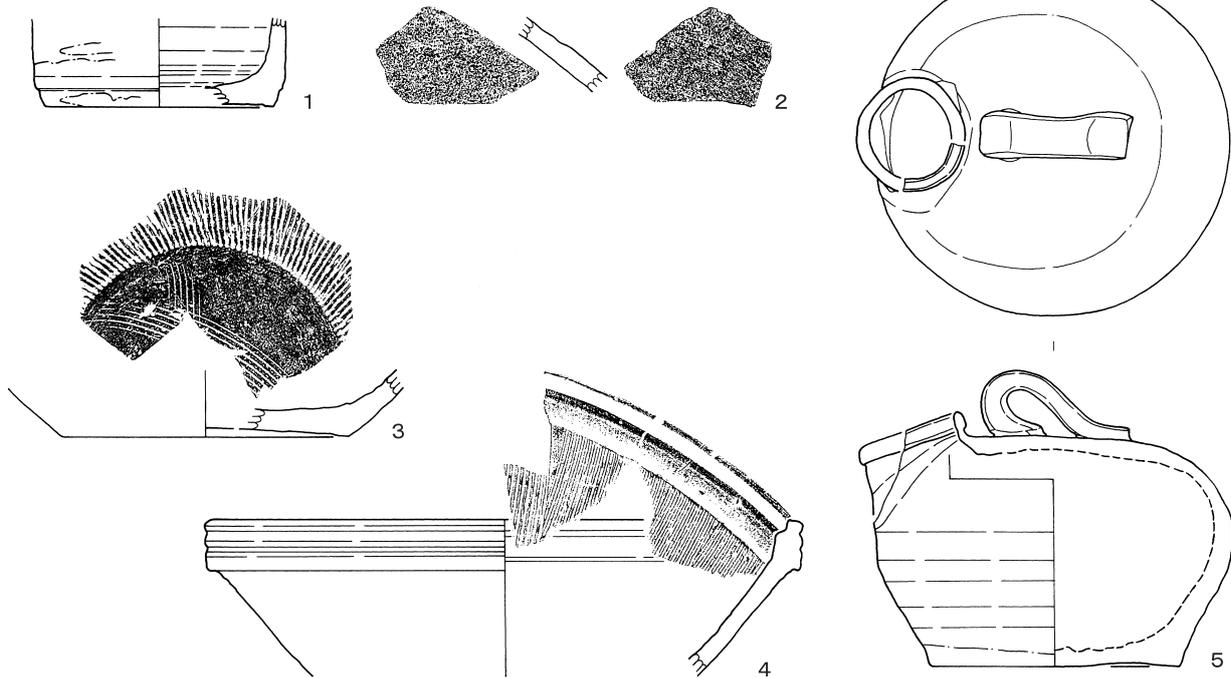
部はN-5°-Eを指す。

出土遺物は染付磁器、焙烙、瓦の破片が少量出土したが小片が多く、泥面子、和釘（第49図18・21）を実測図示した。

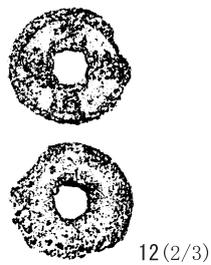
第18号溝跡（第44～47図）

第18号溝跡は、調査区西際のA・B-1～6グリッドに位置し、第26号溝跡、第55・56号土壙、第1・2号柵列と重複する。攪乱によって壊

SD1

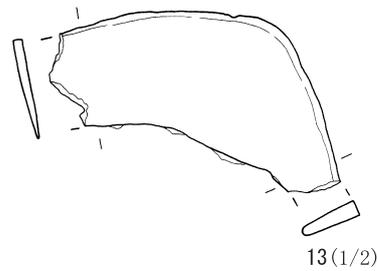


SD12



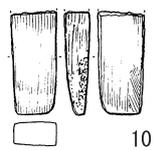
0 3 cm 2:3

SD13

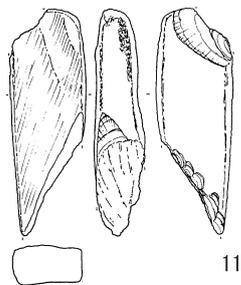


0 5 cm 1:2

SD5

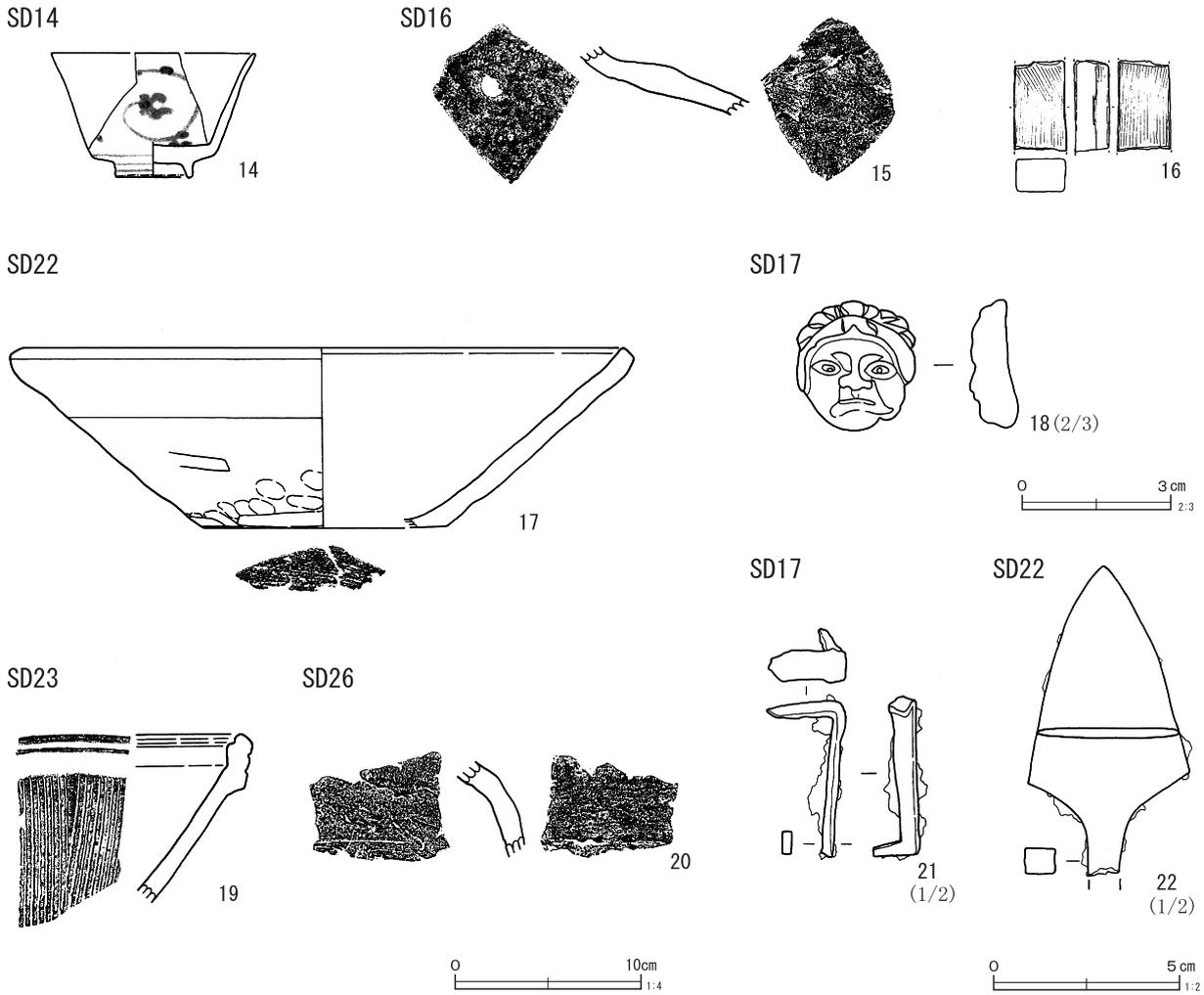


0 10 cm 1:4



11

第48図 溝跡出土遺物 (1)



第49図 溝跡出土遺物（2）

され不明な部分も多いが、南北に直線的に延び、長さ53.8mを測る。溝幅は0.40～1.90mの広狭があり、深さも0.06～0.35mと場所によって大きく変わる。また、それに合わせようとして断面形も逆台形から低台形と大きく異なるため、同一時期に掘削されたものであるか判断に苦慮する。主軸方位はN-3°-Eを指し、第1・2号柵列もほぼ同じ方向性を指向することから、関連性が窺われる。遺物は在地産の播鉢の小片が出土した。

第19号溝跡（第47図）

第19号溝跡は、調査区北端のD-00グリッドに位置する。この溝跡はC区で調査された第6号溝跡と同一のもので、主郭部分の土塁下から検出されたことから館の形成初期に遡る溝であること

が指摘されている。東西方向に直線的に延びており、上幅1.85m、深さ0.86～0.97mの断面三角形の葉研状を呈する。底面は東から西に向かって緩やかに傾斜し、主軸方位はN-90°を指す。

遺物は在地産の播鉢の破片が出土した。

第20号溝跡（第47図）

第20号溝跡は、D-00～1グリッドに位置する。第19号溝跡と第24号溝跡を繋ぐように、やや西に斜行する溝跡で、C区第15号溝跡と同一の溝跡である。またC区第9号溝跡とは平行関係にあることから、その方向性が規制されているようである。規模は、長さ11.6m、幅0.33～0.48m、深さ0.08～0.16mを測る。主軸方位は、N-11°-Wを指す。遺物は出土しなかった。

第22号溝跡（第45～47図）

第22号溝跡は、調査区北部のC-1～3グリッドに位置し、南北方向に直線的に延びる。前回調査のC区第7号溝跡の続きで、北から南に向かって延び、第24・26号溝跡と直交し、南端は第1号堀跡（SD11）に合流する。規模及び断面形の共通性から、東から延びてくる第19号溝跡が、調査区外で南に直角に曲がった可能性も考えられる。また調査区西際の第18号溝跡と平行関係にあり注意される。長さ20.7m、幅1.15～1.59m、深さ0.52～0.79mを測り、断面三角形の葉研状を呈する。主軸方位は、N-3°-Eを指す。

遺物は在地産鉢、大型の平根三角形鉄鍬（第49図17・22）が出土した。17は在地産の鉢で、片口部を欠損する。薄い底部から体部は大きく外傾して開き、口唇部は面取りされ微かに内湾する。体部外面に指頭圧痕を残し、口縁部及び内面は横ナデが施される。内面は横方向の擦痕が顕著。底部外面に糸切り痕を残す。15世紀後半の所産。

第23号溝跡（第45・46図）

第23号溝跡は、C～E-3グリッドに位置し、第1号堀跡（SD11）と重複する。C区第18号溝跡と同一のもので、第1号堀跡に沿って東西方向に直線的に延び、長さ19.7m、幅0.65～0.98m、深さ0.26～0.97mを測る。断面形は台形の箱葉研状を呈し、底面は東から西に向かって緩やかに傾斜する。主軸方位は、N-85°-Eを指す。

遺物は堺産の播鉢（第49図19）が出土したほか、瓦や土器など近世遺物が目につく。

第24号溝跡（第47図）

第24号溝跡は、調査区北辺際のB～D-1グリッドに位置し、東西に延び、東端部は第20号溝跡と接し、第22号溝跡と直交している。

直線的な溝で、長さ17.4m、幅0.48～0.80m、深さ0.20～0.40mを測り、断面形は不整形である。主軸方位は、N-90°を指す。遺物は瓦片が出土しただけで、時期不詳である。

第25号溝跡（第44図）

第25号溝跡は、B-6グリッドに位置し、第4号溝跡と第1号堀跡の間を斜めに延びる短い溝跡である。長さ1.4m、幅0.31m、深さ0.13mを測る。底面は北西から南東に向かって傾斜する。主軸方位は、N-29°-Wを指す。遺物はない。

第26号溝跡（第45・46図）

第26号溝跡は、A～D-2グリッドに位置する。調査区西際で第56号土壇に切られ、南北に延びる第18号溝跡及び第22号溝跡と直交するように東西に延びる。東端は攪乱に入り込み不明瞭であるが、C区第17号溝跡と同一の溝跡と考えられることから、堀跡に先行する区画溝である蓋然性が高い。また、西端は調査区域外へ続き、E区第1号溝跡に繋がっているようである。

規模は、長さ23.2m、幅0.67～1.36m、深さ0.07～0.36mを測る。底面は東から西に向かって緩やかに傾斜し、断面形は逆低台形から逆台形を呈する。主軸方位は、N-90°を指す。

遺物は常滑系の甕の肩部破片（第49図20）が出土した。

第27号溝跡（第45・46図）

第27号溝跡は、C-4グリッドに位置する。南北に真直ぐに延びた溝跡で、南端は攪乱されている。長さ2.3m、幅0.51m、深さ0.18～0.26mを測る。底面は北から南に向かって緩やかに傾斜し、断面箱形を呈する。主軸方位は、N-0°を指す。

遺物は土器片が出土しただけである。

第28号溝跡（第45・46図）

第28号溝跡は、C・D-4グリッドを中心に一部D-3グリッドにかかり、東側に第29号溝跡が近接する。南北に延びた溝跡で、長さ5.0m、幅0.56m、深さ0.29～0.34mを測る。底面は北端を一部深く掘り込み、断面箱形を呈する。主軸方位は、N-0°を指す。

遺物は出土していない。

第7表 溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
第48図 1	S D 1	陶器	德利		[4.7]	(12.0)	20	A・G・J	良好	鈍い黄橙	瀬戸・美濃産 19世紀前半 外面に灰釉が掛かる
第48図 2	S D 1	陶器	甕				破片	A・C・G・J	良好	鈍い黄褐	産地不明 肩部鉄釉が掛かる
第48図 3	S D 1	陶器	搦鉢		[3.6]	(15.0)	30	A・G・K	普通	明赤褐	堺産 19世紀 卸目6本/条 底部外面に砂粒付着 内面平滑
第48図 4	S D 1	陶器	搦鉢	(30.2)	[8.4]		15	A・G・K	普通	明赤褐	堺産 19世紀 卸目10本/条
第48図 5	S D 1	陶器	澁瓶	(6.5)	15.8	13.0	95	A・G・J	良好	浅黄橙	瀬戸・美濃産 19世紀前半 内外面に鉄釉が掛かる
第48図 6	S D 1	瓦	平瓦	長さ4.1cm	幅9.4cm	厚さ2.5cm	布目9×9	凸面縄	酸化焰	硬質	色調明褐 焼成良好
第48図 7	S D 1	石製品	砥石	長さ7.5cm	幅2.8cm	厚さ2.6cm	重さ75.3g	凝灰岩製			
第48図 8	S D 1	石製品	砥石	長さ8.1cm	幅4.2cm	厚さ2.2cm	重さ107.0g	凝灰岩製			
第48図 9	S D 1	石製品	板碑	残存長16.0cm	残存幅 11.1cm	厚さ2.0cm	重さ580.9g	「道□□」の銘文が残るが、磨耗のため不明			緑泥片岩製
第48図 10	S D 5	石製品	砥石	長さ5.4cm	幅2.5cm	厚さ1.3cm	重さ30.3g	凝灰岩製			
第48図 11	S D 5	石製品	敲石	長さ12.0cm	幅4.0cm	厚さ2.7cm	重さ177.8g	敲打痕あり			砂岩製
第48図 13	S D 13	鉄製品	鎌か	長さ7.7cm	幅3.5cm	厚さ0.4cm	重さ26.7g				
第49図 14	S D 14	磁器	端反碗	(11.8)	6.8	3.9	30	A・G	良好	灰白	肥前産 18世紀後半 外面花唐草文 畳付に砂粒付着
第49図 15	S D 16	陶器	甕				破片	A・C・G・J	良好	灰黄褐	常滑系 外面鉄釉が掛かる
第49図 16	S D 16	石製品	砥石	長さ5.0cm	幅2.9cm	厚さ1.9cm	重さ56.2g	凝灰岩製			
第49図 17	S D 22	土器	鉢	(32.4)	9.9	(13.1)	30	A・B・C・F・G	普通	鈍い橙	在地産 体部外面指頭痕顕著 底部糸切り痕を残す 15世紀後半
第49図 18	S D 17	土製品	泥面子	長さ2.6cm	幅2.3cm	厚さ0.8cm	重さ3.9g	芥子面子	人面(老女か)	型作り	完形 色調橙 焼成良好 胎土に白色粒子・赤色粒子を含む
第49図 19	S D 23	陶器	搦鉢				破片	A・C・J	良好	灰赤	堺産 19世紀 卸目8本以上/条
第49図 20	S D 26	陶器	甕				破片	A・C・G・K	良好	灰	常滑系 肩部外面に鉄釉が掛かる
第49図 21	S D 17	鉄製品	和釘	長さ4.2cm	断面矩形0.6×0.3cm	重さ3.7g					頭はL字形に屈曲し、脚部も90° ずれた方向に屈曲する 皆折釘か
第49図 22	S D 22	鉄製品	鉄鏃	長さ8.4cm	鏃身長7.3cm	幅4.4cm	厚さ0.3cm	重さ33.0g			鏃身部は三角形を呈し、扁平な片丸造である 茎部は欠損するが、断面矩形を呈する

第8表 溝跡出土銭貨観察表

挿図番号	遺構番号	銭種	背面	銭径(mm)		銭厚(mm)	重量(g)	書体	残存	備考
				縦	横					
第48図 12	S D 12	元祐通寶		23.73		0.84~1.03	1.7	行書	ほぼ完形	北宋 1086年初鑄 星形孔

第29号溝跡 (第45・46図)

第29号溝跡は、C-3、D-3・4グリッドに位置する。L字形に折れ曲がった溝跡で、長さ8.4m、幅0.66m、深さ0.42mを測る。底面は概ね平坦で、断面箱形を呈する。主軸方位は、N-2°-Wで北に延び、西側に屈曲し、N-85°-Wを指す。

遺物は、陶磁器、瓦片などが出土した。

第30号溝跡 (第45・46図)

第30号溝跡は、E-3グリッドに位置し、C区第8号溝跡と同一の溝跡である。C区の調査所見では第1号堀跡(S D 21)が改修される以前

に掘削されたものと推定されている。東西に直線的に延び、長さ2.9m、幅1.86m、深さ0.53~0.77mを測り、断面逆台形を呈する。主軸方位は、N-90°を指す。遺物は出土していない。

第31号溝跡 (第45・46図)

第31号溝跡は、D・E-3グリッドに位置し、隣接するC区では検出されていない。おそらく掘り込みが浅く、削平されたのであろう。

東西方向に延び、北側の第23号溝跡と並走する。長さ5.6m、幅0.39m、深さ0.08mを測り、底面は西から東に緩やかに傾斜する。主軸方位は、N-87°-Eを指す。遺物は出土していない。

(5) 柵列

柵列として認識し得たのは、調査区西際を南北方向に延びる直線溝の第18号溝跡底面に列状に配列された2条の柱穴列のみである。両者は柱筋が僅かにずれているが、近接することから第18号溝と一体になって機能したものと考えられる。両者の総延長は約13mである。

第1号柵列 (第50図)

第1号柵列は、A-5グリッドに位置する。第18号溝跡の底面に一列に6本の柱穴が並ぶ。規模は全長5.5m、主軸方位はN-2°-Eを指す。柱穴は円形を基調とし、直径25~36cm、深さ9~20cmと全体に浅い。柱間寸法は0.50~2.00mと不揃いで、整然とした配列ではない。

遺物は出土しなかった。

第2号柵列 (第50図)

第2号柵列は、A-4・5グリッドに位置し、南側に第1号柵列が近接する。第18号溝跡の底面に9本の柱穴が50cm前後の間隔で密に並ぶ。規模は全長6.4m、主軸方位はN-1°-Wを指す。柱穴は円形を基調とし、直径25~54cm、深さ3~11cmと全体に浅い。柱間寸法は0.60~1.80mと不揃いで、整然とした配列ではない。

遺物は出土しなかった。

(6) 井戸跡

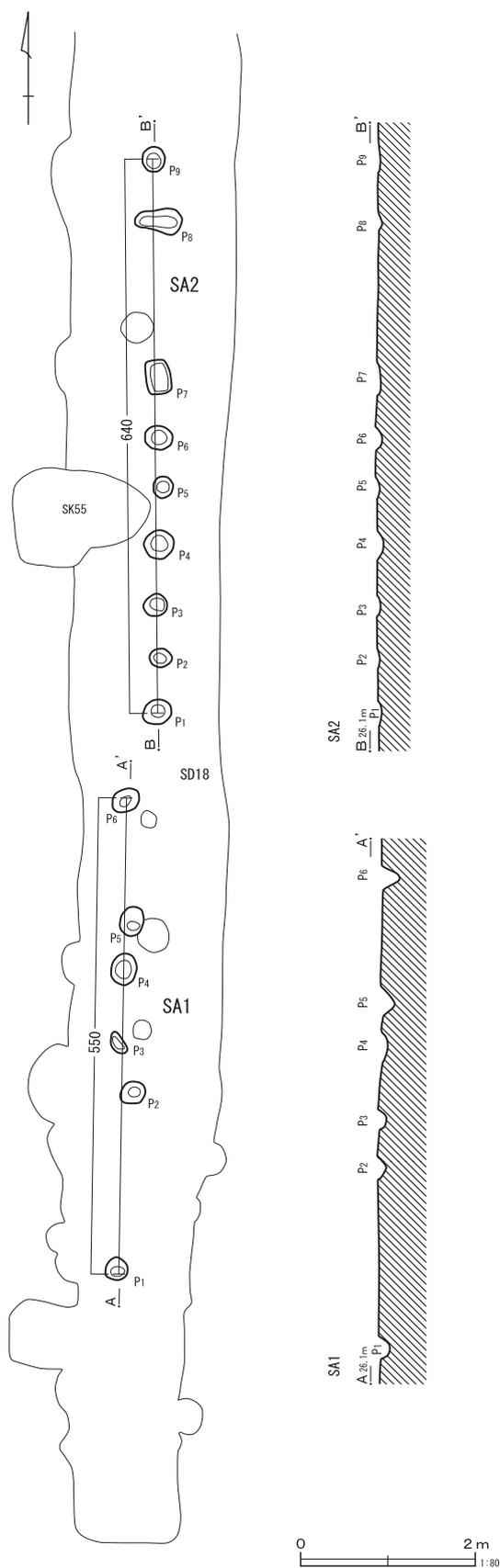
井戸跡は合計3基を検出した。いずれも第1号堀跡によって区画された内部に位置し、井戸側などをもたない素掘りの井戸である。

出土遺物がほとんどなく、時期を特定することは難しい。しかし、その配置状況からみて館跡に付属する可能性が高い。

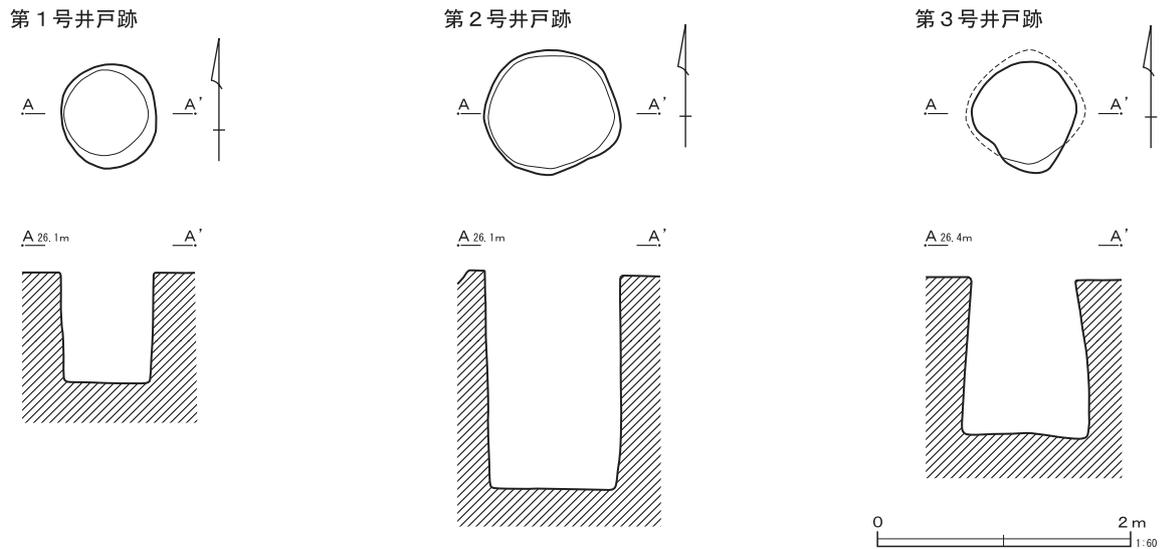
第1号井戸跡 (第51図)

第1号井戸跡は、調査区南端中央部のC-6グリッドに位置する。平面形は径0.82×0.76mの円形で、確認面からの深さは0.87mとやや浅い。壁は垂直に掘り込まれ、断面形は円筒形を呈する。

遺物は土器片が僅かに出土した。



第50図 柵列



第51図 井戸跡

第2号井戸跡 (第51図)

第2号井戸跡は、調査区南東端のD-5グリッドに位置し、第26号土壌と重複する。平面形は径1.07×1.05mの略円形である。確認面からの深さは1.70mで検出された井戸跡の中では最も深い。壁はほぼ垂直に掘り込まれていた。底面は概ね平坦で、断面形は円筒形を呈する。

遺物は陶磁器片が僅かに出土した。

第3号井戸跡 (第51図)

第3号井戸跡は、調査区中央部のD-4グリッドに位置し、上面は攪乱によって削平されていた。平面形は径0.90×0.82mの略円形で、確認面からの深さは1.24mとやや浅い。壁は一部内傾して掘り込まれている。底面は概ね平坦である。

遺物は、播鉢、火鉢、緑泥片岩の破片が少量出土したが実測・図示できるものはなかった。

(7) 地下式壙

地下式壙は、調査時にはすべて土壌番号をつけていたが、整理の段階で地下式壙として2基を抽出した。

抽出の基準として、ある程度の大きさと深さがあり、入口部(竪坑)をもっているものとした。そのため土壌として報告したものの中にも、十分

な規模を有しているが入口部が調査区域外に位置するため検出のできなかった可能性をもつもの(第6・7・9号土壌)、第13・14号土壌のように2基の土壌が重複したもの、第67・68号土壌のように入口部があっても小型で判断に苦慮するものなどが見られた。さらに、第58・60号土壌のように近・現代の「室」との区別が難しいものもあり、選別の基準が曖昧であった点は否めない。

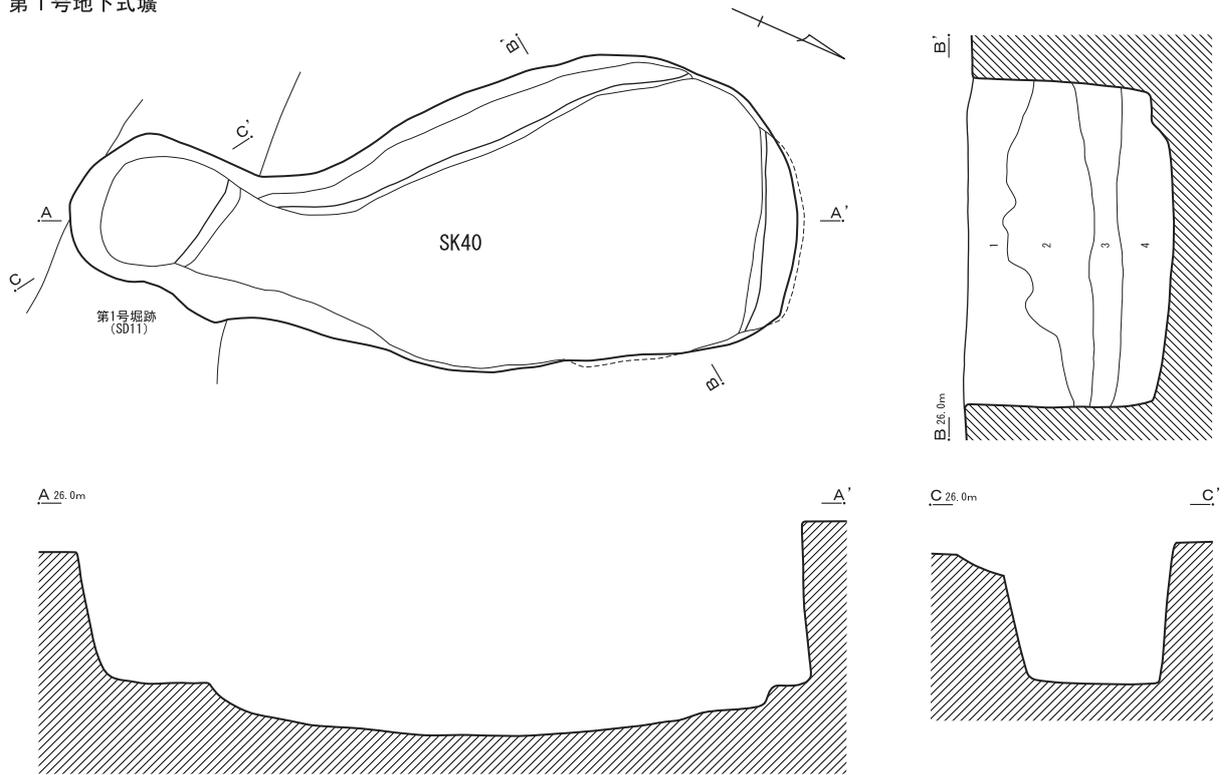
第1号地下式壙 (第52図)

第1号地下式壙は、調査区南側のB-5・6、C-6グリッドに位置し、入口部において第1号堀跡(SD11)と重複する。調査時に入口部分を第1号井戸跡として堀跡よりも調査を先行していることから、堀跡がある程度埋没した段階に竪坑が掘り込まれた可能性が高い。

南を向く入口部から、無花果形に近い平面形の地下室に移行する。底面は入口部と地下室の壁際が一段高く造作され、壁はほぼ垂直に立ち上がる。規模は全長5.73m、地下室横幅2.42m、確認面からの深さ1.60mを測る。主軸方位はN-24°-Wを指す。

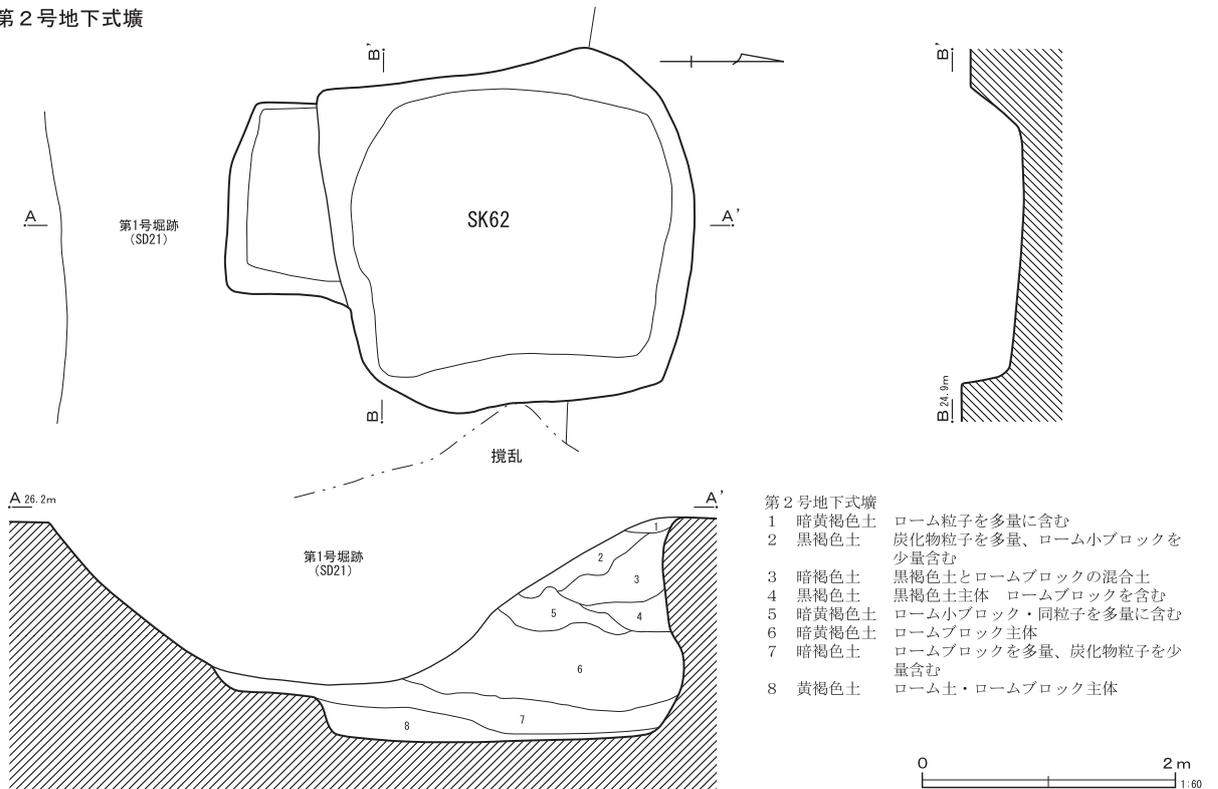
埋土はロームブロックを多く含み、人為的に埋め戻されていた。第2層はロームブロックを主体

第1号地下式壙



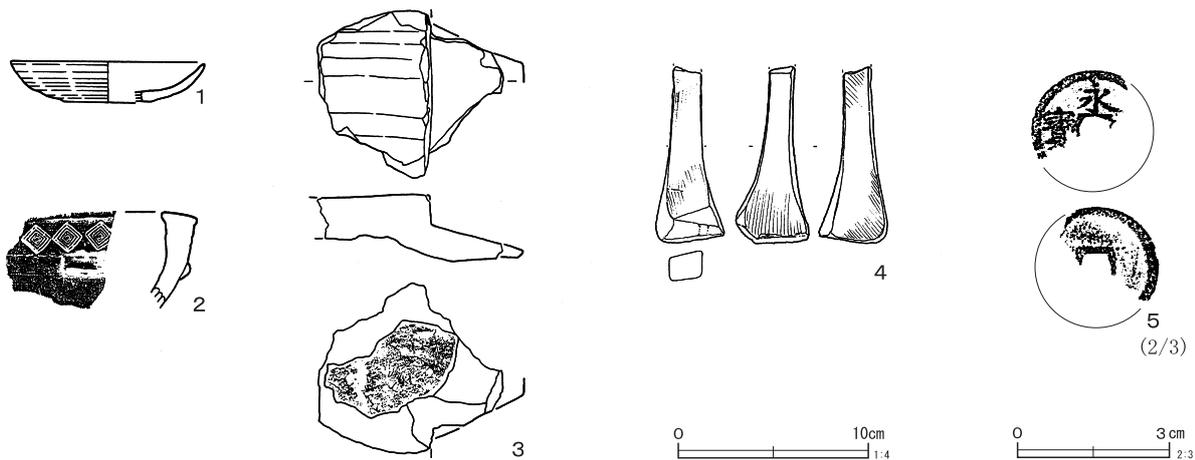
- 第1号地下式壙
- | | |
|---------|------------------------------|
| 1 暗灰褐色土 | ロームブロック・ローム粒子・炭化物粒子を少量含む |
| 2 黄褐色土 | ロームブロック主体 |
| 3 暗黄褐色土 | 褐色土とローム小ブロックの混合土 底面に炭化物が薄く堆積 |
| 4 暗黄褐色土 | ロームブロック主体 褐色土を含む |

第2号地下式壙



- 第2号地下式壙
- | | |
|---------|------------------------|
| 1 暗黄褐色土 | ローム粒子を多量に含む |
| 2 黒褐色土 | 炭化物粒子を多量、ローム小ブロックを少量含む |
| 3 暗褐色土 | 黒褐色土とロームブロックの混合土 |
| 4 黒褐色土 | 黒褐色土主体 ロームブロックを含む |
| 5 暗黄褐色土 | ローム小ブロック・同粒子を多量に含む |
| 6 暗黄褐色土 | ロームブロック主体 |
| 7 暗褐色土 | ロームブロックを多量、炭化物粒子を少量含む |
| 8 黄褐色土 | ローム土・ロームブロック主体 |

第52図 地下式壙



第53図 第1号地下式墳出土遺物

第9表 第1号地下式墳出土遺物観察表

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
第53図 1	S K 40	陶器	灯明皿	(10.0)	2.1	(4.6)	20	A・G・J	良好	鈍い褐	内外面鉄釉 底部ヘラケズリ
第53図 2	S K 40	土器	火鉢				破片	B・C・G・J	良好	灰	在地産 口縁部外面に菱形の押印が連続する 15世紀後半
第53図 3	S E 1	瓦	丸瓦	近世瓦	外面ヘラナデ	内面布袋痕	有段式(玉縁)			色調灰色	焼成良好
第53図 4	S K 40	石製品	砥石	長さ9.4cm	幅3.8cm	厚さ3.6cm	重さ90.9g			凝灰岩製	

第10表 第1号地下式墳出土銭貨観察表

挿図番号	遺構番号	銭種	背面	銭径(mm)		銭厚(mm)	重量(g)	書体	残存	備考
				縦	横					
第53図 5	S K 40	永楽通寶				1.15~1.22	0.9	真書	1/3残	明 1408年初鑄

とすることから天井崩落土と考えられる。

遺物は、埋土中から陶器灯明皿、在地産瓦質火鉢、丸瓦、砥石、永楽通寶(第53図)が出土した。1の灯明皿は内外面に鉄釉が掛かり、瀬戸・美濃産と想定される。2は在地産の瓦質火鉢で、口縁部外面に菱形の押印が連続し、凸帯を貼付する。3は近世の丸瓦で基部に有段部(玉縁)をもつ。

遺物の時期には15世紀後半(2・5)と18世紀後半(1・3)の少なくとも2時期が認められる。遺構の年代については明確にし得ないが、前述した遺構の新旧関係から新しい段階に位置づけておきたい。

第2号地下式墳(第52図)

第2号地下式墳は、調査区中央部のC-2・3

グリッドに位置し、第1号堀跡(S D 21)と重複する。両者の先後関係については土層断面では確認していないが、埋土の状況から堀跡に先行して掘削された可能性が強い。

矩形平面の地下室に南を向く方形の入口部が付属する。入口部は中軸線より西に寄った位置にあり、底面は入口部が一段高く造作されていた。壁は崩落が激しく、旧状を留めていない。規模は全長3.69m、地下室横幅2.67m、確認面からの深さ1.76mを測る。主軸方位はN-4°-Wを指す。

埋土はロームブロックの混入が目立ち、人為的に埋め戻されたようである。第6層はロームブロックを主体とする暗黄褐色土で天井崩落土であろう。遺物はまったく出土していない。

(8) 土 壙

土壙は合計74基検出された。第1号堀跡によって区画された内部に集中して分布する。

第1号土壙 (第54図)

B-8グリッドに位置し、第1号堀跡(SD2)と重複する。南半部が調査区外にかかり、平面形は楕円形と想定される。底面は鍋底状を呈する。規模は、長軸1.18m以上、短軸0.71m、深さ0.77mを測る。主軸方位はN-22°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2号土壙 (第54図)

A・B-7グリッドに位置する。平面形は不定形で、底面はほぼ平坦である。規模は、長軸2.98m、短軸1.80m、深さ0.34mを測る。主軸方位はN-84°-Wを指す。遺物はない。

第3号土壙 (第54図)

A-7グリッドの調査区西際に位置し、西半部は調査区域外にかかる。平面形は方形系を呈し、底面は鍋底状に近い。規模は、長軸0.84m、短軸0.34m以上、深さ0.30mを測る。主軸方位はN-0°を指す。遺物は出土していない。

第4号土壙 (第54図)

A-7グリッドに位置し、西半部は調査区域外にかかる。平面形は楕円形と想定され、底面は平坦である。規模は、長軸1.41m、短軸0.34m以上、深さ0.44mを測る。主軸方位はN-11°-Wを指す。遺物は出土していない。

第5号土壙 (第54図)

B-7グリッドに位置する。第1号堀跡(SD2)、第6号土壙と重複し、第6号土壙に切られていることが土層断面から判明した。堀跡との新旧関係は、堀跡がある程度埋没した段階に掘り込んだものと想定される。平面形は長方形を呈し、断面箱形である。規模は、長軸1.82m、短軸1.21m、深さ0.67mを測る。主軸方位はN-90°を指す。

遺物は、銭貨7枚(第63図1~7)、板碑、石

臼(第60図3・4)が出土した。銭貨は北壁寄りからまとまって出土し、北宋銭5枚(咸平元寶、祥符通寶、元豐通寶2、元符通寶)、明銭2枚(永樂通寶、宣徳通寶)を数える。板碑片は種子や銘文はなく、背面に平鑿による押し削り痕が顕著である。石臼は上臼の一部で、供給孔の一部が僅かに残る。人骨等は検出されなかったが、平面形態や規模等から土壙墓の可能性が高い。出土した銭貨は六道銭であろう。

第6号土壙 (第54図)

B-7グリッドに位置する。土層断面から第1号溝跡に切られ、第5号土壙を切っていることが判明した。平面形は方形系と想定され、底面は概ね平坦である。規模は、長軸2.20m以上、短軸2.19m、深さ1.09mを測る。主軸方位はN-9°-Eを指す。埋土はロームブロックの混入が目立つことから、埋め戻しと想定される。

遺物は銭貨2枚(第63図8・9)が東壁際から出土した。銭貨は北宋銭の皇宋通寶と聖宋元寶である。

第7号土壙 (第54図)

B-7グリッドに位置する。第9号土壙に切られる。平面形は不定形を呈し、底面は平坦である。規模は、長軸2.63m以上、短軸2.38m、深さ0.71mを測る。主軸方位はN-21°-Eを指す。

遺物は和釘(第60図10)が出土した。

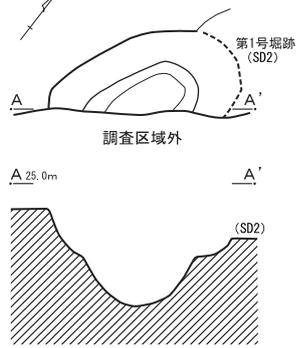
第8号土壙 (第55図)

B-7グリッドに位置する。第1号堀跡(SD2)の底面を横穴状に掘り込んだ有天井の平面長方形の土壙である。規模は、長軸0.94m、短軸0.60m、深さ0.47mを測る。主軸方位はN-90°を指す。遺物は出土していないが、底面から浮いた状態で棒状の礫が検出された。

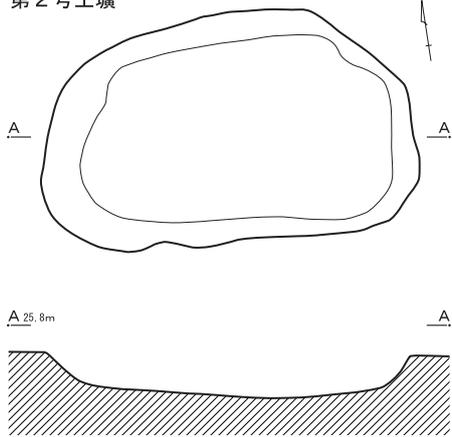
第9号土壙 (第54図)

B・C-7グリッドに位置し、第7号土壙を切っている。平面形は不定形を呈し、底面は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。規模は、長軸3.90m

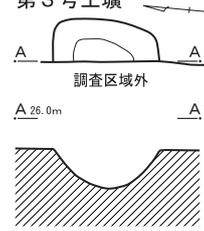
第1号土壤



第2号土壤



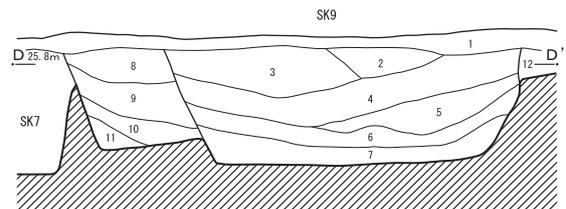
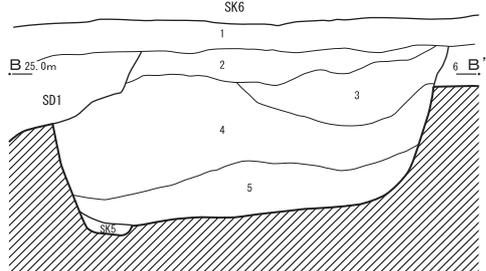
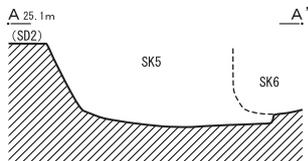
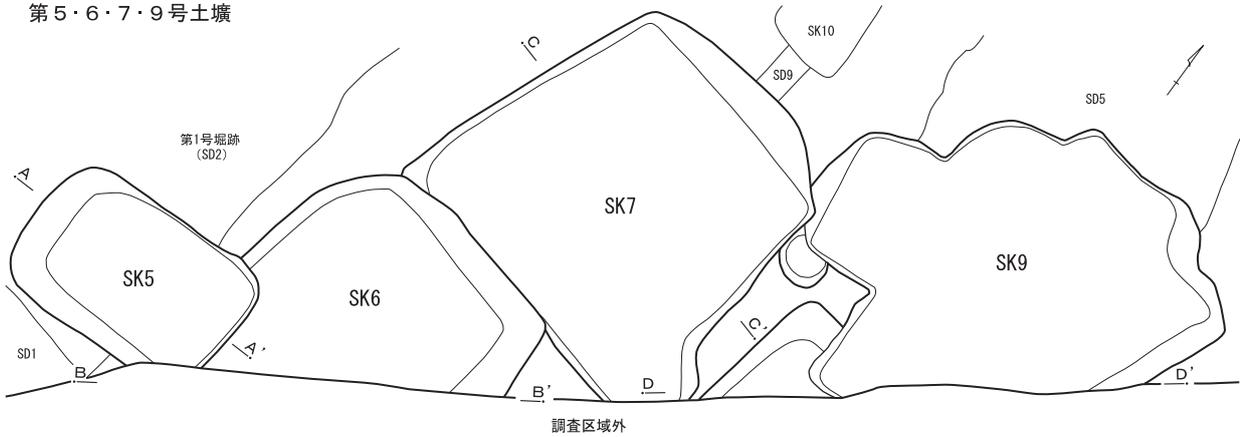
第3号土壤



第4号土壤



第5・6・7・9号土壤



- SK 6
- 1 暗緑灰色土 耕作土
 - 2 黒褐色土 ローム粒子を多量、炭化物粒子を少量含む
 - 3 黒褐色土 炭化物粒子を中量、ロームブロックを少量含む
 - 4 黄褐色土 ロームブロック主体
 - 5 黄褐色土 ロームブロック主体、炭化物粒子を少量含む
 - 6 暗褐色土 ローム粒子を少量含む

- SK 9
- 1 暗緑灰色土 耕作土
 - 2 暗灰色土 ローム粒子・炭化物粒子を少量含む
 - 3 暗灰色土 ローム粒子を多量、炭化物粒子を中量含む
 - 4 暗褐色土 ローム小ブロックを多量、炭化物粒子を中量含む
 - 5 暗褐色土 ローム小ブロック・炭化物粒子を少量含む
 - 6 黄褐色土 ロームブロック主体 炭化物粒子を少量含む
 - 7 暗黄褐色土 暗褐色土とロームブロックの互層
 - 8 暗灰色土 炭化物粒子を多量、ローム粒子を少量含む
 - 9 暗褐色土 ローム粒子を多量、炭化物粒子を少量含む
 - 10 暗褐色土 ローム小ブロック・炭化物粒子を少量含む
 - 11 黄褐色土 ロームブロック主体
 - 12 暗褐色土 ローム粒子を少量含む



第54図 土壤 (1)

以上、短軸 3.02 m、深さ 0.67 m を測る。主軸方位は $N-0^\circ$ を指す。遺物は近代瓦が出土した。

第 10 号土壙 (第 55 図)

B-7 グリッドに位置し、第 9 号溝跡と重複する。平面形は長方形を呈し、底面にピットがある。規模は、長軸 0.94 m、短軸 0.62 m、深さ 0.18 m を測る。主軸方位は $N-0^\circ$ を指す。遺物は出土していない。

第 11 号土壙 (第 55 図)

B-7 グリッドに位置し、第 9 号溝跡と重複する。平面形は長方形を呈し、底面は平坦である。規模は、長軸 0.90 m、短軸 0.44 m、深さ 0.18 m を測る。主軸方位は $N-90^\circ$ を指す。遺物は頭巻釘 (第 60 図 11) が出土した。

第 12 号土壙 (第 55 図)

B-7 グリッドに位置し、東半部は第 13 号土壙によって壊される。平面形は方形系と想定され、底面は平坦である。規模は、長軸 0.74 m 以上、短軸 0.77 m、深さ 0.28 m を測る。主軸方位は $N-90^\circ$ を指す。遺物は、西壁寄りから寛永通寶 (新寛永) 1 枚 (第 63 図 15) が出土した。

第 13 号土壙 (第 55 図)

B-7 グリッドに位置し、第 12・14 号土壙、第 9 号溝跡と重複する。平面形は長方形を呈し、断面箱形である。規模は、長軸 1.40 m、短軸 0.74 m、深さ 0.70 m を測る。主軸方位は $N-7^\circ-W$ を指す。遺物は出土していない。

第 14 号土壙 (第 55 図)

B-6・7、C-6 グリッドに位置し、第 13 号土壙、第 5・6・8・9 号溝跡と重複する。平面形は長方形を呈し、断面箱形である。規模は長軸 2.66 m、短軸 2.00 m、深さ 0.72 m を測る。主軸方位は $N-73^\circ-W$ を指す。

遺物は、かわらけ (第 60 図 1・2)、銭貨 5 枚 (第 63 図 10~14) が出土した。2 のかわらけはロクロ整形で、直線的に立ち上がり口唇部はやや尖る。16 世紀後半の所産と推定される。

銭貨は北壁寄りにまとまり、北宋銭 4 枚 (至道元寶、皇宋通寶、治平元寶、元豊通寶)、明銭 1 枚 (永樂通寶) を数える。土壙墓とした第 5 号土壙と比較すると一回り以上大きく、貯蔵施設などの性格を想定した方が良い。あるいは長辺の中央部に重なる第 13 号土壙を入口部とする地下式壙の可能性もあり得る。

第 15 号土壙 (第 55 図)

C-7 グリッドに位置し、東半部は調査区外にかかる。平面不定形で、規模は長軸 1.44 m、短軸 0.77 m 以上、深さ 0.16 m を測る。主軸方位は $N-50^\circ-E$ を指す。遺物はない。

第 16 号土壙 (第 55 図)

C・D-6 グリッドの調査区南端に位置する。東半部が調査区域外にかかるため平面形は明確でないが、楕円形と推定される。規模は長軸 1.42 m 以上、短軸 0.81 m、深さ 0.04 m を測る。主軸方位は $N-90^\circ$ を指す。遺物はない。

第 17 号土壙 (第 55 図)

C-6 グリッドに位置する。平面楕円形で、掘り込みが全体に浅い。規模は、長軸 1.06 m、短軸 0.84 m、深さ 0.06 m を測る。主軸方位は $N-90^\circ$ を指す。遺物は出土していない。

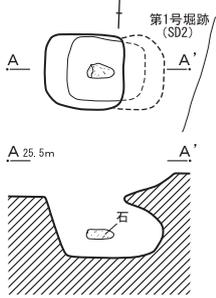
第 18 号土壙 (第 55 図)

D-6 グリッドの調査区南端に位置し、南半部は調査区域外にかかる。平面形は不定形を呈し、底面はほぼ平坦である。規模は、長軸 1.54 m 以上、短軸 1.43 m、深さ 0.74 m を測る。主軸方位は $N-0^\circ$ を指す。遺物は砥石 (第 60 図 7)、寛永通寶 (第 63 図 16) がある。寛永通寶は底面中央部北寄りから出土した。背面に「文」字をもつ、文銭である。江戸亀戸村で鑄銭された。

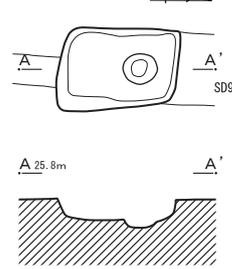
第 19 号土壙 (第 55 図)

C-6 グリッドに位置する。平面形は不定形を呈し、底面はほぼ平坦である。規模は、長軸 0.93 m、短軸 0.67 m、深さ 0.20 m を測る。主軸方位は $N-90^\circ$ を指す。遺物はない。

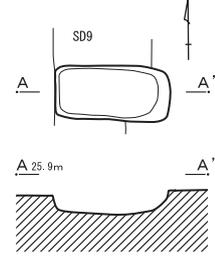
第8号土壇



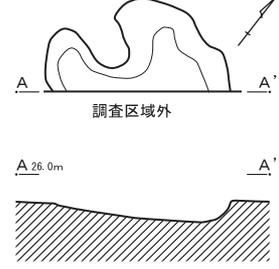
第10号土壇



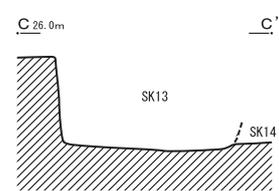
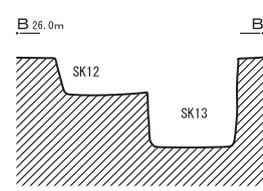
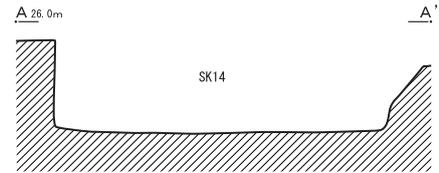
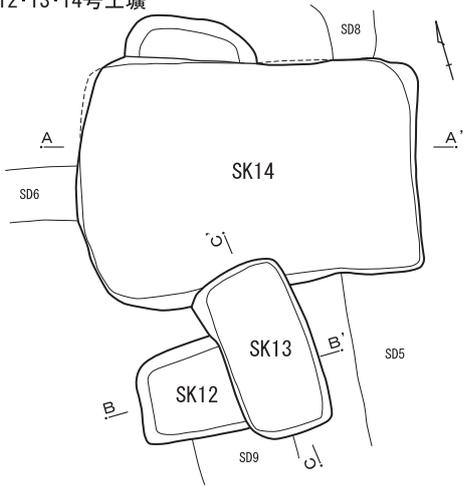
第11号土壇



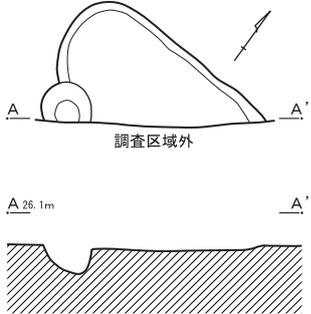
第15号土壇



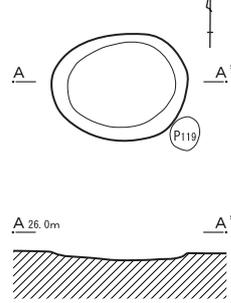
第12・13・14号土壇



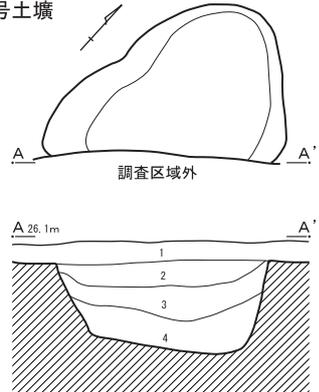
第16号土壇



第17号土壇

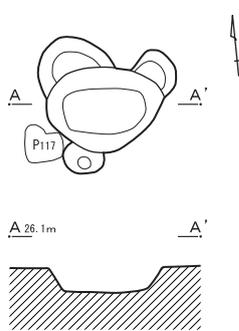


第18号土壇

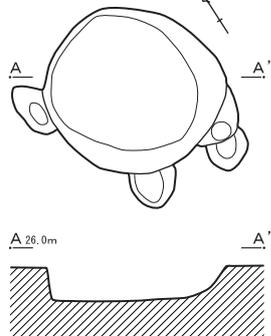


- SK18
- 1 暗緑灰色土 耕作土
 - 2 暗灰色土 暗灰色土とロームブロックの混合土
 - 3 暗黄褐色土 ロームブロック主体 暗灰色土を少量含む
 - 4 黄褐色土 ロームブロック主体

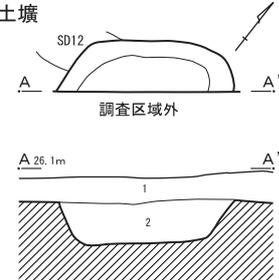
第19号土壇



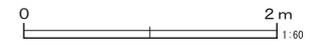
第20号土壇



第21号土壇



- SK21
- 1 暗緑灰色土 耕作土
 - 2 暗灰色土 暗灰色土とロームブロックの混合土 炭化物粒子を少量含む



第55図 土壇 (2)

第20号土壌 (第55図)

D-6グリッドに位置する。平面形は略円形を呈し、底面は平坦である。規模は、長軸1.42 m、短軸1.30 m、深さ0.27 mを測る。主軸方位はN-0°を指す。

遺物は瀬戸・美濃産の磁器端反碗(第60図5)、寛永通寶(第63図17)が出土した。寛永通寶は鉄一文銭である。

第21号土壌 (第55図)

D-6グリッドの調査区南端に位置し、第12号溝跡を切る。南半分は調査区外にかかり、平面形は楕円形と想定される。規模は、長軸1.37 m、短軸0.40 m以上、深さ0.33 mを測る。主軸方位はN-50°-Eを指す。遺物はない。

第22号土壌 (第56図)

D-5・6グリッドに位置する。平面形は五角形に近い不定形で、底面は平坦である。規模は、長軸1.39 m、短軸1.04 m、深さ0.22 mを測る。主軸方位はN-90°を指す。

遺物は瓦質の焙烙片と砥石(第60図8)が出土した。

第23号土壌 (第56図)

D-6グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、底面はほぼ平坦である。規模は、長軸0.65 m、短軸0.53 m、深さ0.54 mを測る。主軸方位はN-55°-Wを指す。遺物は出土していない。

第24号土壌 (第56図)

D-5・6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、掘り込みが浅い。規模は、長軸0.97 m、短軸0.76 m、深さ0.08 mを測る。主軸方位はN-90°を指す。遺物は出土していない。

第25号土壌 (第56図)

D-6グリッドの調査区南端の東寄りに位置し、南半部は調査区域外にかかる。平面形は不定形で、浅く掘り込む。規模は、長軸1.47 m、短軸0.54 m以上、深さ0.05 mを測る。主軸方位はN-50°-Eを指す。遺物はない。

第26号土壌 (第56図)

D・E-5グリッドに位置し、第2号井戸跡、第13号溝跡と重複する。平面形は凸字形に近い不定形である。規模は、長軸4.38 m、短軸1.76 m、深さ0.08 mを測る。主軸方位はN-90°を指す。遺物は近代瓦が出土した。

第27号土壌 (第56図)

E-5グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、底面は概ね平坦である。規模は、長軸1.03 m、短軸0.87 m、深さ0.13 mを測る。主軸方位はN-0°を指す。遺物は出土していない。

第28号土壌 (第56図)

E・D-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、底面にピットが穿たれる。規模は、長軸1.34 m、短軸1.02 m、深さ0.09 mを測る。主軸方位はN-45°-Eを指す。遺物は陶器花瓶(第60図6)が出土した。古瀬戸後IV期古段階か。

第29号土壌 (第56図)

D-5グリッドに位置し、第30号土壌に接する。平面形は不定形を呈し、底面に段差を設ける。規模は、長軸0.86 m、短軸0.84 m、深さ0.28 mを測る。主軸方位はN-27°-Wを指す。

遺物は瀬戸・美濃産の灰釉の掛かった陶器捏鉢(第60図9)が出土した。

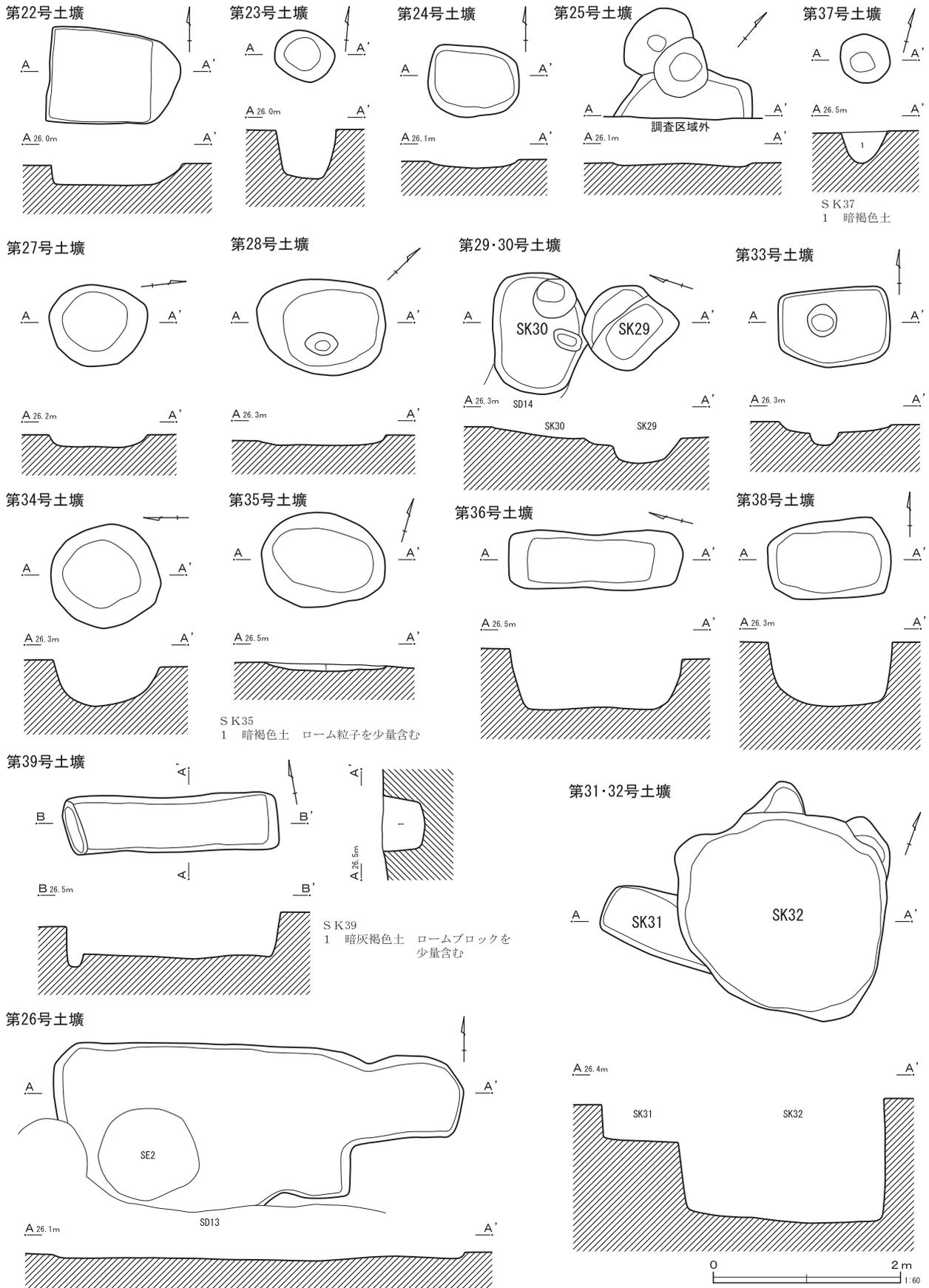
第30号土壌 (第56図)

D-5グリッドに位置し、第29号土壌、第14号溝跡と重複する。平面形は楕円形を呈し、掘り込みは浅い。規模は、長軸1.30 m、短軸0.99 m、深さ0.09 mを測る。主軸方位はN-70°-Eを指す。

遺物は陶器香炉の破片が出土した。

第31号土壌 (第56図)

D-5グリッドに位置する。第32号土壌と重複するため全容は不明であるが、平面長方形と想定される。規模は、長軸0.88 m以上、短軸0.68 m、深さ0.42 mを測る。主軸方位はN-88°-Wを指す。遺物は出土していない。



第56図 土壌 (3)

第32号土壙 (第56図)

D-5グリッドに位置し、第31号土壙と重複する。平面形は不定形を呈し、底面は平坦である。規模は、長軸2.41m、短軸2.25m、深さ1.30mを測る。主軸方位はN-46°-Wを指す。

遺物は、陶磁器類の灯明受皿・碗・皿・土瓶・播鉢、焙烙、砥石、鉄製品(第60・61図12~27)などがまとめて出土した。陶磁器はいずれも19世紀代の所産である。27の砥石は西に位置する第58号土壙出土の砥石と接合した。

第33号土壙 (第56図)

E-4グリッドに位置する。平面長方形を呈し、底面の西寄りにピットを有する。規模は、長軸1.20m、短軸0.84m、深さ0.12mを測る。主軸方位はN-90°を指す。遺物は出土していない。

第34号土壙 (第56図)

D・E-4グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、底面は鍋底状である。規模は、長軸1.14m、短軸1.11m、深さ0.46mを測る。主軸方位はN-0°を指す。遺物は出土していない。

第35号土壙 (第56図)

D・E-4グリッドに位置する。平面形は楕円形で、皿状を呈する。規模は、長軸1.30m、短軸1.00m、深さ0.08mを測る。主軸方位はN-75°-Eを指す。遺物は出土していない。

第36号土壙 (第56図)

D-4グリッドに位置する。平面形は長方形で、底面は概ね平坦である。規模は、長軸1.84m、短軸0.63m、深さ0.64mを測る。主軸方位はN-14°-Wを指す。遺物は出土していない。

第37号土壙 (第56図)

D-4グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。規模は、長軸0.52m、短軸0.52m、深さ0.33mを測る。主軸方位はN-0°を指す。

遺物は出土していない。

第38号土壙 (第56図)

E-4グリッドに位置する。平面形は楕円形で、

底面は概ね平坦である。規模は、長軸1.13m、短軸0.84m、深さ0.70mを測る。主軸方位はN-90°を指す。遺物は出土していない。

第39号土壙 (第56図)

D-4グリッドに位置する。平面形は長方形で、西端部の底面は一段深く掘り込まれる。規模は、長軸2.28m、短軸0.61m、深さ0.46mを測る。主軸方位はN-80°-Wを指す。

遺物は陶器碗の破片が出土した。

第41号土壙 (第57図)

C-5グリッドに位置する。平面形は略円形で、浅く皿状に掘り込む。規模は、長軸1.44m、短軸1.24m、深さ0.20mを測る。主軸方位はN-0°を指す。遺物は出土していない。

第42号土壙 (第57図)

C-5グリッドに位置する。第1号堀跡(SD11)が完全に埋没した段階に掘り込まれたと考えられる。平面形は円形系で、断面皿状である。規模は、長軸1.47m、短軸0.67m以上、深さ0.25mを測る。主軸方位はN-6°-Eを指す。

遺物はかわらけ、陶器皿、磁器碗・皿、播鉢(第62図29~37)等が出土した。時期は18世紀前半から中頃を中心とする。

第43号土壙 (第57図)

C・D-5グリッドに位置する。平面形は長方形で、断面箱形である。規模は、長軸1.96m、短軸0.56m、深さ0.40mを測る。主軸方位はN-85°-Wを指す。遺物は磁器染付碗片が出土した。

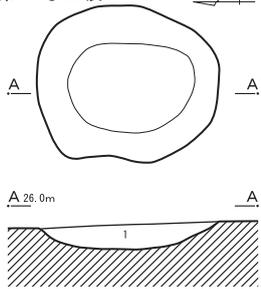
第44号土壙 (第58図)

C-4・5グリッドに位置する。第75号土壙と重複するが新旧関係は不明。平面形は楕円形で、断面皿状を呈する。規模は、長軸1.32m、短軸1.06m、深さ0.20mを測る。主軸方位はN-0°を指す。遺物は出土していない。

第45号土壙 (第57図)

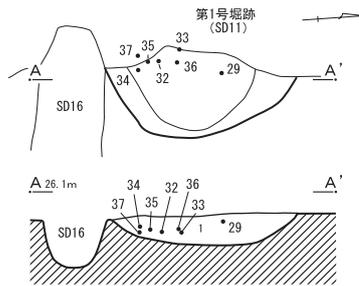
B-6グリッドに位置し、第4号溝跡と重複する。平面形は長方形で、規模は長軸3.47m以上、

第41号土壌



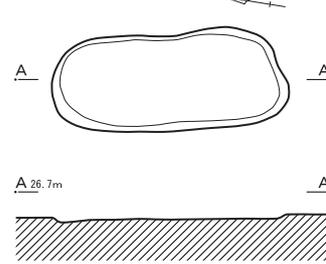
SK41
 1 暗褐色土 ロームブロックを多量、炭化物粒子を少量含む
 SK42
 1 暗灰褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を少量含む

第42号土壌

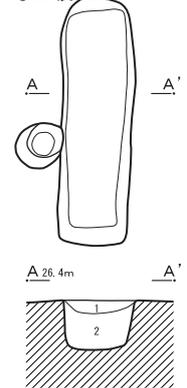


SK43
 1 暗褐色土 ローム小ブロック・同粒子を少量含む
 2 暗褐色土 ロームブロックを多量、炭化物粒子を少量含む

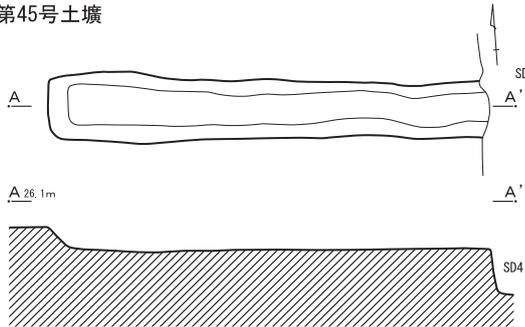
第48号土壌



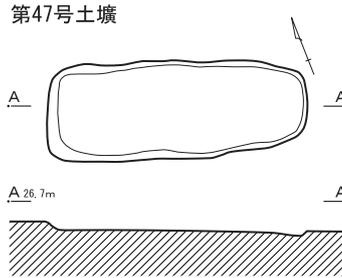
第43号土壌



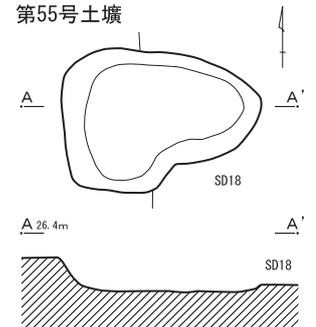
第45号土壌



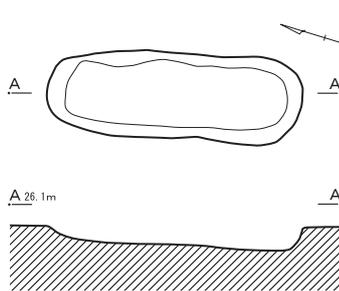
第47号土壌



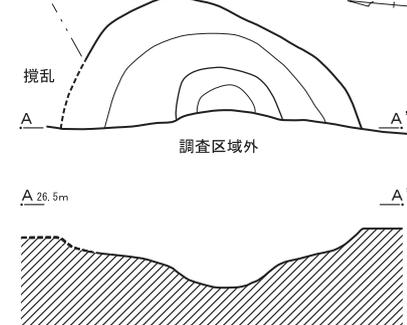
第55号土壌



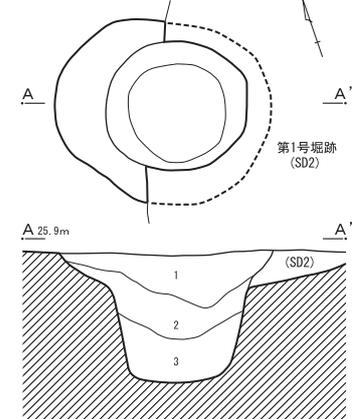
第49号土壌



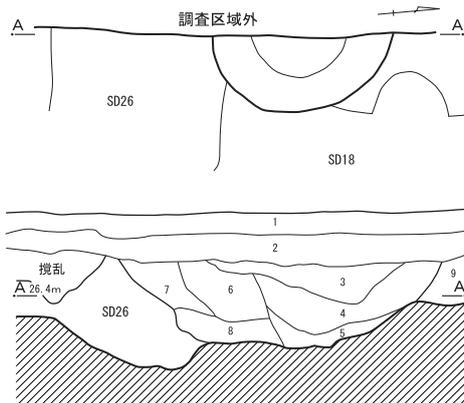
第57号土壌



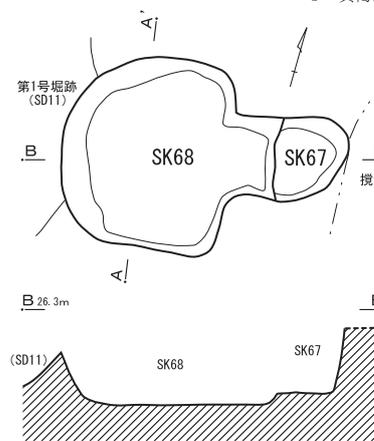
第46号土壌



第56号土壌



第67・68号土壌



SK46
 1 暗灰褐色土 ローム小ブロック・炭化物粒子を少量含む
 2 暗灰褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を少量含む
 3 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む

SK68
 1 暗褐色土 ローム粒子を含む
 2 暗褐色土 ロームブロックを少量含む
 3 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む



第57図 土壌 (4)

短軸0.55 m、深さ0.18 mを測る。主軸方位はN-86°-Wを指す。遺物は出土していない。

第46号土壙 (第57図)

B-6グリッドに位置し、第1号堀跡(SD2)と重複する。平面形は楕円形を呈し、断面漏斗状である。規模は、長軸1.51 m以上、短軸1.43 m、深さ1.00 mを測る。主軸方位はN-70°-Wを指す。

遺物は焙烙片が出土しただけである。

第47号土壙 (第57図)

調査区北端のD-0グリッドに位置する。平面形は長方形で、底面は平坦である。規模は、長軸2.05 m、短軸0.76 m、深さ0.06 mを測る。主軸方位はN-70°-Wを指す。遺物はない。

第48号土壙 (第57図)

調査区北端のD-0グリッドに位置し、第47号土壙に近接する。平面形は楕円形で、浅く掘り込まれる。規模は、長軸1.84 m、短軸0.80 m、深さ0.04 mを測る。主軸方位はN-10°-Wを指す。遺物は出土していない。

第49号土壙 (第57図)

調査区北端のD-0グリッドに位置し、第48号土壙と軸を揃える。平面形は楕円形を呈し、底面はやや凹凸がある。規模は、長軸2.00 m、短軸0.67 m、深さ0.19 mを測る。主軸方位はN-15°-Wを指す。遺物は出土していない。

第50号土壙 (第59図)

B-5・6グリッドに位置し、第51号土壙と一部接している。平面形は長方形を呈し、底面は概ね平坦である。規模は、長軸2.16 m以上、短軸0.76 m、深さ0.22 mを測る。主軸方位はN-4°-Eを指す。遺物は出土していない。

第51号土壙 (第59図)

B-5グリッドに位置する。第17号溝跡と重複し、一部壊される。平面形は長方形で、中央部の底面に段差を作る。規模は、長軸4.90 m、短軸0.75 m、深さ0.35 mを測る。主軸方位はN-

87°-Wを指す。遺物は出土していない。

第52号土壙 (第58図)

B-5グリッドに位置する。第17号溝跡と重複し、大半が壊される。平面形は楕円形と想定される。規模は、長軸1.20 m、短軸0.60 m、深さ0.17 mを測る。主軸方位はN-0°を指す。

遺物は出土していない。

第53号土壙 (第58図)

C-4・5、B-5グリッドに位置し、第54号土壙、第17号溝跡と重複する。平面形は長方形を呈し、底面は平坦である。規模は、長軸2.97 m、短軸0.58 m、深さ0.17 mを測る。主軸方位はN-4°-Eを指す。遺物はない。

第54号土壙 (第58図)

B・C-4・5グリッドに位置する。東端部で第53号土壙と重複する。平面形は長方形で、底面は平坦である。規模は、長軸1.76 m以上、短軸0.64 m、深さ0.26 mを測る。主軸方位はN-83°-Wを指す。遺物は出土していない。

第55号土壙 (第57図)

調査区西際中央部のA-4グリッドに位置し、第18号溝跡と重複する。平面形は不定形で、長軸1.56 m、短軸1.14 m、深さ0.26 mを測る。主軸方位はN-90°を指す。遺物はない。

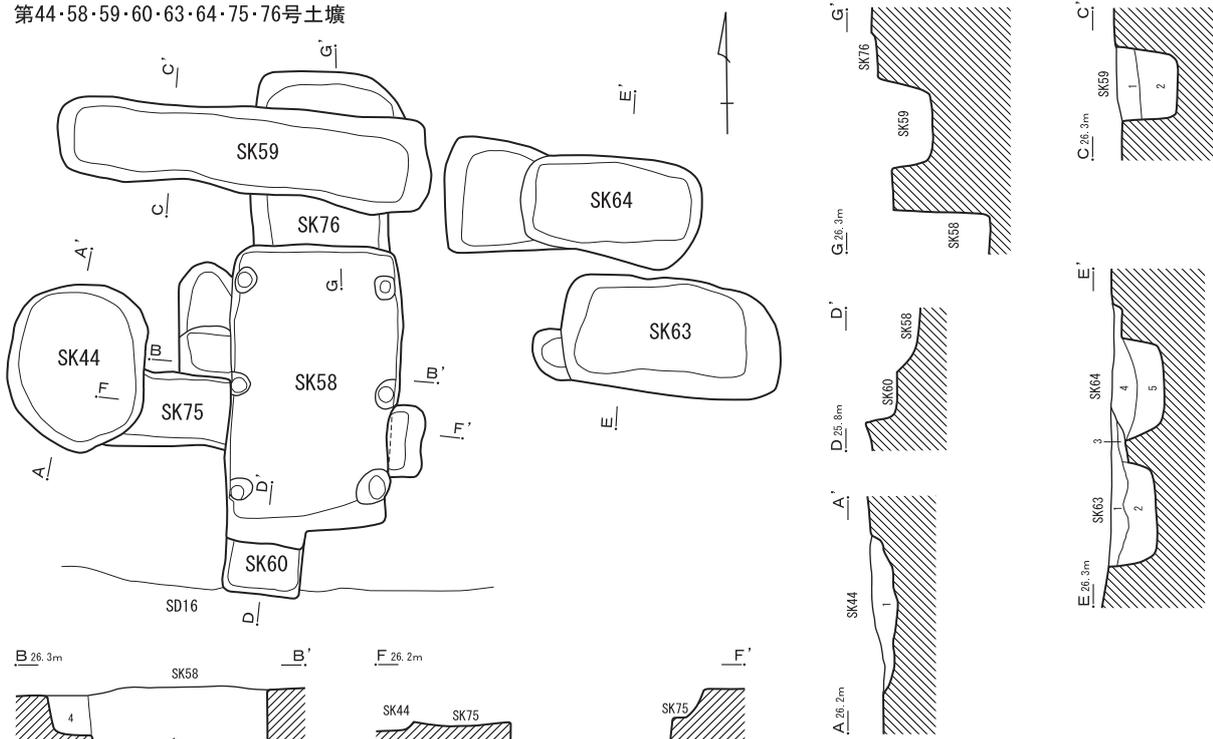
第56号土壙 (第57図)

調査区西際北部のA-2グリッドに位置し、第26号溝跡を切っている。西半部は調査区域外にかかり、平面形は円形と想定される。断面は鍋底状を呈する。規模は、長軸1.42 m、短軸0.60 m以上、深さ0.66 mを測る。主軸方位はN-0°を指す。遺物は出土していない。

第57号土壙 (第57図)

A・B-2グリッドに位置し、西半部は調査区域外にかかる。平面形は円形を呈し、断面は二段に掘り込む。規模は、長軸2.33 m、短軸0.99 m以上、深さ0.44 mを測る。主軸方位はN-0°を指す。遺物は出土していない。

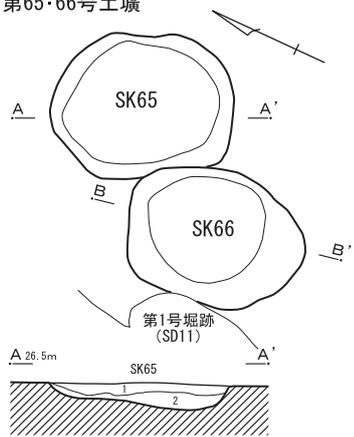
第44・58・59・60・63・64・75・76号土壌



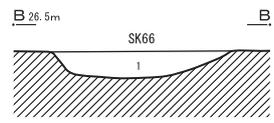
- S K 58
- 1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子・炭化物粒子を少量含む
 - 2 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む
 - 3 黒褐色土 炭化物粒子を多量に含む
 - 4 暗褐色土 ロームブロック・同粒子を多量に含む

- S K 44
- 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を少量含む
- S K 59
- 1 暗褐色土 ロームブロック・炭化物粒子を少量含む
 - 2 暗褐色土 ロームブロック・同粒子を中量含む
- S K 63・64
- 1 黄褐色土 ロームブロック主体 暗灰褐色土を帯状に含む
 - 2 暗灰褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を少量含む
 - 3 暗黄褐色土 ローム粒子を多量に含む
 - 4 暗褐色土 ローム小ブロック・炭化物粒子を少量含む
 - 5 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を少量含む

第65・66号土壌

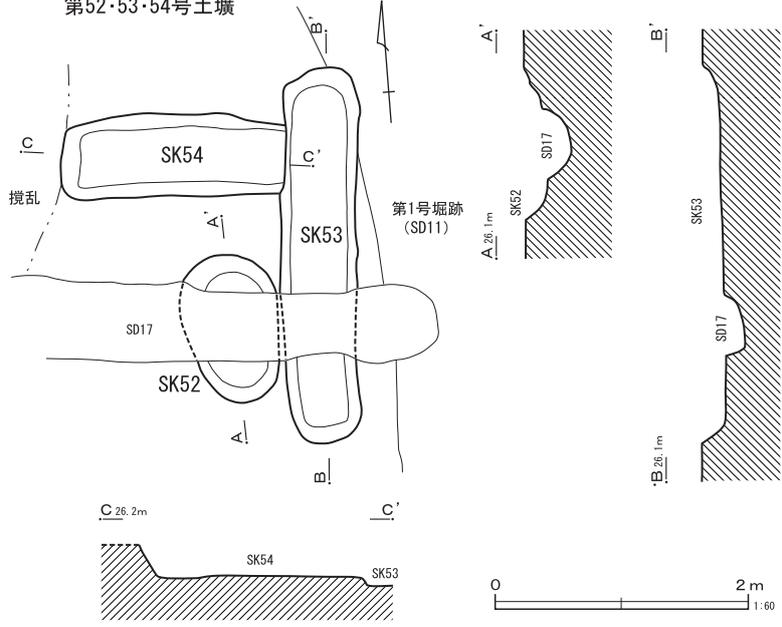


- S K 65
- 1 暗灰褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を少量含む
 - 2 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む



- S K 66
- 1 暗褐色土 暗褐色土とロームブロックの混合土

第52・53・54号土壌



第58図 土壌 (5)

第58・60号土壙 (第58図)

C-4・5グリッドに位置し、第75・76号土壙と重複する。第58号土壙は、長軸2.28 m、短軸1.31 mの平面長方形を呈し、深さ0.94 mを測る。南側短辺西寄りには長軸0.60 m、短軸0.42 mの平面方形の第60号土壙が接続し、階段状の入口部を構成する。底面は概ね平坦で、長辺側の壁際に6本の小柱穴が等間隔に並び、上屋構造を備えることから室跡と想定される。

遺物は陶磁器、焙烙等の破片と、砥石(第61図28)が出土した。砥石は前述したように第32号土壙出土の砥石(同図27)と接合した。

第59号土壙 (第58図)

C-4グリッドに位置し、第76号土壙と重複する。平面形は長方形で、断面箱形を呈する。規模は、長軸2.97 m、短軸0.69 m、深さ0.48 mを測る。主軸方位はN-81°-Wを指す。

遺物は焙烙の破片が出土した。

第61号土壙 (第59図)

B-5グリッドに位置する。平面形は長方形を呈し、底面は平坦である。規模は、長軸1.23 m、短軸0.63 m、深さ0.15 mを測る。主軸方位はN-0°を指す。遺物は出土していない。

第63号土壙 (第58図)

C-4・5、D-5グリッドに位置し、第64号土壙を切る。平面形は長方形で、断面箱形を呈する。規模は、長軸1.74 m、短軸0.92 m、深さ0.36 mを測る。主軸方位はN-85°-Wを指す。

遺物は磁器碗、播鉢の破片が出土した。

第64号土壙 (第58図)

C-4グリッドに位置し、南側の第63号土壙に切られる。平面形は長方形の土壙が重なる不定形を呈し、底面に段差をもつ。規模は、長軸2.04 m、短軸0.81 m、深さ0.41 mを測る。主軸方位はN-81°-Wを指す。遺物はない。

第65号土壙 (第58図)

C-3・4グリッドに位置し、第66号土壙と

接する。平面形は略円形を呈し、皿状に掘り込む。規模は、長軸1.45 m、短軸1.16 m、深さ0.20 mを測る。主軸方位はN-25°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第66号土壙 (第58図)

C-4グリッドに位置し、第65号土壙、第1号堀跡(SD11)と接する。平面形は略円形を呈し、皿状に掘り込まれる。規模は、長軸1.42 m、短軸1.06 m、深さ0.21 mを測る。主軸方位はN-12°-Wを指す。遺物は出土していない。

第67・68号土壙 (第57図)

C-4グリッドに位置し、第1号堀跡(SD11)と重複する。平面凸字形の第68号土壙に竪坑状の第67号土壙が接続し、小規模な地下式壙を構成する。第68号土壙は、長軸1.68 m、短軸1.53 m、深さ0.52 mを測る。主軸方位はN-74°-Eを指す。第67号土壙は、長軸0.56 m、短軸0.54 m、深さ0.51 mを測る。

遺物は第67号土壙に縄文土器が混入していた。

第69号土壙 (第59図)

E-2・3グリッドに位置し、第30号溝跡と重複する。平面形は長方形に近く、底面は北に緩やかに傾斜する。規模は、長軸2.12 m、短軸0.76 m、深さ0.86 mを測る。主軸方位はN-7°-Wを指す。遺物はかわらけ片が出土した。

第70号土壙 (第59図)

E-4グリッドに位置する。平面形はピットが重複したような不定形を呈する。規模は、長軸0.95 m、短軸0.75 m、深さ0.54 mを測る。主軸方位はN-14°-Eを指す。

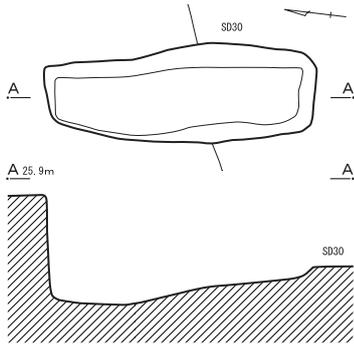
遺物は磁器碗の破片が出土した。

第71号土壙 (第59図)

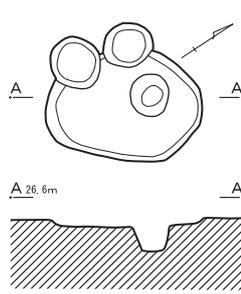
第23号溝跡南側のD-3グリッドに位置する。長軸2.86 m、短軸1.05 m、深さ0.26 mの大きな長方形の土壙である。主軸方位はN-90°を指す。

遺物は磁器碗の破片が出土しただけである。

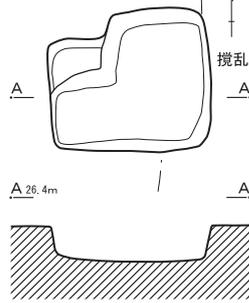
第69号土壇



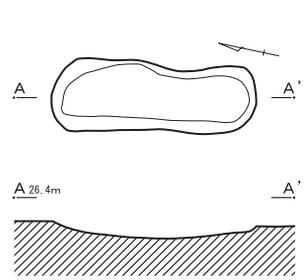
第72号土壇



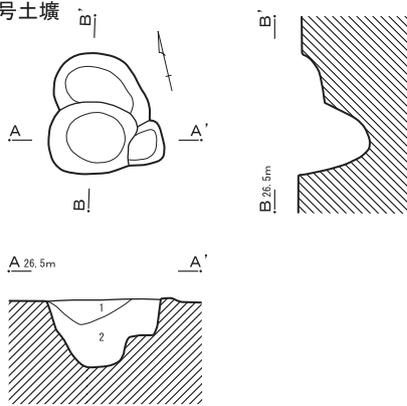
第73号土壇



第74号土壇

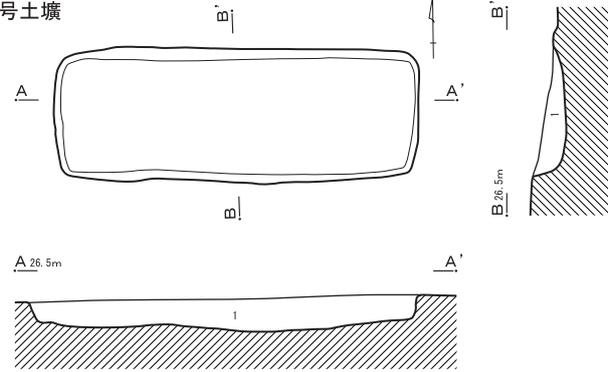


第70号土壇



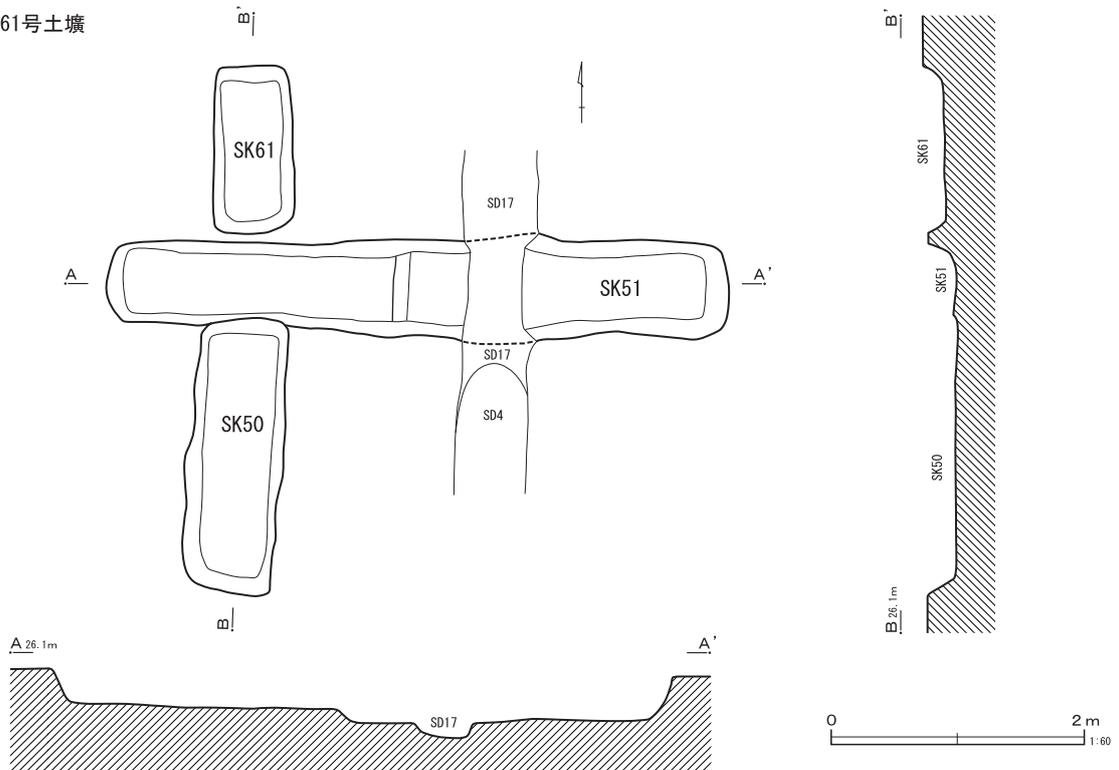
SK70
 1 黒褐色土 黒褐色土とロームブロックの混合土
 2 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む

第71号土壇



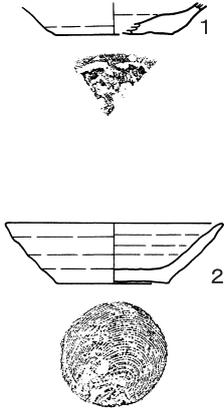
SK71
 1 黒褐色土 黒褐色土とロームブロックの混合土

第50・51・61号土壇

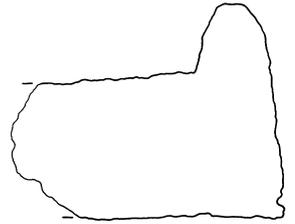
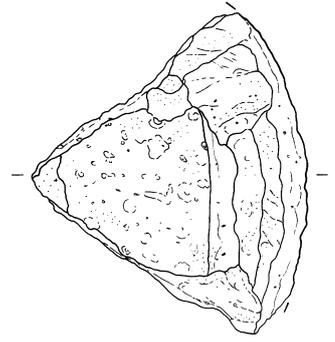
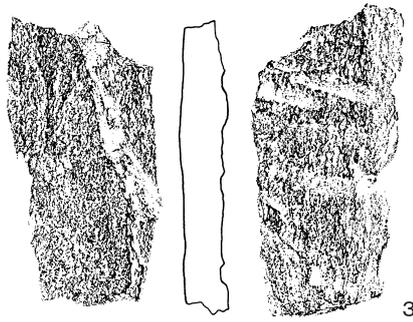


第59図 土壇 (6)

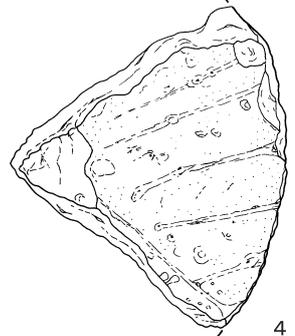
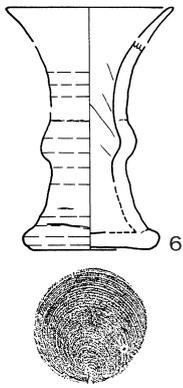
SK14



SK5



SK28



SK20



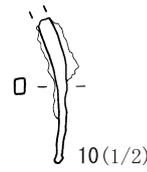
SK18



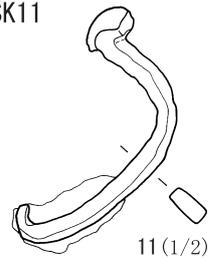
SK29



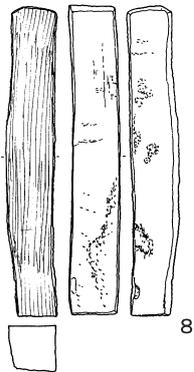
SK7



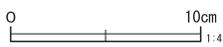
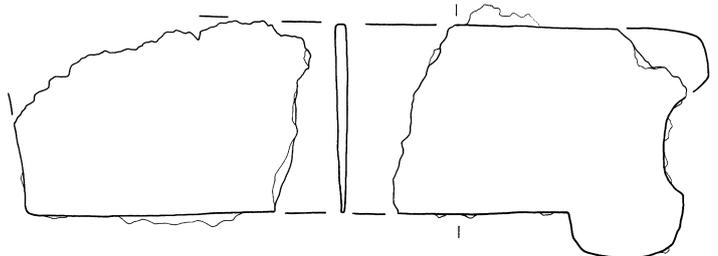
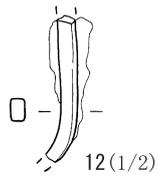
SK11



SK22

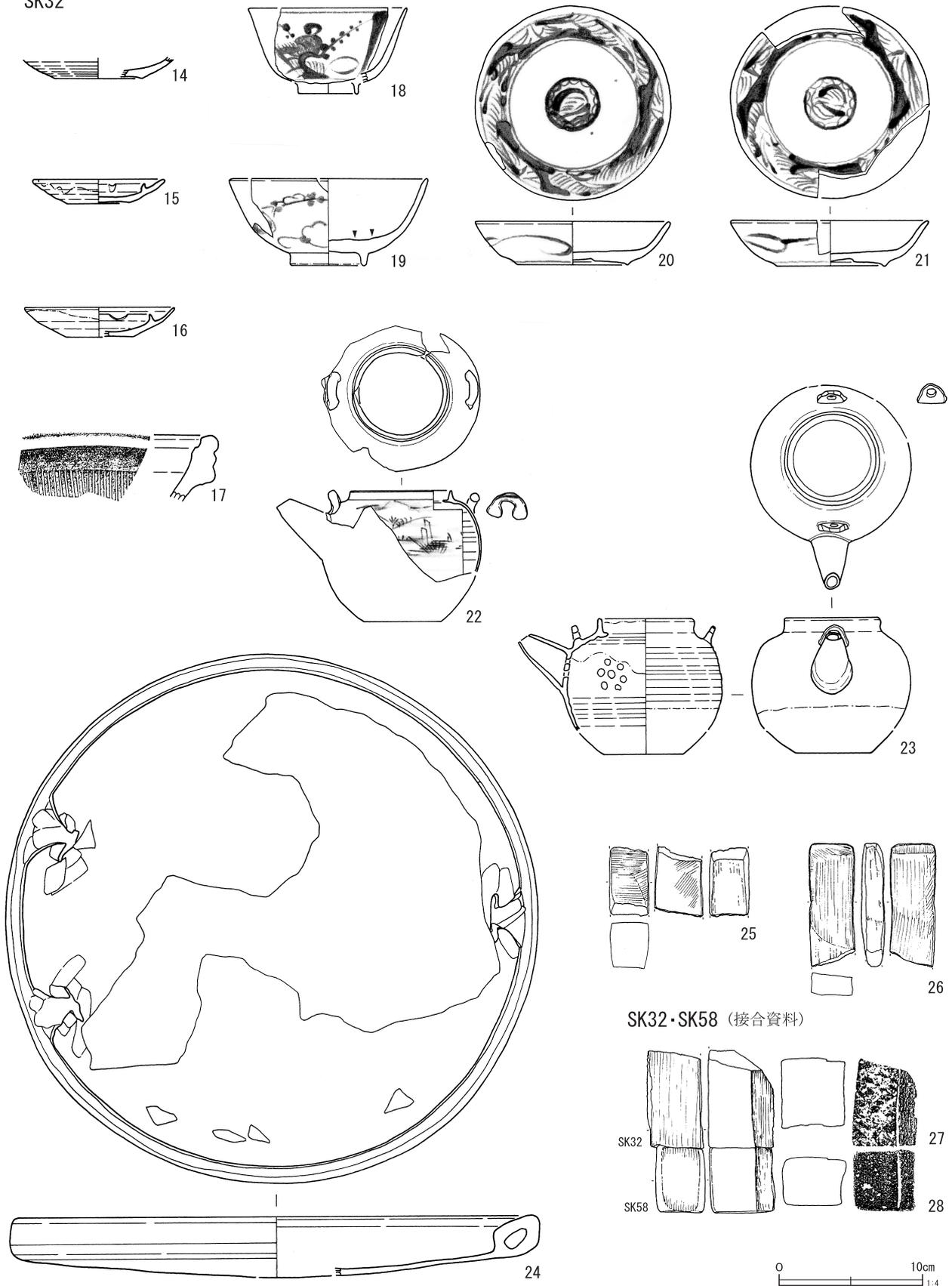


SK32



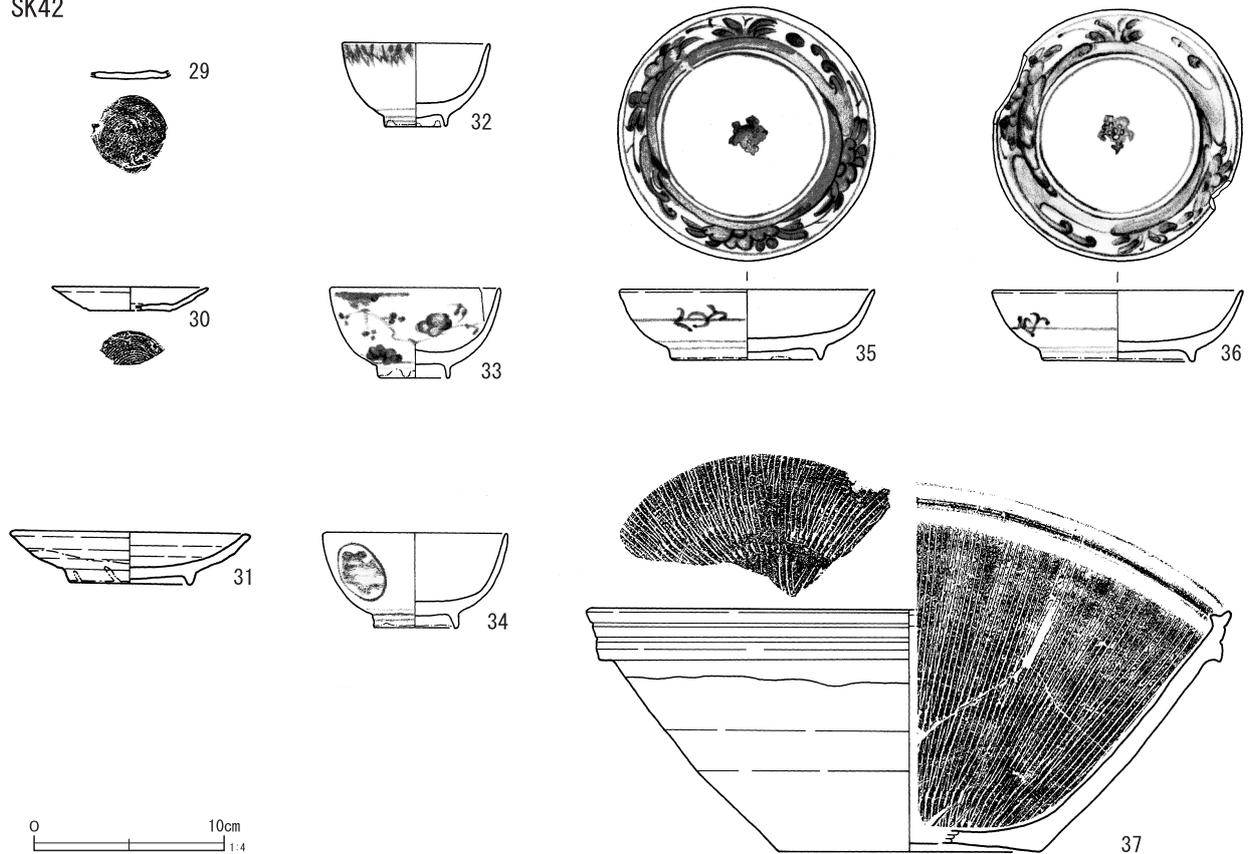
第60图 土壙出土遺物 (1)

SK32



第61図 土壙出土遺物 (2)

SK42



第62図 土壇出土遺物(3)

第72号土壇 (第59図)

D-4グリッドに位置する。平面形は略円形の土壇にピットが重複した形態で、皿状に浅く掘り込まれる。規模は、長軸1.23 m、短軸0.87 m、深さ0.06 mを測る。主軸方位はN-34°-Eを指す。遺物は出土していない。

第73号土壇 (第59図)

D-4グリッドに位置する。平面形はL字形に近い不定形で、底面は平坦である。規模は、長軸1.29 m、短軸1.14 m、深さ0.28 mを測る。主軸方位はN-0°を指す。

遺物は挿鉢の破片が出土しただけである。

第74号土壇 (第59図)

E-1グリッドに位置する。調査時は第25号溝跡として調査したが、土壇番号に振り替えた。平面形は楕円形を呈し、浅く皿状に掘り込む。規

模は、長軸1.62 m、短軸0.54 m、深さ0.12 mを測る。主軸方位はN-11°-Wを指す。

遺物は出土していない

第75号土壇 (第58図)

C-5グリッドに位置し、第44・58号土壇と重複する。平面形は長方形と想定され、底面は概ね平坦である。規模は、長軸2.21 m以上、短軸0.58 m、深さ0.22 mを測る。主軸方位はN-81°-Wを指す。遺物は出土していない。

第76号土壇 (第58図)

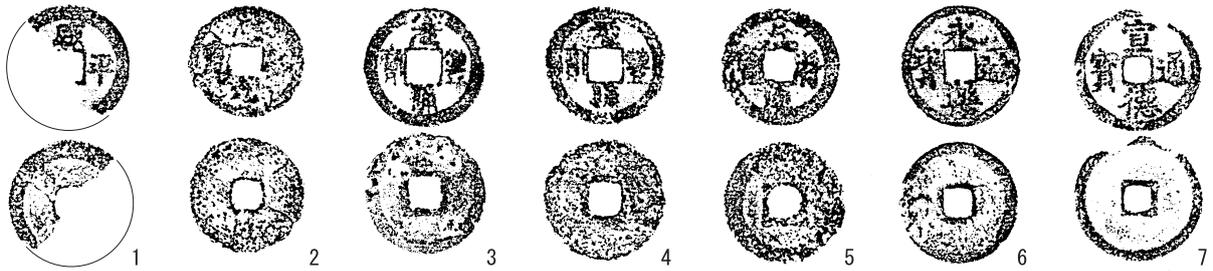
C-4グリッドに位置し、第58・59号土壇と重複する。平面形は長方形と想定され、掘り込みは全体に浅い。規模は、長軸1.40 m以上、短軸1.03 m、深さ0.05 mを測る。主軸方位はN-0°を指す。

遺物は出土していない。

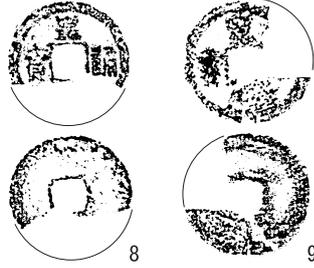
第11表 土壌出土遺物観察表

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考
第60図 1	S K 14	かわらけ	皿		[1.7]	(6.0)	20	A・F・G・J	普通	橙	ロクロ整形 底部回転糸切り離し
第60図 2	S K 14	かわらけ	皿	(11.2)	3.2	5.9	70	A・F・G・J	普通	橙	ロクロ整形 底部回転糸切り離し 16世紀後半
第60図 3	S K 5	石製品	板碑	残存長16.7cm 残存幅7.5cm 厚さ2.5cm 重さ436.7g 裏面に鑿痕を残す 被熱により赤変							
第60図 4	S K 5	石製品	石臼	上白 上縁からくぼみにかけての破片で、供給孔の一部を残す 主溝と副溝5条残存 復元径23.5cm 厚さ7.5cm 縁幅3.8cm 縁高4.0cm 重さ2110.2g 安山岩製							
第60図 5	S K 20	磁器	端反碗	7.8	6.1	3.7	55	A・G	良好	灰白	瀬戸・美濃産 19世紀中頃～後半 草花文
第60図 6	S K 28	陶器	花瓶		[11.2]	6.2	80	A・C・G・J	普通	褐灰	古瀬戸後Ⅳ期 鉄釉 二次被熱痕あり 底部回転糸切り離し 15世紀後半
第60図 7	S K 18	石製品	砥石	長さ5.2cm 幅3.5cm 厚さ0.7cm 重さ19.5g 凝灰岩製							
第60図 8	S K 22	石製品	砥石	長さ16.5cm 幅2.7cm 厚さ2.7cm 重さ200.6g 凝灰岩製							
第60図 9	S K 29	陶器	捏鉢	(18.8)	[6.8]		25	A・G・J	良好	灰白	瀬戸・美濃産 19世紀 内外面灰釉
第60図 10	S K 7	鉄製品	和釘	現存長3.9cm 断面矩形0.4×0.3cm 重さ1.9g 脚部しの字形に屈曲							
第60図 11	S K 11	鉄製品	頭巻釘	長さ6.8cm 断面矩形1.1×0.5cm 重さ21.3g くの字に大きく屈曲する							
第60図 12	S K 32	鉄製品	和釘	現存長3.9cm 断面矩形0.6×0.4cm 重さ3.3g							
第60図 13	S K 32	鉄製品	板状品	包丁の様な形状であるが、端部に丸い割り込みをもつ 用途不明 厚さ0.3cm 重さ44.2g							
第61図 14	S K 32	陶器	土瓶		[1.5]	(6.0)	20	A・F・G・J	普通	黒褐	底部回転ヘラケズリ
第61図 15	S K 32	陶器	灯明受皿	9.0	1.7	4.4	80	A・G・J	良好	灰白	瀬戸・美濃産 19世紀中頃～後半 鉄釉 外面重ね焼き痕
第61図 16	S K 32	陶器	灯明受皿	(10.3)	2.1	(4.5)	40	A・G・J	良好	灰白	信楽産 18世紀後半～19世紀前半 灰釉 貫入あり
第61図 17	S K 32	陶器	播鉢				破片	A・C・G・J	良好	鈍い赤褐	堺産 19世紀 卸目9本/条
第61図 18	S K 32	磁器	碗	(11.0)	[5.2]		25	A・G	良好	灰白	肥前産 19世紀 外面梅樹文
第61図 19	S K 32	磁器	碗	(13.6)	6.1	5.2	40	A・G	良好	灰黄	肥前産 19世紀 外面唐草文 見込み蛇の目釉剥ぎ
第61図 20	S K 32	磁器	皿	13.4	3.1	7.7	100	A・G	良好	灰白	瀬戸・美濃産 19世紀前半
第61図 21	S K 32	磁器	皿	13.6	3.2	7.4	80	A・G	良好	灰白	瀬戸・美濃産 19世紀前半
第61図 22	S K 32	陶器	山水土瓶	6.8	[5.7]		40	A・G・J	良好	灰白	19世紀後半 白化粧を施し、緑釉・ 鉄釉の山水文 耳粘土紐貼付
第61図 23	S K 32	陶器	土瓶	6.5	[8.0]		85	A・G	良好	鈍い橙	熊井焼(鳩山町) 鉄釉 19世紀後半
第61図 24	S K 32	土器	焙烙	35.8	4.2		70	A・B・F・J	良好	鈍い赤褐	底部丸底 口縁部外面スス付着 型作り 耳3ヶ所
第61図 25	S K 32	石製品	砥石	長さ4.9cm 幅3.4cm 厚さ2.7cm 重さ76.8g 凝灰岩製							
第61図 26	S K 32	石製品	砥石	長さ8.7cm 幅3.2cm 厚さ1.7cm 重さ79.4g 凝灰岩製							
第61図 27	S K 32	石製品	砥石	長さ6.9cm 幅4.6cm 厚さ3.8cm 重さ211.5g 凝灰岩製 S K 58のNo28と接合							
第61図 28	S K 58	石製品	砥石	長さ4.8cm 幅4.5cm 厚さ3.5cm 重さ149.9g 凝灰岩製 S K 32のNo27と接合							
第62図 29	S K 42	かわらけ	皿			(4.3)	底部	B・G・J	良好	黒褐	底部回転糸切り離し 内面油煙付着 灯明皿として使用
第62図 30	S K 42	かわらけ	小皿	(8.1)	1.3	(4.2)	20	A・D・F・G	普通	橙	近世 底部回転糸切り離し
第62図 31	S K 42	陶器	皿	12.1	3.3	6.5	95	A・G・J	良好	灰黄	瀬戸・美濃産 18世紀前半～中頃 灰釉 重ね焼き痕 削り出し高台
第62図 32	S K 42	磁器	碗	7.6	4.4	3.2	80	A・G	良好	灰白	肥前産 18世紀後半 型紙刷りの 雨降り文
第62図 33	S K 42	磁器	碗	8.8	4.8	3.7	85	A・G	良好	灰白	肥前産 18世紀前半 外面梅樹文
第62図 34	S K 42	磁器	碗	9.4	5.0	4.3	95	A・G	良好	灰白	肥前産 18世紀前半 外面3単位 の文様
第62図 35	S K 42	磁器	皿	13.3	3.8	7.8	100	A・G	良好	灰白	肥前産 18世紀中頃 内面草花文 外面草花繫ぎ 見込み五弁花
第62図 36	S K 42	磁器	皿	12.9	3.8	7.8	95	A・G	良好	灰白	肥前産 18世紀中頃 内面草花文 外面草花繫ぎ 見込み五弁花
第62図 37	S K 42	陶器	播鉢	(33.6)	13.0	(14.0)	25	A・C・G・K	良好	橙	堺産 19世紀 卸目9本/条 内面 平滑 第1号堀跡(SD21)一部接合

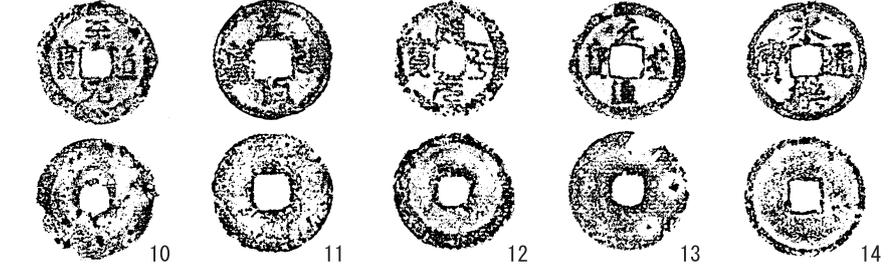
SK5



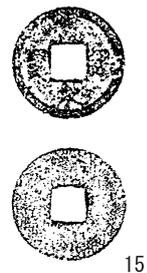
SK6



SK14



SK12



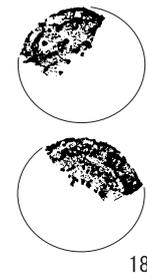
SK18



SK20



SK58



0 5 cm 2:3

第63図 土壇出土銭貨

第12表 土壇出土銭貨観察表

挿図番号	遺構番号	銭種	背面	銭径(mm)		銭厚(mm)	重量(g)	書体	残存	備考	
				縦	横						
第63図	1	S K 5	咸平元寶		25.29		0.92~0.96	0.8	真書	1/2残	北宋 998年初鑄
第63図	2	S K 5	祥符通寶		23.13	23.36	0.94~1.11	1.7	真書	完形	北宋 1008年初鑄
第63図	3	S K 5	元豐通寶		24.51	24.55	1.12~1.22	2.4	篆書	完形	北宋 1078年初鑄
第63図	4	S K 5	元豐通寶		24.15	24.25	1.11~1.13	2.9	篆書	完形	北宋 1078年初鑄
第63図	5	S K 5	元符通寶		24.03	24.01	0.97~1.17	2.9	行書	完形	北宋 1098年初鑄 星形孔
第63図	6	S K 5	永樂通寶		24.51	24.27	1.41~1.58	3.4	真書	完形	明 1408年初鑄
第63図	7	S K 5	宣德通寶		25.37	25.71	1.13~1.25	2.4	真書	ほぼ完形	明 1433年初鑄
第63図	8	S K 6	皇宋通寶			24.31	1.26~1.35	1.1	篆書	2/3残	北宋 1038年初鑄
第63図	9	S K 6	聖宋元寶		24.66		0.91~1.04	1.8	篆書	3/4残	北宋 1101年初鑄
第63図	10	S K 14	至道元寶		24.75	24.22	0.99~1.00	2.1	真書	ほぼ完形	北宋 995年初鑄
第63図	11	S K 14	皇宋通寶		24.37	24.41	1.23~1.26	3.3	篆書	完形	北宋 1038年初鑄
第63図	12	S K 14	治平元寶		23.47	24.00	1.42~1.58	3.2	篆書	完形	北宋 1064年初鑄
第63図	13	S K 14	元豐通寶		23.99	23.79	1.17~1.21	2.2	行書	ほぼ完形	北宋 1078年初鑄
第63図	14	S K 14	永樂通寶		24.34	24.33	1.16~1.19	2.6	真書	完形	明 1408年初鑄
第63図	15	S K 12	寬永通寶		22.72	22.61	1.04~1.23	2.5	真書	完形	新寬永 1673~1741年
第63図	16	S K 18	寬永通寶	文	25.69	25.67	1.55~1.57	2.6	真書	完形	新寬永(文銭) 1668~1683年
第63図	17	S K 20	寬永通寶		25.98	26.22	1.69~1.96	2.3	真書	完形	鉄一文銭 1739年~
第63図	18	S K 58	銭種不明				1.40~1.53	0.8		1/4残	寶のみ

第13表 土壙一覧表

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重複遺構	遺物	挿図
1	B-8	楕円形	N- 22° -E	(1.18)	0.71	0.77	SD2		第54図
2	A・B-7	不定形	N- 84° -W	2.98	1.80	0.34			第54図
3	A-7	方形系	N- 0°	0.84	(0.34)	0.30			第54図
4	A-7	楕円形	N- 11° -W	1.41	(0.34)	0.44			第54図
5	B-7	長方形	N-90°	1.82	1.21	0.67	SK6・SD2より古	銭貨7 板碑 石白	第54図
6	B-7	方形系	N- 9° -E	(2.20)	2.19	1.09	SD1より古 SK5より新 SK7	銭貨2	第54図
7	B-7	不定形	N- 21° -E	(2.63)	2.38	0.71	SK9より古 SK6 SD9	和釘	第54図
8	B-7	長方形	N- 90°	0.94	0.60	0.47	SD2		第55図
9	B・C-7	不定形	N- 0°	(3.90)	3.02	0.67	SK7より新 SD5	近・現代瓦	第54図
10	B-7	長方形	N- 0°	0.94	0.62	0.18	SD9		第55図
11	B-7	長方形	N- 90°	0.90	0.44	0.18	SD9	和釘 近・現代瓦	第55図
12	B-7	方形系	N- 90°	(0.74)	0.77	0.28	SK13 SD9	銭貨1	第55図
13	B-7	長方形	N- 7° -W	1.40	0.74	0.70	SK12・14 SD9		第55図
14	B-6・7 C-6	長方形	N- 73° -W	2.66	2.00	0.72	SK13 SD5・6・8・9	かわらけ 銭貨5	第55図
15	C-7	不定形	N- 50° -E	1.44	(0.77)	0.16			第55図
16	C・D-6	楕円形	N- 90°	(1.42)	0.81	0.04			第55図
17	C-6	楕円形	N- 90°	1.06	0.84	0.06			第55図
18	D-6	不定形	N- 0°	(1.54)	1.43	0.74		銭貨1 砥石	第55図
19	C-6	不定形	N- 90°	0.93	0.67	0.20			第55図
20	D-6	略円形	N- 0°	1.42	1.30	0.27		磁器碗 銭貨1	第55図
21	D-6	楕円形	N- 50° -E	1.37	(0.40)	0.33	SD12より新		第55図
22	D-5・6	不定形	N- 90°	1.39	1.04	0.22		焙烙 砥石	第56図
23	D-6	円形	N- 55° -W	0.65	0.53	0.54			第56図
24	D-5・6	楕円形	N- 90°	0.97	0.76	0.08			第56図
25	D-6	不定形	N- 50° -E	1.47	(0.54)	0.05			第56図
26	D・E-5	不定形	N- 90°	4.38	1.76	0.08	SE2 SD13	近・現代瓦	第56図
27	E-5	円形	N- 0°	1.03	0.87	0.13			第56図
28	E・D-5	楕円形	N- 45° -E	1.34	1.02	0.09		陶器花瓶	第56図
29	D-5	不定形	N- 27° -W	0.86	0.84	0.28	SK30	陶器鉢 磁器碗	第56図
30	D-5	楕円形	N- 70° -E	1.30	0.99	0.09	SK29 SD14	香炉	第56図
31	D-5	長方形	N- 88° -W	(0.88)	0.68	0.42	SK32		第56図
32	D-5	不定形	N- 46° -W	2.41	2.25	1.30	SK31	陶磁器 焙烙ほか	第56図
33	E-4	長方形	N- 90°	1.20	0.84	0.12			第56図
34	D・E-4	円形	N- 0°	1.14	1.11	0.46			第56図
35	D・E-4	楕円形	N- 75° -E	1.30	1.00	0.08			第56図
36	D-4	長方形	N- 14° -W	1.84	0.63	0.64			第56図
37	D-4	円形	N- 0°	0.52	0.52	0.33			第56図
38	E-4	楕円形	N- 90°	1.13	0.84	0.70			第56図
39	D-4	長方形	N- 80° -W	2.28	0.61	0.46		陶器碗	第56図
41	C-5	略円形	N- 0°	1.44	1.24	0.20			第57図
42	C-5	円形系	N- 6° -E	1.47	(0.67)	0.25	SD11	陶磁器 烙器	第57図
43	C・D-5	長方形	N- 85° -W	1.96	0.56	0.40		磁器碗	第57図
44	C-4・5	楕円形	N- 0°	1.32	1.06	0.20	SK75		第58図
45	B-6	長方形	N- 86° -W	(3.47)	0.55	0.18	SD4		第57図
46	B-6	楕円形	N- 70° -W	(1.51)	1.43	1.00	SD2より新	焙烙	第57図
47	D-0	長方形	N- 70° -W	2.05	0.76	0.06			第57図
48	D-0	楕円形	N- 10° -W	1.84	0.80	0.04			第57図
49	D-0	楕円形	N- 15° -W	2.00	0.67	0.19			第57図
50	B-5・6	長方形	N- 4° -E	(2.16)	0.76	0.22	SK51		第59図
51	B-5	長方形	N- 87° -W	4.90	0.75	0.35	SD17		第59図
52	B-5	楕円形	N- 0°	1.20	0.60	0.17	SD17		第58図
53	C-4・5 B-5	長方形	N- 4° -E	2.97	0.58	0.17	SK54 SD17		第58図

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重複遺構	遺物	挿図
54	B・C-4・5	長方形	N-83°-W	(1.76)	0.64	0.26	SK53		第58図
55	A-4	不定形	N-90°	1.56	1.14	0.26	SD18		第57図
56	A-2	円形	N-0°	1.42	(0.60)	0.66	SD18・26		第57図
57	A・B-2	円形	N-0°	2.33	(0.99)	0.44			第57図
58	C-4・5	長方形	N-0°	2.28	1.31	0.94	SK60・75・76	陶磁器 焙烙 砥石	第58図
59	C-4	長方形	N-81°-W	2.97	0.69	0.48	SK76	焙烙	第58図
60	C-5	方形	N-5°-E	0.60	0.42	0.25	SK58	磁器碗 焙烙	第58図
61	B-5	長方形	N-0°	1.23	0.63	0.15			第59図
63	C-4・5 D-5	不定形	N-85°-W	1.74	0.92	0.36	SK64より新	磁器碗 播鉢	第58図
64	C-4	不定形	N-81°-W	2.04	0.81	0.41	SK63より古		第58図
65	C-3・4	略円形	N-25°-W	1.45	1.16	0.20	SK66		第58図
66	C-4	略円形	N-12°-W	1.42	1.06	0.21	SK65 SD11		第58図
67	C-4	不定形	N-0°	0.56	0.54	0.5	SK68	縄文土器	第57図
68	C-4	不定形	N-74°-E	1.68	1.53	0.52	SK67 SD11		第57図
69	E-2・3	長方形	N-7°-W	2.12	0.76	0.86	SD30	かわらけ	第59図
70	E-4	不定形	N-14°-E	0.95	0.75	0.54		磁器碗	第59図
71	D-3	長方形	N-90°	2.86	1.05	0.26		磁器碗	第59図
72	D-4	略円形	N-34°-E	1.23	0.87	0.06			第59図
73	D-4	不定形	N-0°	1.29	1.14	0.28		播鉢	第59図
74	E-1	楕円形	N-11°-W	1.62	0.54	0.12	SD25より変更		第59図
75	C-5	長方形	N-81°-W	(2.21)	0.58	0.22	SK44・58		第58図
76	C-4	長方形	N-0°	(1.40)	1.03	0.05	SK58・59		第58図

(9) 竪穴状遺構

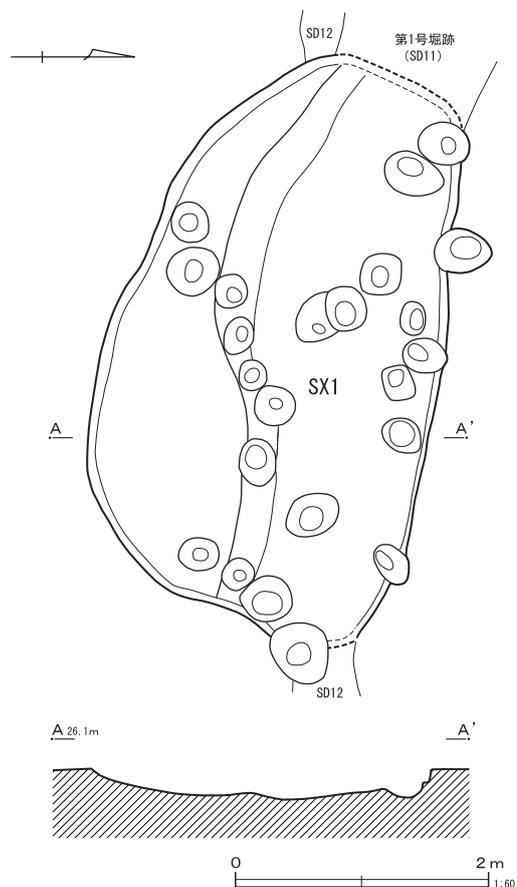
第1号竪穴状遺構 (第64図)

調査区南側のC-6グリッドに位置する。第1号堀跡の南端の屈曲部(折れ)の内側に接し、第12号溝跡と重複している。第12号溝跡は中央部を貫流しているが、新旧関係については不明である。

平面形は楕円形に近い不定形を呈する。規模は、長軸4.52m、短軸2.66m、深さ0.24mを測り、主軸方位はN-86°-Wを指す。

底面は凹凸が顕著で、南側に僅かな段差を造り出す。壁際と段差部分にピット(小穴)が連続するように穿たれる。ピットは計23本を数え、直径0.25~0.40m、深さ0.20~0.40mの小規模なものが多い。

遺物がまったく出土していないため、時期や性格に関しては明確にし得ないが、堀跡の折れに位置することや、柱穴の可能性のある小穴が並ぶことから、出入口部(虎口)に関連するような施設を想定することができよう。



第64図 第1号竪穴状遺構

(10) ピット

溝跡や土壇などの遺構に伴うピットを除く、単独ピットを136基検出した。大半が第1号堀跡によって区画された内部に分布している。

なお、ピット番号は調査区全体を通して通番とし、整理段階で新たに番号を付し、全体図の区割図（第6～8図）にピット番号を記載した。また、規模等のデータに関しては、第14表のピット一覧表に示した。

ピットの平面形態は、円形もしくは楕円形のもものが主体を占めているが、一部矩形平面のものも認められた。規模は直径0.10～0.96m、深さ0.05～0.68mと一様でなく、埋土に柱痕の確認されたものも少ない。

分布状況は、攪乱の著しい調査区北側から西側にかけては全体に希薄となっているものの、区画内部のD-5（27基）、E-4（20基）、C-6・E-5（16基）、D-4（15基）グリッド周辺に

第14表 ピット一覧表

番号	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	C-3	40	38	5	P 47	E-4	80	75	28	P 93	E-5	30	27	4
P 2	C-3	96	68	9	P 48	E-4	55	51	30	P 94	E-5	35	26	31
P 3	C-3	36	31	9	P 49	E-4	44	32	25	P 95	E-5	57	23	29
P 4	C-3	44	37	17	P 50	E-4	60	47	47	P 96	E-5	58	25	37
P 5	C-3	34	24	12	P 51	E-4	43	27	28	P 97	E-5	33	30	25
P 6	C-3	57	29	13	P 52	E-4	27	26	26	P 98	E-5	43	33	8
P 7	C-3	74	32	12	P 53	E-4	43	38	19	P 99	E-5	43	30	28
P 8	C-3	39	30	15	P 54	E-4	19	19	23	P 100	E-5	20	17	13
P 9	D-3	71	60	10	P 55	E-4	53	33	42	P 101	E-5	40	30	19
P 10	D-3	42	36	10	P 56	E-4	32	26	36	P 102	E-5	63	42	8
P 11	D-3	92	76	27	P 57	E-4	37	33	12	P 103	E-5	60	35	47
P 12	D-3	50	48	37	P 58	E-4	31	25	15	P 104	B-6	44	40	30
P 13	D-3	87	59	45	P 59	E-4	32	28	11	P 105	B-6	30	27	16
P 14	D-3	68	66	16	P 60	C-5	42	42	27	P 106	B-6	35	27	20
P 15	E-3	41	38	35	P 61	D-5	37	35	38	P 107	B-6	32	26	17
P 16	E-3	71	67	68	P 62	D-5	39	35	19	P 108	C-6	37	35	16
P 17	E-3	54	29	13	P 63	D-5	54	37	15	P 109	C-6	85	30	48
P 18	E-3	40	38	35	P 64	D-5	82	69	13	P 110	C-6	43	42	42
P 19	C-4	36	34	21	P 65	D-5	37	31	17	P 111	C-6	35	27	14
P 20	C-4	33	30	20	P 66	D-5	75	60	39	P 112	C-6	44	38	5
P 21	C-4	62	58	19	P 67	D-5	63	49	32	P 113	C-6	50	10	10
P 22	C-4	40	24	13	P 68	D-5	35	27	27	P 114	C-6	50	40	11
P 23	C-4	40	40	17	P 69	D-5	33	29	33	P 115	C-6	48	28	9
P 24	C-4	36	31	52	P 70	D-5	53	53	38	P 116	C-6	38	27	16
P 25	D-4	40	39	52	P 71	D-5	38	30	33	P 117	C-6	31	20	50
P 26	D-4	27	25	20	P 72	D-5	67	56	51	P 118	C-6	13	12	12
P 27	D-4	35	33	34	P 73	D-5	63	52	36	P 119	C-6	27	13	6
P 28	D-4	47	44	37	P 74	D-5	48	45	42	P 120	C-6	72	55	22
P 29	D-4	56	50	17	P 75	D-5	37	24	29	P 121	C-6	41	36	40
P 30	D-4	34	29	17	P 76	D-5	38	24	29	P 122	C-6	40	39	25
P 31	D-4	40	37	20	P 77	D-5	46	33	47	P 123	C-6	35	27	11
P 32	D-4	55	47	31	P 78	D-5	48	38	29	P 124	D-6	56	44	25
P 33	D-4	34	34	15	P 79	D-5	43	35	8	P 125	D-6	34	28	23
P 34	D-4	51	39	27	P 80	D-5	78	74	11	P 126	D-6	48	40	67
P 35	D-4	33	33	19	P 81	D-5	69	53	7	P 127	D-6	36	31	23
P 36	D-4	48	34	18	P 82	D-5	58	34	39	P 128	D-6	36	26	19
P 37	D-4	49	43	48	P 83	D-5	65	55	22	P 129	D-6	40	26	22
P 38	D-4	47	43	36	P 84	D-5	34	26	17	P 130	A-7	35	31	15
P 39	D-4	49	48	40	P 85	D-5	72	54	50	P 131	A-7	53	45	5
P 40	E-4	49	38	60	P 86	D-5	60	36	33	P 132	B-7	43	40	34
P 41	E-4	42	34	34	P 87	D-5	60	41	43	P 133	C-7	21	21	8
P 42	E-4	39	28	8	P 88	E-5	40	30	27	P 134	C-7	44	39	6
P 43	E-4	41	32	40	P 89	E-5	41	24	28	P 135	C-7	36	36	15
P 44	E-4	67	45	33	P 90	E-5	38	11	17	P 136	C-7	42	31	17
P 45	E-4	60	55	28	P 91	E-5	43	28	51					
P 46	E-4	76	57	37	P 92	E-5	24	23	33					

集中する傾向が窺われた。

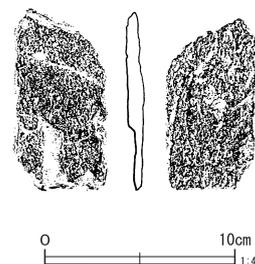
掘立柱建物跡や柵列跡としたもの以外には、配列や埋土の状態に規則性の認められるものはなく、出土遺物も極めて少ない。そのため時期を判定することは難しく、時期不詳とせざるを得ない。

(11) その他の遺物

第65図1は調査区中央部のC-4グリッドから出土した板碑片である。緑泥片岩製の残存長9.5cmの小片で、裏面は剥離している。月輪の付く種子キリーク（阿弥陀如来）の一部であろう。

出土位置の特定はできないが、同一グリッドの第1号堀跡埋土上層から月輪の付いた脇侍をもつ

C-4 グリッド



第65図 その他の出土遺物

三尊形式の種子板碑の破片（第15図9）が出土しており関連性が認められる。

第15表 その他の出土遺物観察表

挿図番号	出土位置	種別	器種	大きさ・特徴など
第65図 1	C-4 G	石製品	板碑	残存長9.5cm 残存幅4.8cm 厚さ0.8cm 重さ66.7g 種子キリーク(阿弥陀如来)、月輪の一部を残存 緑泥片岩製

V 調査のまとめ

1. 宮廻館跡の遺構とその性格について

はじめに

宮廻館跡は圏央道建設等に伴って、平成11年度から15年度にかけて四度の発掘調査が行われた。館跡の状況は竹林や雑木林の中に土塁や堀跡を確認していたが、圏央道の調査では、宮廻館跡の西側から北側にかけての様相が明らかになり、従来考えられていた範囲を大きく上回る大規模な館跡であることが解ってきた。

検出された遺構で注目されるのは、当初から確認されていた土塁や堀跡以外に、新たに発見された堀跡や土塁、そして溝で方形に区画された掘立柱建物跡、土壇、井戸跡等である。前者は館跡の変遷を、後者は館跡とは直接の関連性を持たない性格の異なる遺構の可能性もあるが、館跡全体やその構造を考える上で重要な遺構と考えられる。

本稿では、溝で囲まれた方形区画の遺構と土塁や堀跡から見た館跡の変遷について考えてみたい。

(1) 溝で囲まれた方形区画の遺構について

宮廻館跡の西側（E区）には、幅約1m、深さ約50cmの「U字型」の溝で東西約50m、南北30m以上の方形に区画された施設を思わせる遺構が複数検出された。区画は必ずしも同規格ではないが、区画の中には掘立柱建物跡、井戸跡、土壇、小規模な柵列（塀）などが配置され、遺構の組み合わせに共通性がある。遺物は少ないが、井戸跡や溝跡からは、15世紀代を中心に常滑産や在地産の甕や鉢類が出土している。また、土壇の一部からは中世から江戸後期にかけての陶磁器や渡来銭を中心とする銭貨等が出土し、この周辺に中世から近世にかけて墓地が断続的に形成されたことを窺わせている。しかし、中世の城館跡から想起されるような戦いに関わる武器・武具の類は出土しなかった。

一方、宮廻館跡の北側に谷を隔てて立地する在

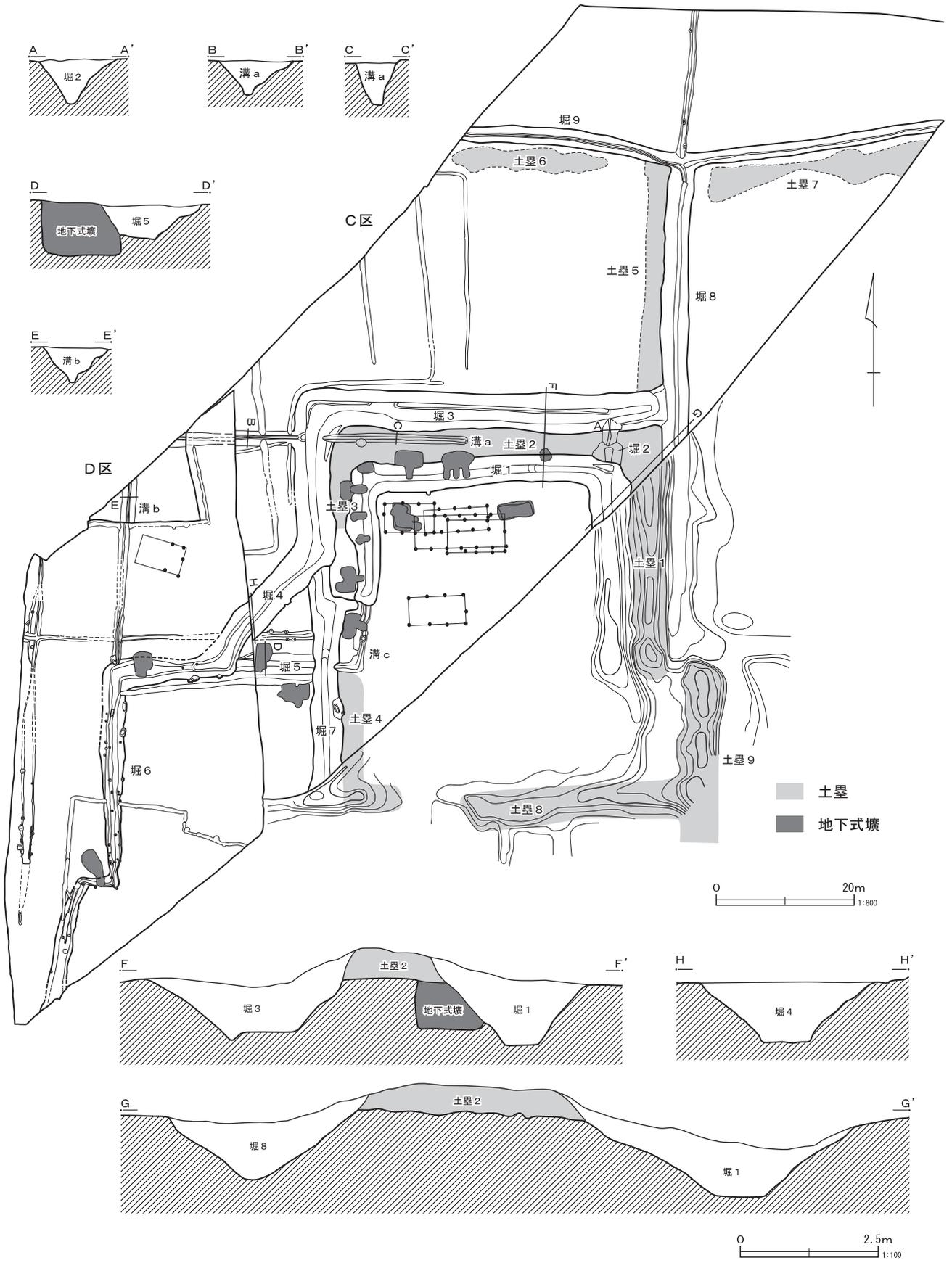
家遺跡でも館跡の南側から西側にかけて、溝で方形に区画された屋敷地と思われる遺構が検出されている。区画内からは宮廻館跡E区と同様に掘立柱建物跡、井戸跡、土壇、ピットなどの遺構が検出され、隣接した地域でも同様な遺構が存在することが明らかになった。出土した遺物は12世紀から15世紀頃の日常雑器が中心で、やはり武器・武具等は出土しなかった。

両者は出土遺物の年代、遺構の規模や構成において、共通しており、同じような性格の遺構として捉えることができる。

さらに、宮廻館跡と戸宮前館跡周辺の方形区画では、もう一つの共通点が認められる。それは、両方の館跡とも主郭（特に強固な土塁や堀跡で囲まれたエリア）と考えられる部分に長方形を含む方形の土壇群が形成される。これらの土壇群の中には渡来銭などが含まれることから、一部は墓壇であった可能性が高い。そして土壇群は両館跡とも土塁と堀で囲まれたエリアを意識して構築されているのは、明らかである。一方、E区で検出された溝で方形に区画された施設内には、上記のような土壇はほとんど構築されていない。土壇群とは一定の距離が保たれて、溝で囲まれた方形区画が存在することも明らかである。

宮廻館跡や戸宮前館跡の調査では、堀跡の断面や土塁の下からは、溝で区画された施設を確認することはできなかった。つまり、溝で方形に区画された施設は、館跡が構築される以前の構造物ではない可能性が高まったといえる。そして館跡の廃絶後に土壇群は構築され、溝で区画された施設とは何らかの関連性があるのではないかという可能性も出土遺物などからでてきたことである。

では、この溝で区画された建物や井戸跡などを含む施設とは何であろうか。出土遺物は日常雑器が主体であり、通常の民家や集落の様相を示して



第66図 宮廻館跡模式図

いる。平成2年に調査された毛呂山町の堂山下遺跡では、溝や堀などで囲まれた方形区画に掘立柱建物跡や井戸跡、土壘などがセットで複数検出され、鎌倉街道とみられる道路跡やその側溝も検出された。付近には崇徳寺という鎌倉時代に創建された寺院が存在していたことから、中世の越辺川畔に存在した「苦林宿」に比定されている(宮瀧1991)。

宮廻館跡E区や在家遺跡の場合も、堂山下遺跡のような街道筋に面した「宿」集落の可能性はないだろうか。現在、宮廻館跡を含む五つの館跡群(第67図)の中を県道川越片柳線が通っており、周囲には中世の遺跡が数多く存在し、圏央道の発掘調査によって建物跡や道路跡なども検出されている。

なお、付近の館跡群については、本格的な発掘調査が行われていないので、宮廻館跡E区や在家遺跡A区のような溝で囲まれた区画施設の存在は不明であるが、これらの館跡は同時期に築造された可能性が高いとみられており、今回の調査は館跡廃絶後のこの付近の景観を考える上で貴重な成果をもたらしたものと見える。

(2) 土壘と堀跡からみた館跡の変遷について

宮廻館跡の変遷については、既に報告済(木戸2004)であるが、E区の調査成果を踏まえて館跡の始まりから衰退までを再度検討することにした。

主郭とみられる部分は、土壘と堀跡で囲まれ、中に建物群や井戸跡なども存在し、遺構の重複関係から数度にわたる造り替えが確認できた。他の郭には建物等は存在しなかった。

主郭と他の郭とは土壘の高さ、堀の深さに大きな相違がある。主郭の土壘は現状でも1m余りと高く、堀は深いところでは約2mと深く、主郭から離れるにつれ、土壘は低く、堀も浅くなってい

る。主郭の土壘には、断面観察をみても構造的に他の土壘との違いは認められなかったが、堀については館跡の変遷を考える上で重要な相違点を確認でき、その形態や重複関係などから以下のような4期に区分した。

堀は幅が狭くて深い「V」字型(溝)、幅広の「薬研」型、幅広の「箱薬研」型へと変化する。第66図は主郭付近を模式図化したものである。

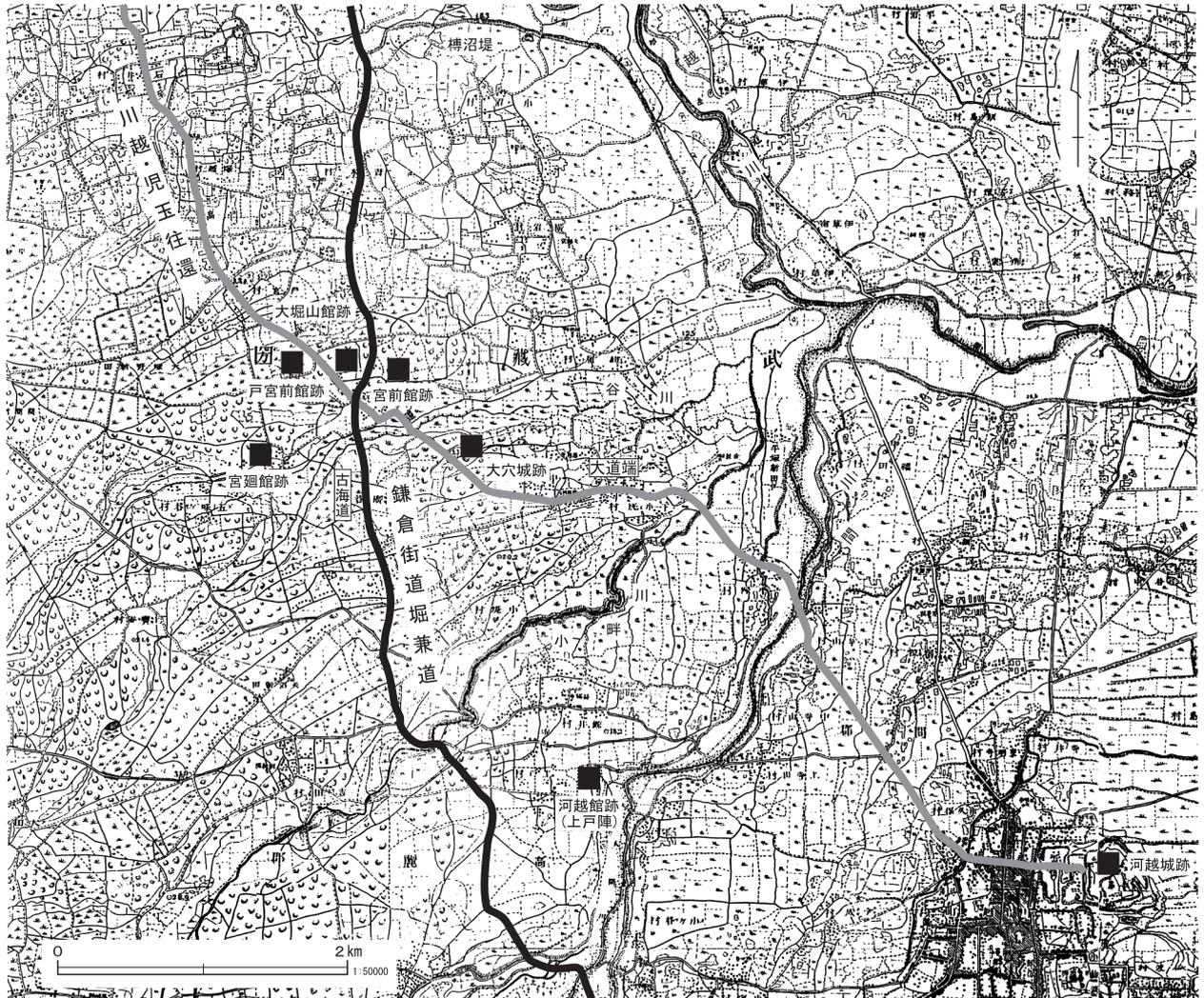
なお、土壘や堀跡の番号は、便宜上つけ替えている。

第1期

土壘2を取り除いた面で検出された溝a、b、c(幅が狭くて深い「V」字型)で変則的な「方形」に区画される段階である。方形区画を強く意識した館跡の前身的な遺構として考えたいが、溝cは溝aに直接繋がる可能性は低く、僅かに東側に開口部を設け、虎口としていた可能性がある。土壘の存在や溝の中の構造は不明だが、規模は40m四方程度と考えられる。

第2期

土壘2~4、堀2・3・7で区画される段階である。この段階では館跡の形状はやや南北に長い方形区画を形成するものと考えられ、模式図のような土壘が互い違いになるような形態ではなかった。虎口の存在は不明であるが、西側の堀7には掘り直したとみられる部分があり、この部分が虎口の可能性もある。堀2(幅広の「薬研」型)は土壘2の下から検出され、堀3へと移行するにつれ緩やかに傾斜が付けられている。規模は南北が長い形態となり、土壘も高く、堀も深い防禦的色彩の高まった段階といえる。堀8や9、土壘5や6もこの段階に造られると考えられ、館跡の構造がかたまった段階といえる。また、土壘や堀の構築にあたっては、地下式墳を壊して造っている。掘立柱建物跡は西側隅に建てられる。



第67図 下広谷城館跡群とその周辺

第3期

模式図のような形態になった段階と考えられる。堀は土塁に沿って内側にも構築される（堀1）が、土塁4の内側には造られない。堀の断面形態は「箱葉研」となり、幅広の堀へと変化する。西側の出入り口は、堀7の改削によって閉ざされ、それに代わって土塁4と8、土塁1と9のようなくい違い虎口（か）が形成される。また、時間をおいて堀5・6も造られる。3期は北側や西側に対する防禦の色彩はますます強まり、虎口にみられるように南側や東側に対しての出入り口の意識が色濃く出されている。また、内側の堀の関係で、掘立柱建物跡はやや東に立て替えられ、その南側にも1棟建てられる。

第4期

堀は内側の堀1や外側の7が埋まり、掘り直された痕跡は認められない。しかし、土塁の外側の堀2は埋められて土塁が造られ、3は掘り直しが行われ、この段階既に埋まっていたとみられる堀7の一部を改削し、堀4、6へと展開していく。虎口は第3期のものを活かしつつ、新たに堀4と土塁4の間に設けられた可能性もある。また、掘立柱建物跡は中央北側の1棟だけとなり、埋まった内側の堀跡には土塁も造られるようになる。館跡が次第にその機能を失い、衰退していることを窺わせている。その後は主郭の内部に夥しい数の土塁群が形成される。

2. 一括出土銭について

宮廻館跡一括出土銭の銭種組成やその性格について若干の考察を行いたい。

一括出土銭の出土地点は、第1号堀跡南側屈曲部のさらに南側で、底面を掘り込んだピットの中から検出された。銭貨を納めた容器等は確認されておらず、袋状のものに入れて埋められていたか、もしくは銭貨のみが直接埋められていたと想定される。第1号堀跡は、出土遺物の様相から遅くとも15世紀後半には掘削されていたものと考えられる。

また、銭貨出土地点に隣接する本調査区南端の第1号堀跡東側には、墓壙と想定される土壌が数基確認されている。出土遺物は六道銭と思われる銭貨のみで、その時期については明確ではないが、そのうちの一つである第5号土壙は第1号堀跡と重複し、切り合い関係から第5号土壙の方が新しいことが確認されている。

以上のことから、一括出土銭が埋められたピット及び墓壙群は、第1号堀跡が館の周囲を囲む施設として掘り込まれその機能が失われた後に形成された遺構であることが想定され、両者が同一時期に並存していた可能性も考えられる。

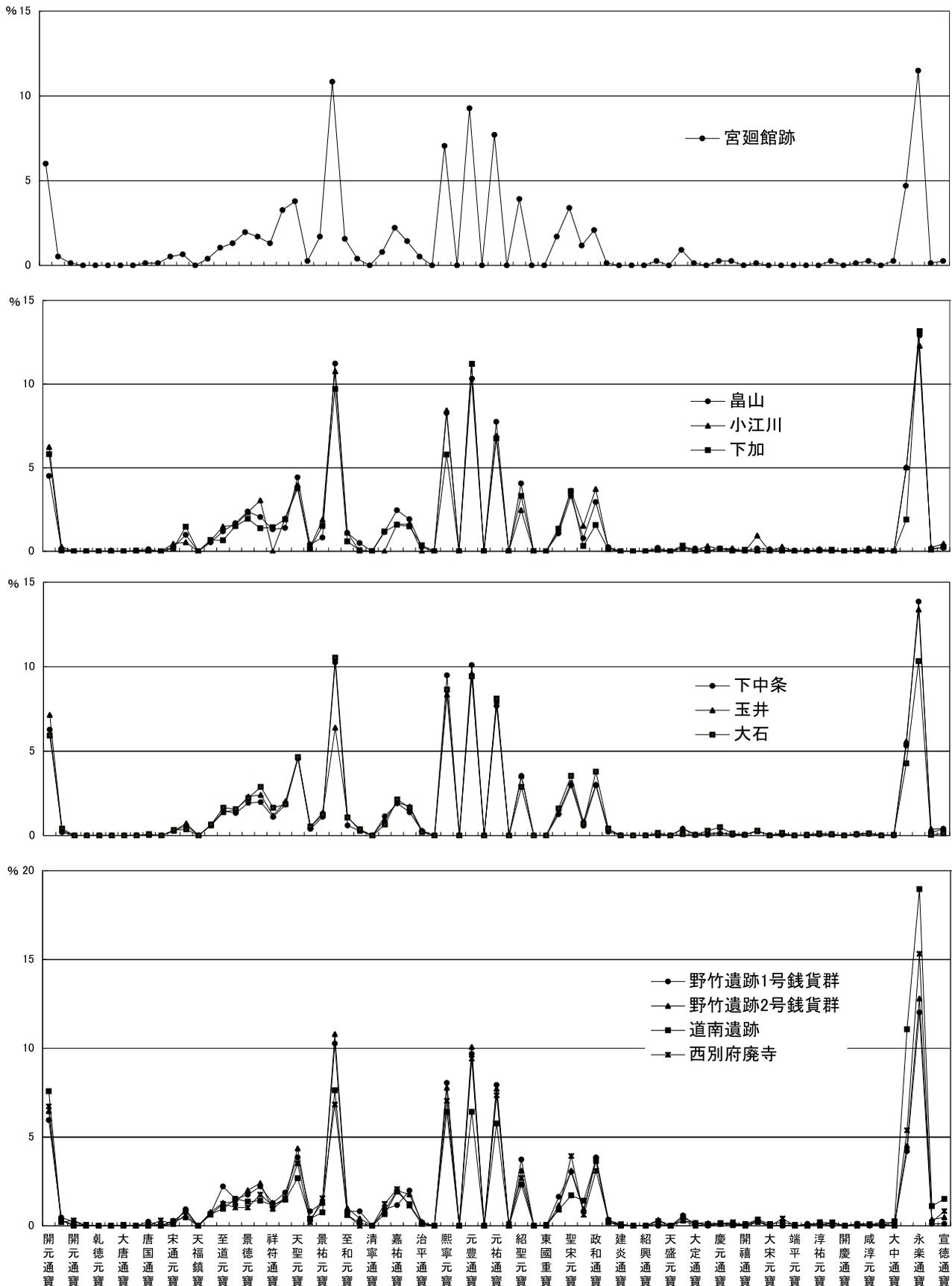
一括出土銭の組成と特徴

ピットの中から出土した一括出土銭の総数は766枚である。銭貨の種類は47種以上におよび、書体や銭文の違いによってさらに細分される。含有されていた渡来銭の鑄造王朝ごとの出土割合は、北宋銭が72.06%と一番多く、次いで明銭(16.71%)、唐銭(6.66%)が占めている。その他には南唐銭、南宋銭、金銭、朝鮮銭などが含まれるが極僅かである。

最も古い銭貨は、唐の開元通寶(621年初鑄)であり、最も新しい銭貨は、明の宣徳通寶(1433年初鑄)であった。宣徳通寶を最新銭とする組成は、大量出土銭時期区分によると鈴木公雄氏6期

(鈴木1992)、永井久美男氏6期(永井1994)にあたり、その実年代は、鈴木氏によれば16世紀第1四半期から第2四半期(鈴木1999)、永井氏によれば15世紀第2四半期から16世紀第3四半期(永井2002)とされる。また、鈴木氏によれば一括出土銭に含まれる永楽通寶の割合は、時期が新しくなるほど高くなっていく傾向がみられ、永楽通寶が出現する4期から5期までは10%に満たないものが多く、6期に至っておおよそ10~13%の割合を占めるものが多くなり、7期から8期に至ってその出土割合はさらに高くなっていくとされる(鈴木1992)。宮廻館跡一括出土銭に占める永楽通寶の出土割合は、11.49%であり、この特徴においても前述の時期区分と合致する。ただし、本例の場合、出土枚数は766枚と少なく、銭貨の埋蔵年代を推定するにあたって安定した銭貨組成を得ているとは言い難い。永井氏によれば、7期以降における時期決定の指標となる琉球銭・安南銭をはじめとする最新銭の出土割合は極端に少なくなり、それぞれの最新銭を含んでいないことが埋蔵年代の下限を決める材料とはなり得ないとされる(永井1996)。このことから、本例の埋蔵年代も16世紀以降に下がる可能性が考えられる。

次に、宮廻館跡一括出土銭に含まれる銭種ごとの出土割合を、埼玉県内の同じく6期資料である9遺跡10例(註1)と比較した(第68図、第16表)。その結果、分析対象とした資料の総出土枚数には、宮廻館跡の766枚から玉井出土銭での15,563枚と大きな差が認められるが、各銭種別の出土枚数の組成は、ほぼ一致した。また、一括出土銭の銭種組成には、銭貨が埋められた時点での撰銭行為などによって、他の事例と大きく異なる特殊な組成を持つ事例も存在するが、本例の場合、他の事例の出土割合と比較して偏った傾向は認められず、一般的な組成の傾向を示した。ただ



第68図 埼玉県内一括出土銭(6期) 銭種比率

第16表 埼玉県内一括出土銭(6期)銭種構成表

銭貨名 (初鑄年)	宮廻館跡 (川越市)	畠山 (深谷市)	小江川 (熊谷市)	下加 (さいたま市)	下中条 (行田市)	玉井 (熊谷市)	大石 (上尾市)	野竹1号 銭群 (所沢市)	野竹2号 銭群 (所沢市)	道南遺跡 (騎西町)	西別府 廃寺 (熊谷市)
開元通寶 (唐 621年)	46	110	139	344	608	1112	144	51	310	150	65
貞元重宝 (唐 758年)	4	3	6	3	19	45	10	4	14	6	2
開元通寶 (唐 845年)	1	0	0	0	0	0	0	2	4	0	3
光天元寶 (前蜀 918年)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
貞德元寶 (前蜀 919年)	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0
咸康元寶 (前蜀 925年)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大唐通寶 (南唐 944年)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
周通元寶 (後周 955年)	0	1	1	2	2	2	0	0	0	0	0
唐國通寶 (南唐 959年)	1	3	1	0	7	7	2	2	4	0	0
開元通寶 (南唐 960年)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
宋通元寶 (北宋 960年)	4	6	10	10	27	45	8	1	14	5	1
太平通寶 (北宋 976年)	5	24	12	87	58	112	9	8	23	16	6
天福鎮寶 (前梁 948年)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
淳化元寶 (北宋 990年)	3	13	14	40	63	94	16	6	37	13	6
至道元寶 (北宋 995年)	8	29	33	39	141	217	40	19	62	19	12
咸平元寶 (北宋 998年)	10	41	35	89	130	237	38	13	64	30	10
景德元寶 (北宋 1004年)	15	58	52	115	188	360	54	15	96	27	10
祥符元寶 (北宋 1008年)	13	50	68	82	192	375	70	19	115	28	17
祥符通寶 (北宋 1008年)	10	32	0	85	107	184	40	11	46	23	11
天禧通寶 (北宋 1017年)	25	34	44	113	178	316	45	16	73	29	15
天聖元寶 (北宋 1023年)	29	108	88	223	443	718	113	33	209	53	34
明道元寶 (北宋 1032年)	2	10	5	9	38	80	13	7	17	8	2
景祐元寶 (北宋 1034年)	13	20	42	90	108	214	30	11	62	15	15
皇宋通寶 (北宋 1039年)	83	274	240	575	994	994	256	88	518	151	66
至和元寶 (北宋 1054年)	12	27	25	35	58	173	26	7	48	12	6
至和通寶 (北宋 1054年)	3	12	0	4	27	45	9	7	20	3	0
清寧通寶 (遼 1054年)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
嘉祐元寶 (北宋 1056年)	6	28	0	70	111	147	16	8	41	13	12
嘉祐通寶 (北宋 1056年)	17	60	36	94	185	306	52	10	95	38	20
治平元寶 (北宋 1064年)	11	47	36	88	134	268	40	17	85	24	11
治平通寶 (北宋 1064年)	4	6	0	21	26	46	5	1	11	3	1
咸雍通寶 (遼 1065年)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
熙寧元寶 (北宋 1068年)	54	202	188	343	920	1298	210	69	373	127	68
熙寧重寶 (北宋 1071年)	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0
元豐通寶 (北宋 1078年)	71	252	250	664	979	1490	229	83	483	127	91
大安元寶 (遼 1085年)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
元祐通寶 (北宋 1086年)	59	189	154	400	745	1242	197	68	370	114	71
元祐通寶 折二銭 (北宋 1086年)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
紹聖元寶 (北宋 1094年)	30	99	55	196	342	551	70	32	149	46	26
紹聖通寶 (北宋 1094年)	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
東國重寶 (高麗 1097年)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
元符通寶 (北宋 1098年)	13	26	27	80	122	219	39	14	55	18	9
聖宋元寶 (北宋 1101年)	26	81	81	213	289	486	86	26	149	34	38
大觀通寶 (北宋 1107年)	9	19	34	19	57	129	17	7	45	28	6
政和通寶 (北宋 1111年)	16	72	83	93	290	470	92	33	175	74	30
宣和通寶 (北宋 1119年)	1	6	5	7	22	53	10	3	11	4	3
建炎通寶 (南宋 1127年)	0	0	0	0	2	6	0	0	2	0	1
紹興元寶 (南宋 1131年)	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0
紹興通寶 (南宋 1131年)	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
正隆元寶 (金 1157年)	2	5	2	6	9	4	4	0	16	5	1
天盛元寶 (西夏 1158年)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
淳熙元寶 (南宋 1174年)	7	5	4	20	38	66	2	5	14	9	3
大定通寶 (金 1178年)	1	4	1	1	4	12	1	0	8	3	0
紹熙元寶 (南宋 1190年)	0	0	7	2	4	20	7	0	7	1	1
慶元通寶 (南宋 1195年)	2	4	3	9	12	27	12	1	6	3	1
嘉泰通寶 (南宋 1201年)	2	2	4	0	4	12	3	1	2	2	2
開禧通寶 (南宋 1205年)	0	1	0	5	4	10	1	0	2	2	0
嘉定通寶 (南宋 1208年)	1	4	21	0	28	41	7	2	14	7	2
大宋元寶 (南宋 1225年)	0	3	0	0	1	5	0	0	0	2	0
紹定通寶 (南宋 1228年)	0	2	6	2	5	18	4	0	2	4	4
端平元寶 (南宋 1234年)	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0
嘉熙通寶 (南宋 1237年)	0	1	0	0	5	4	1	1	4	0	0
淳祐元寶 (南宋 1241年)	0	1	3	4	6	14	3	1	4	4	0
皇宋元寶 (南宋 1253年)	2	2	0	5	8	10	2	0	6	3	2
開慶通寶 (南宋 1259年)	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0
景定元寶 (南宋 1260年)	1	0	1	3	4	16	2	1	5	0	1
咸淳元寶 (南宋 1265年)	2	4	2	0	9	22	3	0	5	1	1
至大通寶 (元 1310年)	0	0	1	3	2	4	0	2	1	1	1
大中通寶 (明 1361年)	2	0	1	0	1	8	1	1	3	5	0
洪武通寶 (明 1368年)	36	122	112	112	517	868	104	36	216	219	52
永樂通寶 (明 1408年)	88	315	274	780	1343	2082	251	103	614	375	148
朝鮮通寶 (朝鮮 1423年)	1	4	5	6	17	61	1	1	17	22	2
宣德通寶 (明 1433年)	2	5	10	15	39	63	3	1	23	30	8
不明銭・その他	12	12	9	715	20	140	32	7	44	38	65
総枚数	766	2441	2230	5923	9697	15563	2430	854	4796	1978	966

し、今回分析対象とした資料の中で、道南遺跡出土銭については、他の例と比べて明銭の出土割合が高く（註2）、他の資料と比べて埋蔵年代が下がる可能性が考えられる。

一括出土銭の性格

一括出土銭の埋蔵目的をめぐっては、銭貨の備蓄ないしは蓄蔵目的で埋められ何らかの事情により再度掘り出されることなく残存したものとする考えと（鈴木1992、峰岸1999）、地鎮行為や宗教的な結界などの呪術的な意味で銭貨が納められたとする考え（橋口1993・1998）の大きく2つの説に分かれており、議論が展開されている。各遺跡で一括出土銭が検出された場合に、その埋蔵目的がこの二説のどちらに該当するものであるのか、あるいはそのほかの目的が考えられるのかは、出土状況や共伴遺物などを詳細に検討した上での検証が必要であろう。

以下、県内外における堀跡などの区画施設からの銭貨出土事例について、いくつか類例を挙げる。県内において館や屋敷、城の堀跡から一括出土銭が出土した事例としては、花崎遺跡出土銭（渡辺ほか1983、栗原1984）、及び騎西城第15区25堀出土銭（騎西町教育委員会2001）を挙げることができる。花崎遺跡は、中世の城跡であり、横矢掛の西北コーナー底部から約1mの壁際で、109枚の銭貨が緋の状態で検出された（最新銭 永楽通寶）。騎西城第15区25堀出土銭については、未報告のため詳細は不明であるが、武家屋敷を区画する障子堀から薦に収納された状態で銭貨が出土し、共伴遺物から16世紀後半のものであると推定されている。

県外における事例としては、東北地方を中心にいくつかの類例を散見することができる。青森県浪岡城跡北館堀跡では16世紀前半の層位から69枚の緋銭が数珠と共伴して出土し（最新銭 洪武通寶）、さらに同年代の下層からは691枚の銭貨が一括で出土（最新銭 洪徳通寶）している（工

藤 1995）。また、岩手県仙人西遺跡では、城館内を区画する溝（堀）の底から緋の状態で76枚出土し（最新銭 永楽通寶）、埋蔵時期は15世紀前半代と推定されている（水沢市埋蔵文化財センター1997）。

そのほかに、館や屋敷、城以外の区画施設からの一括出土銭の事例としては、山形県梵天塚遺跡出土銭を挙げることができる。本遺跡では、墓壇群を区画する溝跡のほぼ底面から、小刀8本とともに緋の状態の銭貨1757枚（最新銭 宣徳通寶）が検出された。埋蔵時期は16世紀代と推定されている（石井1996）。

宮廻館跡一括出土銭の場合、その出土地点が館を区画する溝（堀）であることや墓域に隣接していることなどから、橋口氏の主張するように、特定の領域を結界する役割を想定することも可能であるが、その他に呪術的な遺物の共伴等は認められておらず、断定することはできない。本例が示す状況証拠からは、銭貨の備蓄ないしは蓄蔵のための場所として偶然的に溝（堀）跡が選択された可能性も否定できず、その性格については、現段階では保留としておきたい。

本例のように、一括銭が遺跡内における特殊な地点から出土した場合、それが経済的行為によりもたらされたものであるのか、あるいは呪術的行為によりもたらされたものであるのか、その性格を認定するにあたっては、同一の出土状況を示す銭貨や銭貨以外の遺物の出土事例も含めて検討した上で、慎重に検証していく必要がある。

註

1 第68図は栗原1988、中島ほか2005、騎西町教育委員会2001、吉野1994をもとに作成した。

2 各資料における明銭の出土割合は、宮廻館跡（16.71%）、畠山（18.11%）、小江川（17.80%）、下加（15.31%）、下中条（19.59%）、玉井（19.41%）、大石（14.77%）、野竹遺跡第1号銭貨群（16.45%）、野竹遺跡第2号銭貨群（17.85%）、西別府廃寺（21.53%）であるのに対し、道南遺跡では31.80%であった。

3. 調査の成果と今後の課題

宮廻館跡の調査において、室町期から戦国期にかけて存続した平地館跡の構造及び周辺地区の具体相が明らかにされた。さらに、北へ約700m離れた戸宮前館跡の調査では、その南方に展開する方形区画施設が検出され、戦乱に際し仮設・臨時的に設けられ、軍勢が駐屯した「陣所」の実態(落合1999)を解明し得る重要な手がかりを得ることができた。最後に、下広谷城館跡群全体の様相について概観し、まとめにかきたい。

文献から見た下広谷

下広谷について記された文献史料は、後北条氏の小田原衆所領役帳に小田原衆の御宿隼人佑の所領として「廿六貫五百卅六文 入西 勝之内広野」とあるのが唯一である。弘治元年(1555)に検地を実施したもので、隣接する坂戸市紺屋は松田筑前守の所領として「勝之内高野村」四〇貫三五〇文が見える。この二つの地名は「荒野」・「興野」などの開墾地名が転じたものであると指摘されている(関口1990)。

次に、小字の考察から下広谷地区周辺の歴史的背景を探ることにしよう。宮廻館跡の所在する字宮廻は、下広谷地区に多い滝島家、福島家の氏神様の社がある地域を示すものとされている。また字在家は、字戸宮前にあった竜昇院の寺領に対しての在家(寺領外の土地)であるとする説がある(川越市教育委員会1982)。

この他に下広谷地区には字往還上、字往還下、字古海道東、下小坂地区には字大道端などの古道や街道に関した地名が数多く残されており、交通の要所としての性格が色濃い。また、田中信氏が指摘するように、大堀山館跡周辺の字牛原、字牛原南の地名も、群馬県や栃木県内の古代道や中世道の近くに「牛・ウシ」のつく地名や牛にまつわる伝説が残されていることから見て、道路関連地名である可能性が高い(田中2002)。

下広谷地区の開発領主

鎌倉時代の武蔵七党村山党の広屋氏の根拠地をこの地にあてる説がある(塚本1979)。しかし、広屋氏の系譜については不明な点が多く、その根拠地にも諸説があり、詳らかでない(大図1987)。しかし、村山党山口氏から分かれた勝呂氏の名の地に坂戸市石井の勝呂が比定され、広谷村がかつて勝呂郷に属していたことから、その可能性も十分あり得る。

大谷川の低地に面した宮廻館跡E区の遺構分布のあり方や出土遺物の様相から、少なくとも13世紀代には中世村落的な景観が広がっていたことは確実であり、空闲地開発を目的とした開発領主層の存在を想定することができる。

館跡の伝承

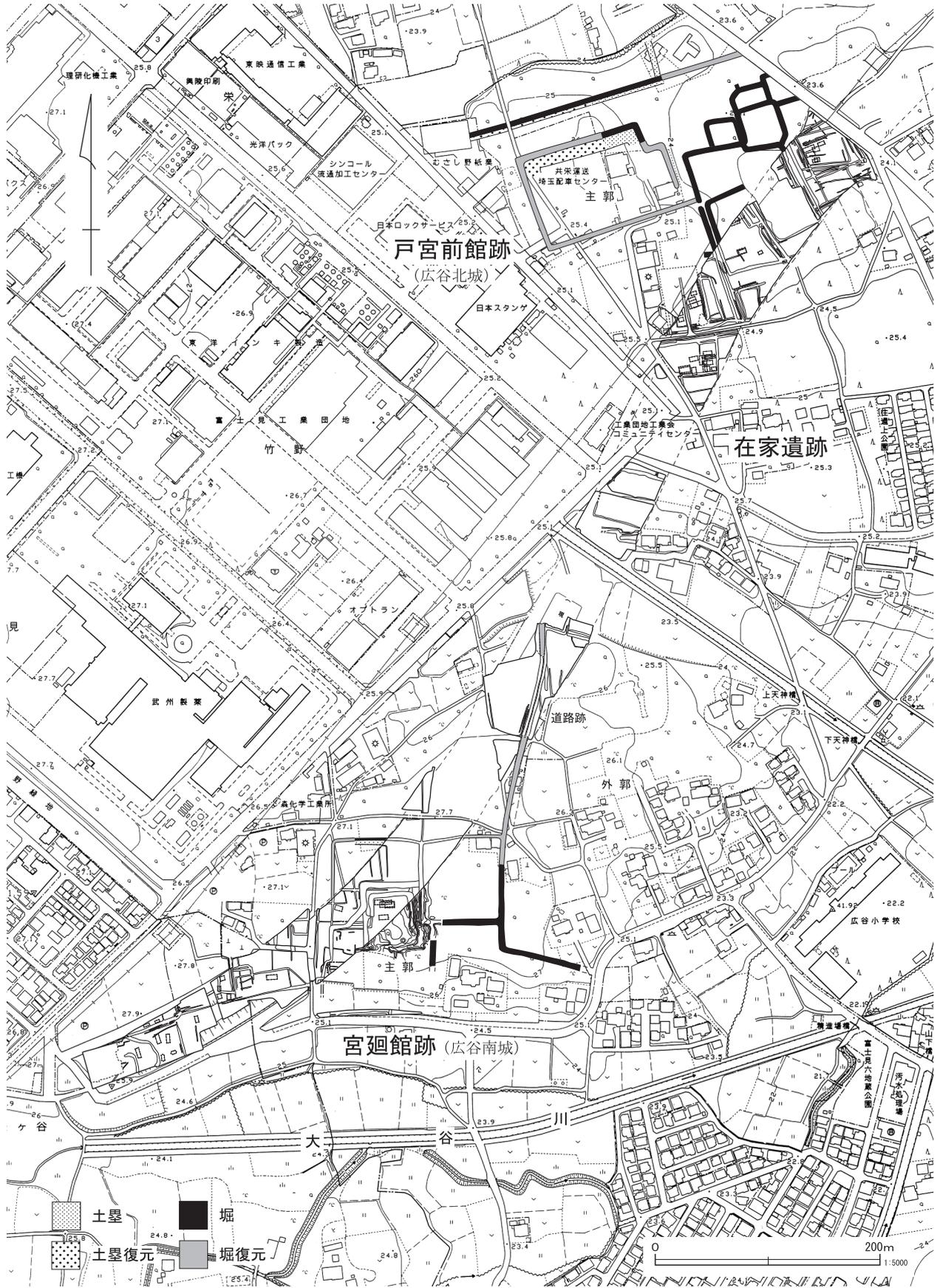
『新編武蔵風土記稿』高麗郡下広谷村の条に見える「古跡3ヶ所」には、東に隣接する戸宮前館跡、大堀山館跡、宮前館跡があてられ、宮廻館跡に関する記載は特にない。また、館跡の来歴については、「川越城に属せし砦などの跡」と記されているだけで、必ずしも明らかでない。

宮廻館跡の縄張り構造

宮廻館跡の主郭部分の構造と時期的変遷については、前節で詳述されているので、ここでは館跡全体の縄張りについて、調査成果と現況地形を基に復元を試みたい(第69図)。

宮廻館跡の範囲については現状では明確でないが、D・E区の調査成果からすれば、南北方向に延びるD区第8号溝跡を境に、区画施設等の西側への広がりほとんど認められない。また、南側は川越市教育委員会が調査した第2次調査区(井口2002)の様相から、おおよそ市道付近が限界と考えられる。

一方、北側の台地北縁のA区では、調査区を斜めに縦断する南北方向の堀跡とその東側に接して



第69図 戸宮前館跡・在家遺跡・宮廻館跡

土壘が一部検出された。堀跡は断面薬研形で、上幅約5.5 m、場所によっては6 mを越える。深さは2.2～2.8 mで、土壘の高さを加えると3.4 mの比高差となる（木戸2004）。南端は調査区外に延び、主郭東側の区画施設東辺に繋がるものと想定することができる。さらに、この堀跡は東に折れることが現地表面の観察から窺われる。従って、この堀跡は台地先端部を東西に区切るように南北に延びる総長300 mを越す大規模な構堀で、東側平坦地に外郭が大きく展開することが予想される。

また、この堀跡の北端は攪乱を受け判然としなないが、A区第1～3号溝跡が崖線に沿って東に延びていることからすれば、外郭を取り囲む溝（堀）がめぐっている可能性も考えられよう。

このように防禦施設としての宮廻館跡は、台地平坦面を使用して、二重の堀と土壘をめぐらした方形の主郭を中心に、西側に折れ歪みをもつ副郭を配し、東には台地縁辺部までを取り囲んだ外郭部からなる二重構造の縄張りを形成していたものと想定しておきたい。

出土遺物の様相

戸宮前館跡、在家遺跡、宮廻館跡の3遺跡から出土した陶磁器及び在地産土器について、浅野晴樹氏が詳細な検討を行っている（浅野2005）。

その成果を引用すれば、食膳具は土師器皿（ロクロ製）が大半を占め、それに瀬戸製品の縁釉皿・盤、中国陶磁の青磁・白磁が僅かに伴う程度で、古瀬戸製品は後Ⅲ期と後Ⅳ期古段階が中心である。貯蔵具は、常滑製品が最も多く、常滑編年の8・9型式のものが主体を占める。しかし、5・6 a型式の甕破片も若干含まれていることから、長期間の使用も考慮すべきであると指摘する。調理具は、在地産の瓦質片口鉢を主体とし、次いで常滑片口鉢と瀬戸播鉢が僅かに伴い、常滑は8・9型式、瀬戸は後Ⅳ期が主体を占める。煮炊具は、在地産の内耳鍋が大半を占めていると、出土土器全体の様相を総括している。

また、戸宮前館跡第2次・在家遺跡第5次調査でもほぼ同様の出土傾向を示し、瀬戸製品の折縁深皿、縁釉小皿、天目碗等の出土が目される（村端2007）。時期的には宮廻館跡よりも古い15世紀前半を主体としていることや、掘立柱建物跡、井戸跡を伴う方形区画施設が主郭の南側に広く展開していることから、宮廻館跡周辺部とはやや異なった様相を呈している。

館跡の時期

築城主体や来歴などに関する記録が少ない場合、城館の存続年代については、城郭構造の変遷の中で年代的位置づけが行なわれる場合がほとんどであった。しかし、瀬戸・美濃製品や中国陶磁を中心とした陶磁器の編年的研究が大きく進み、より具体的な城館跡の年代が示されるようになりはじめた（藤澤2000・2005）。

前述の浅野氏の研究によれば、上広谷城館跡群の存続年代を、出土するかわらけや陶磁器などから見た場合、15世紀前半～15世紀第3四半期頃まで継続していたものであるとする（浅野2005）。

今回の宮廻館跡の調査における出土遺物の様相も概ねその時期に合致する。さらに、一括出土銭の銭種構成の最新銭から想定される埋蔵年代（鈴木1999）も、おおよそ15世紀末から16世紀前半と想定されることから、館跡の廃絶時期をこの段階に想定することと大きな矛盾はない。

下広谷城館跡群をめぐる歴史的背景

これら多くの城館跡がつくられた目的については、文献史料を基にして、いくつかの説が出されている（田中2001）。

①平一揆（1368）の時の陣所説（埼玉県1988、大井町1988）をはじめ、両上杉氏の覇権争いである長享年中の大乱に関わる、②長享2年（1488）の扇谷上杉定正の勝陣所説（井口2002）、③上戸陣の山内上杉氏を支援するために張陣した古河公方の陣所説（塚本1979、梅沢2003）、④山内上杉氏の陣所説、その後の⑤天文15年（1546）、後北

条氏の北武蔵支配を決定づけた河越夜戦の時の古河公方・両上杉氏の陣所説などの諸説がある。

①の平一揆の中心となった河越氏の拠った上戸の河越館跡と、同一揆の高坂氏の拠った館を結ぶ交通路上に位置することから、平一揆に関連した城館跡群とする見解も根強い。しかし、大堀山館跡をはじめとする、宮廻館跡や戸宮前館跡の調査の進展した今、防禦施設として大規模に展開したのが15世紀、おそらくその後半であることが確実視されていることからすれば、その可能性は希薄であろう。

②は、長享2年6月7日、扇谷上杉定正が山内上杉氏攻略のための方策を指揮した勝陣にあてる説である。勝陣に関する具体的な史料は少なく明確にし得ないが、坂戸市石井の勝呂氏館跡や同市塚越にも陣塁跡が残されており、その周辺に勝陣を比定する見解がある（坂戸市1986）。

明応3年（1494）の合戦で扇谷上杉勢が河越に退いた後、山内上杉勢力は古河公方足利政氏勢の援軍を得て川越市内上戸に陣を張った。『松蔭私語』では数千の軍が数ヶ月滞在したと記す。上戸陣の中心は河越館と考えられるが、その他の多くの軍勢を受け入れた拠点として下広谷城館跡群が大きくクローズアップされている（塚本1979、関口1990、梅沢2003）。ちなみに、河越城跡は南東約6.5km、河越館跡は南南東約3kmの距離に位置する。③は、河越城をめぐる軍事的緊張関係を背景に短期間に築かれ、上戸陣と連携しながらその機能の一端を担っていたと想定される。

④は、上戸陣の後方支援としての山内上杉勢の陣所とする説である。可能性はあるが、田中信氏が指摘する「山内上杉氏のかわりけ」（田中1996・2005・2007）の出土例はさほど多くなく、やや問題を残している。

さらに、天文6年（1537）に北条氏綱によって攻略された河越城を奪還するために、天文14年（1545）扇谷上杉朝定は山内上杉氏・古河公方足利氏と連

合し、大軍を率いて出陣した。川越市内砂久保に陣を構え、河越城を包囲した上杉連合軍は八万ともいわれている。対する後北条方の福島綱成軍は僅か三千で籠城し、必死に抵抗した。

翌15年4月、後北条氏は城の明渡しを条件に和を請う態度を示し、上杉方を油断させた。来援に駆けつけた北条氏康は、この機に八千の精鋭を率いて奇襲をかけ、上杉連合軍を潰滅させた。いわゆる「河越夜戦」である。

記録では両上杉氏、古河公方の連合軍の主力は砂久保に張陣しているが、当然周辺にも陣所が設けられたと想定される。⑤は、その際に古河公方・両上杉氏勢によって、かつての館跡が再利用され、堀幅を広げ、土塁を高くするなどの改修によって防禦性が高められた可能性もあろう。

現状では③説が有力である。しかし、長禄元年（1457）に扇谷上杉氏の本城として築城された河越城をめぐる攻防戦のうち、いずれかの歴史的事象に限定することは、状況証拠しかない中では難しい選択である。しかし、各城館跡の縄張り構造の技術的共通性（関口1990）から同一の築城集団によって、ごく短い期間に作られたものであることは間違いないであろう。

今後の課題

下広谷城館跡群は、その中央を南北に貫く鎌倉街道と、河越城から上野方面へ延びる街道の交差する交通の要所を固め、戦略上の拠点として築かれたものと考えられる。しかし、各城館跡の具体相をはじめ、その築城主体が誰であったのか、依然として多くの謎に包まれている。

おそらくは、15世紀後半から16世紀前半にかけて続いた両上杉氏の抗争の渦中、戦時に際して仮設・臨時的に設けられた陣城としての性格が色濃く、戦国期における城館跡の多様なあり方を示すものと位置づけられる。

今後は、文献史学によって検討の進む、南北朝期の入間河陣（落合1999）をはじめ、15世紀後

半に古河公方との抗争に際し、山内上杉顯房が構築した五十子陣（峰岸 2005、太田 2005）、前述した上戸陣（落合 1997）などとの比較検討を通し、「仮設」の要塞としての陣所・陣城の実態解明（宮武 2002）が大きな課題である。

最後に、下広谷城館跡群をめぐる歴史的背景について、どれほどのことを明らかにすることができたかはなはだ心もとないが、今なお往時の姿を留める城館跡群が大切に保存されることを期待したい。

引用・参考文献

- 青木克尚 2000『根岸遺跡（第3次・第4次）』深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第61集
浅野晴樹 2005「戦国期城館の年代観」『戦国の城』高志書院
天ヶ嶋岳 2001「中世武士の居館の発掘調査と史跡整備」『図説 川越の歴史』郷土出版社
荒川正夫 1998『大久保山VI』早稲田大学本庄校地文化財調査報告6 早稲田大学
荒川正夫 2001「埼玉県大久保山遺跡の一括出土銭と模鑄銭」『中世の出土模鑄銭』高志書院
井口信久 2002『宮廻館跡（第2次調査報告書）』川越市遺跡調査報告書第25集 川越市遺跡調査会
石井浩幸 1996『土崎遺跡 梵天塚遺跡 中谷地遺跡 発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第42集
内田正英 2007「川越市古海道東遺跡（第1次）の調査」『第40回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会ほか
梅沢太久夫 2000「北武蔵の中世城郭について」『埼玉考古』第35号 埼玉考古学会
梅沢太久夫 2003『中世北武蔵の城』岩田書院
大井町 1988『大井町史 通史編上』
大関口承 1987「鶴ヶ島周辺の中世史検証」『鶴ヶ島研究4』鶴ヶ島町史編さん室
太田博之 2005「『五十子陣』研究ノート」『群馬考古手帳』15 群馬土器観会
落合義明 1997「武蔵国河越館について」『地方史研究』第265号 地方史研究協議会
落合義明 1999「中世東国の陣と芸能—武蔵国入間河陣を中心として—」『日本歴史』第617号 日本歴史学会
川越市教育委員会 1982『川越の地名調査報告書』（2）
川越市教育委員会 2005『川越市文化財保護年報』平成16年度
騎西町教育委員会 2001『騎西町史 考古資料編1』
木戸春夫 2004『戸宮前／在家／宮廻』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第297集
木本雅康 1992「宝亀2年以前の東山道武蔵路について」『古代交通研究』創刊号 古代交通研究会
工藤清泰 1995「城館生活の一段面—埋納儀礼の考察—」『中世の風景を読む1 蝦夷の世界と北方交易』新人物往来社
熊谷市教育委員会 1980『熊谷市玉井古銭』
栗岡真理子 2005『埼玉の戦国時代 城』埼玉県立歴史資料館
栗原文蔵 1984「埼玉出土の中世備蓄古銭について」『埼玉県立歴史資料館紀要』第6号
栗原文蔵 1988「埼玉出土の中世備蓄古銭について（補遺）」『埼玉県立歴史資料館紀要』第10号
栗原文蔵 1997「中世の出土銭」『考古学による日本歴史9 交易と交通』雄山閣
群馬県 1978『群馬県史 資料編5 中世1』
埼玉県 1988『新編埼玉県史 通史編2 中世』
埼玉県遺跡調査会 1978『甘粕原・ゴシン・露梨子遺跡』埼玉県遺跡調査会第35集
埼玉県教育委員会 1968『埼玉の城館跡』
埼玉県教育委員会 1988『埼玉の中世城館跡』
埼玉県教育委員会・埼玉県立歴史資料館 1982『県内鎌倉街道伝承地所在確認調査報告書』
埼玉県教育委員会・埼玉県立歴史資料館 1983『鎌倉街道上道』歴史の道調査報告書第1集
齋藤慎一 2002『中世東国の領域と城館』吉川弘文館
齋藤慎一 2003「鎌倉街道上道と北関東」『中世東国の世界1 北関東』高志書院
齋藤慎一 2004「南関東の都市と街道」『中世東国の世界2 南関東』高志書院
齋藤慎一 2005「中世東国の街道とその変遷」『戦国の城』高志書院
酒井清治 1993「武蔵国内の東山道について」『国立歴史民俗博物館研究報告』第50集

- 坂詰秀一編 1986『出土渡来銭—中世—』ニュー・サイエンス社
- 坂戸市 1986『坂戸市史 中世史料編Ⅰ』
- 坂戸市教育委員会 1996『中世のさかど』
- 清水慎也 2006「中世渡来銭にみられる所謂星形孔銭の検討—北宋の貨幣政策と銭貨化学組成の変動—」『研究紀要』第21号(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 城近憲市 1979「川越市」『日本城郭大系』第5巻 埼玉・東京 新人物往来社
- 鈴木公雄 1992「出土備蓄銭と中世後期の銭貨流通」『史学』第61巻第3・4号 三田史学会
- 鈴木公雄 1999『出土銭貨の研究』東京大学出版会
- 関口和也 1990「埼玉県川越市大字下広谷の城址群」『中世城郭研究』第4号 中世城郭研究会
- 竹尾 進 1984『多摩ニュータウン遺跡 昭和58年度(第3分冊)』(財)東京都埋蔵文化財センター
- 田中 信 1996「川越市内出土の中世土師器皿について」『川越市埋蔵文化財発掘調査報告書(XⅠ)』川越市教育委員会
- 田中 信 2001「下広谷館群は何を語るか」『図説 川越の歴史』郷土出版社
- 田中 信 2002『戸宮前館跡(第1次調査)』川越市遺跡調査報告書第26集 川越市遺跡調査会
- 田中 信 2005『「山内上杉氏の土器(かわらけ)」とは』『戦国の城』高志書院
- 田中 信 2007「土器(かわらけ)から見る関東の戦国時代と河越」『後北条氏と河越城』川越市立博物館
- 谷口 榮 2000『埋められた渡来銭—中世の出土銭を探る—』葛飾区郷土と天文の博物館
- 中世を歩く会 2002『在地土器検討会資料集—北武蔵のカワラケ—』中世を歩く会・埼玉県立歴史資料館 埼玉県教育委員会
- 塚本国男 1979「川越市下広谷北畠氏址群」『いしずえ』第4号 川越市名細地区郷土史勉強会
- 富元久美子 2005『八幡前・若宮遺跡(第1次調査)』川越市遺跡調査会調査報告書第31集
- 永井久美男 1994「埋蔵時期の推定と最新銭」『中世の出土銭—出土銭の調査と分類—』兵庫埋蔵銭調査会
- 永井久美男 1996「最新銭による一括埋納銭の時期区分」『中世の出土銭 補遺Ⅰ』兵庫埋蔵銭調査会
- 永井久美男 2002『新版 中世出土銭の分類図版』高志書院
- 中島岐視生ほか 2005『宮林遺跡—第1次調査— 茨山遺跡—第1・2次調査— 野竹遺跡—第5次調査—』所沢市埋蔵文化財調査報告書 第35集 所沢市教育委員会
- 中田正光 1983『埼玉の古城址』有峰書店新社
- 橋口定志 1993『「埋納銭」の呪力』『新視点・日本の歴史』第4巻 中世編 新人物往来社
- 橋口定志 1998「銭を埋めること—埋納銭をめぐる諸問題—」『歴史学研究』第711号
- 橋口定志 2003「埋納銭をめぐる諸問題」『戦国時代の考古学』高志書院
- 深田芳行 1979「渡来銭流通の考古学的考察」『ぶこう』第3号
- 藤澤良祐 2000「遠江出土の瀬戸美濃焼」『横地城跡 総合調査報告書 資料編』菊川町教育委員会
- 藤澤良祐 2005「北武蔵出土の瀬戸美濃製品」『シンポジウム埼玉の戦国時代 検証 比企の城』史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会
- 松岡 進 2005「戦国初期東国における陣と城館」『戦国史研究』第50号 戦国史研究会
- 水沢市埋蔵文化財センター 1997『仙人西遺跡』水沢市埋蔵文化財センター調査報告書第8集
- 峰岸純夫 1989「東国における15世紀後半の内乱の意義—「享徳の乱」を中心に—」『中世の東国—地域と権力』東京大学出版会
- 峰岸純夫 1999「中世の「埋蔵銭」についての覚書—財産の危機管理の視点から—」『越境する貨幣』歴史学研究会
- 峰岸純夫 2005「享徳の乱における城郭と陣所」『城郭と中世の東国』高志書院
- 宮瀧交二 1991『堂山下遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第99集
- 宮武正登 2002『「陣」を再考する—武家社会下の仮設要塞の実態—』『歴博』第114号 国立歴史民俗博物館
- 村端和樹 2007『戸宮前Ⅱ/在家Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第342集
- 村本貞夫・小川 忍 1992『川越市歴史の道調査報告書』文化財調査報告書第8集 川越市教育委員会
- 山村博美 2000「江戸時代の化粧」『江戸文化の考古学』吉川弘文館
- 吉田 稔 1994『川越・児玉往還』歴史の道調査報告書第十七集 埼玉県教育委員会
- 吉野 健 1994『西別府廃寺(第2次)』熊谷市教育委員会
- 渡辺 一ほか 1983『花崎遺跡』加須市遺跡調査会

第17表 挿図・写真図版対応表

写真 図版 番号	図版 内番 号	図番 号	図内 番号																
11	1	15	2	16	13	53	4	17	44	16	49	18	54	17	102	18	109	18	152
11	2	60	2	16	14	48	10	17	45	16	45	18	55	17	103	18	110	18	158
11	3	15	5	16	15	49	16	18	1	16	50	18	56	17	104	18	111	18	160
11	4	62	31	16	16	60	7	18	2	16	51	18	57	17	105	18	112	18	162
11	5	61	15	16	17	61	25	18	3	17	55	18	58	17	106	18	113	18	164
11	6	61	16	16	18	61	26	18	4	17	56	18	59	17	107	18	114	18	166
11	7	49	14	16	19	48	7	18	5	17	57	18	60	17	108	18	115	18	168
11	8	60	5	16	20	48	8	18	6	17	58	18	61	17	109	18	116	18	170
12	1	61	18	16	21	48	9	18	7	17	59	18	62	17	110	18	117	18	172
12	2	61	19	16	22	60	3	18	8	17	60	18	63	17	111	18	118	18	174
12	3	62	32	16	23	65	1	18	9	17	61	18	64	17	112	18	119	18	176
12	4	62	33	16	24	15	9	18	10	17	62	18	65	17	113	18	120	18	178
12	5	62	34	17	1	49	22	18	11	17	63	18	66	17	114	18	121	18	180
12	6	53	2	17	2	48	13	18	12	17	64	18	67	17	115	18	122	18	182
12	7	15	1	17	3	49	21	18	13	17	65	18	68	17	116	18	123	18	184
12	8	60	1	17	4	60	10	18	14	17	66	18	69	17	117	18	124	18	186
12	9	62	29	17	5	60	12	18	15	16	48	18	70	17	118	18	125	18	159
12	10	62	30	17	6	60	13	18	16	16	53	18	71	18	122	18	126	18	161
12	11	15	4	17	7	60	11	18	17	16	52	18	72	18	124	18	127	18	163
12	12	49	15	17	8	15	10	18	18	16	54	18	73	18	126	18	128	18	165
12	13	48	2	17	9	16	12	18	19	17	67	18	74	18	128	18	129	18	167
12	14	49	20	17	10	16	13	18	20	17	68	18	75	18	130	18	130	18	169
13	1	61	20	17	11	16	14	18	21	17	69	18	76	18	123	18	131	18	171
13	2	61	21	17	12	16	15	18	22	17	70	18	77	18	125	18	132	18	173
13	3	62	35	17	13	16	16	18	23	17	71	18	78	18	127	18	133	18	175
13	4	62	36	17	14	16	17	18	24	17	72	18	79	18	129	18	134	18	177
14	1	16	11	17	15	16	18	18	25	17	73	18	80	18	131	18	135	18	179
14	2	48	5	17	16	16	19	18	26	17	74	18	81	17	119	18	136	18	181
14	3	60	6	17	17	16	21	18	27	17	75	18	82	17	120	18	137	18	183
14	4	61	24	17	18	16	22	18	28	17	76	18	83	17	121	18	138	18	185
14	5	61	22	17	19	16	23	18	29	17	77	18	84	18	132	18	139	18	187
14	6	61	23	17	20	16	24	18	30	17	78	18	85	18	133	19	1	18	188
15	1	48	4	17	21	16	25	18	31	17	84	18	86	18	134	19	2	18	189
15	2	49	19	17	22	16	26	18	32	17	85	18	87	18	135	19	3	18	190
15	3	48	3	17	23	16	27	18	33	17	86	18	88	18	136	19	4	18	191
15	4	61	17	17	24	16	28	18	34	17	87	18	89	18	137	19	5	18	192
15	5	62	37	17	25	16	20	18	35	17	88	18	90	18	138	19	6	18	193
15	6	49	17	17	26	16	29	18	36	17	83	18	91	18	139	19	7	18	194
15	7	48	6	17	27	16	30	18	37	17	79	18	92	18	140	19	8	18	195
15	8	15	6	17	28	16	31	18	38	17	80	18	93	18	141	19	9	18	196
15	9	53	3	17	29	16	37	18	39	17	81	18	94	18	142	19	10	19	224
15	10	49	18	17	30	16	34	18	40	17	82	18	95	18	143	19	11	19	197
15	11	60	4	17	31	16	35	18	41	17	89	18	96	18	144	19	12	19	198
16	1	11	1	17	32	16	36	18	42	17	90	18	97	18	145	19	13	19	199
16	2	11	2	17	33	16	38	18	43	17	91	18	98	18	146	19	14	19	200
16	3	11	3	17	34	16	39	18	44	17	92	18	99	18	147	19	15	19	201
16	4	12	1	17	35	16	32	18	45	17	93	18	100	18	148	19	16	19	202
16	5	12	2	17	36	16	33	18	46	17	94	18	101	18	153	19	17	19	203
16	6	12	3	17	37	16	40	18	47	17	95	18	102	18	154	19	18	19	204
16	7	15	8	17	38	16	41	18	48	17	96	18	103	18	155	19	19	19	206
16	8	48	11	17	39	16	42	18	49	17	97	18	104	18	156	19	20	19	205
16	9	15	7	17	40	16	43	18	50	17	98	18	105	18	157	19	21	19	207
16	10	61	27	17	41	16	44	18	51	17	99	18	106	18	149	19	22	19	208
16	11	61	28	17	42	16	46	18	52	17	100	18	107	18	150	19	23	19	209
16	12	60	8	17	43	16	47	18	53	17	101	18	108	18	151	19	24	19	210

写真 図版 番号	図版 内番号	図 番号	図内 番号																
19	25	19	211	19	80	22	33	20	53	24	88	21	38	26	143	22	23	27	198
19	26	19	225	19	81	22	34	20	54	24	89	21	39	26	144	22	24	27	199
19	27	19	226	19	82	22	35	20	55	24	90	21	40	26	145	22	25	27	200
19	28	19	227	20	1	23	36	20	56	24	91	21	41	26	146	22	26	27	201
19	29	19	228	20	2	23	37	20	57	24	92	21	42	26	147	22	27	27	202
19	30	19	212	20	3	23	38	20	58	24	93	21	43	26	148	22	28	27	203
19	31	19	213	20	4	23	39	20	59	24	94	21	44	26	149	22	29	27	204
19	32	19	214	20	5	23	40	20	60	24	95	21	45	26	150	22	30	27	205
19	33	19	215	20	6	23	41	20	61	24	96	21	46	26	151	22	31	27	206
19	34	19	216	20	7	23	42	20	62	24	97	21	47	26	152	22	32	27	207
19	35	19	217	20	8	23	43	20	63	24	98	21	48	26	153	22	33	27	208
19	36	19	218	20	9	23	44	20	64	24	99	21	49	26	154	22	34	27	209
19	37	19	219	20	10	23	45	20	65	24	100	21	50	26	155	22	35	27	210
19	38	19	220	20	11	23	46	20	66	24	101	21	51	26	156	22	36	28	211
19	39	19	221	20	12	23	47	20	67	24	102	21	52	26	157	22	37	28	212
19	40	19	222	20	13	23	48	20	68	24	103	21	53	26	158	22	38	28	213
19	41	19	223	20	14	23	49	20	69	24	104	21	54	26	159	22	39	28	214
19	42	19	229	20	15	23	50	20	70	24	105	21	55	26	160	22	40	28	215
19	43	19	230	20	16	23	51	21	1	25	106	21	56	26	161	22	41	28	216
19	44	19	231	20	17	23	52	21	2	25	107	21	57	26	162	22	42	28	217
19	45	21	—	20	18	23	53	21	3	25	108	21	58	26	163	22	43	28	218
19	46	21	—	20	19	23	54	21	4	25	109	21	59	26	164	22	44	28	219
19	47	挿図無		20	20	23	55	21	5	25	110	21	60	26	165	22	45	28	220
19	48	22	1	20	21	23	56	21	6	25	111	21	61	26	166	22	46	28	221
19	49	22	2	20	22	23	57	21	7	25	112	21	62	26	167	22	47	28	222
19	50	22	3	20	23	23	58	21	8	25	113	21	63	26	168	22	48	28	223
19	51	22	4	20	24	23	59	21	9	25	114	21	64	26	169	22	49	28	224
19	52	22	5	20	25	23	60	21	10	25	115	21	65	26	170	22	50	28	225
19	53	22	6	20	26	23	61	21	11	25	116	21	66	26	171	22	51	28	226
19	54	22	7	20	27	23	62	21	12	25	117	21	67	26	172	22	52	28	227
19	55	22	8	20	28	23	63	21	13	25	118	21	68	26	173	22	53	28	228
19	56	22	9	20	29	23	64	21	14	25	119	21	69	26	174	22	54	28	229
19	57	22	10	20	30	23	65	21	15	25	120	21	70	26	175	22	55	28	230
19	58	22	11	20	31	23	66	21	16	25	121	22	1	27	176	22	56	28	231
19	59	22	12	20	32	23	67	21	17	25	122	22	2	27	177	22	57	28	232
19	60	22	13	20	33	23	68	21	18	25	123	22	3	27	178	22	58	28	233
19	61	22	14	20	34	23	69	21	19	25	124	22	4	27	179	22	59	28	234
19	62	22	15	20	35	23	70	21	20	25	125	22	5	27	180	22	60	28	235
19	63	22	16	20	36	24	71	21	21	25	126	22	6	27	181	22	61	28	236
19	64	22	17	20	37	24	72	21	22	25	127	22	7	27	182	22	62	28	237
19	65	22	18	20	38	24	73	21	23	25	128	22	8	27	183	22	63	28	238
19	66	22	19	20	39	24	74	21	24	25	129	22	9	27	184	22	64	28	239
19	67	22	20	20	40	24	75	21	25	25	130	22	10	27	185	22	65	28	240
19	68	22	21	20	41	24	76	21	26	25	131	22	11	27	186	22	66	28	241
19	69	22	22	20	42	24	77	21	27	25	132	22	12	27	187	22	67	28	242
19	70	22	23	20	43	24	78	21	28	25	133	22	13	27	188	22	68	28	243
19	71	22	24	20	44	24	79	21	29	25	134	22	14	27	189	22	69	28	244
19	72	22	25	20	45	24	80	21	30	25	135	22	15	27	190	22	70	28	245
19	73	22	26	20	46	24	81	21	31	25	136	22	16	27	191	23	1	29	246
19	74	22	27	20	47	24	82	21	32	25	137	22	17	27	192	23	2	29	247
19	75	22	28	20	48	24	83	21	33	25	138	22	18	27	193	23	3	29	248
19	76	22	29	20	49	24	84	21	34	25	139	22	19	27	194	23	4	29	249
19	77	22	30	20	50	24	85	21	35	25	140	22	20	27	195	23	5	29	250
19	78	22	31	20	51	24	86	21	36	26	141	22	21	27	196	23	6	29	251
19	79	22	32	20	52	24	87	21	37	26	142	22	22	27	197	23	7	29	252

写真 图版 番号	图版 内番 号	图番 号	图内 番号																
23	8	29	253	23	63	30	308	24	48	32	363	25	33	33	418	26	18	35	473
23	9	29	254	23	64	30	309	24	49	32	364	25	34	33	419	26	19	35	474
23	10	29	255	23	65	30	310	24	50	32	365	25	35	33	420	26	20	35	475
23	11	29	256	23	66	30	311	24	51	32	366	25	36	34	421	26	21	35	476
23	12	29	257	23	67	30	312	24	52	32	367	25	37	34	422	26	22	35	477
23	13	29	258	23	68	30	313	24	53	32	368	25	38	34	423	26	23	35	478
23	14	29	259	23	69	30	314	24	54	32	369	25	39	34	424	26	24	35	479
23	15	29	260	23	70	30	315	24	55	32	370	25	40	34	425	26	25	35	480
23	16	29	261	24	1	31	316	24	56	32	371	25	41	34	426	26	26	35	481
23	17	29	262	24	2	31	317	24	57	32	372	25	42	34	427	26	27	35	482
23	18	29	263	24	3	31	318	24	58	32	373	25	43	34	428	26	28	35	483
23	19	29	264	24	4	31	319	24	59	32	374	25	44	34	429	26	29	35	484
23	20	29	265	24	5	31	320	24	60	32	375	25	45	34	430	26	30	35	485
23	21	29	266	24	6	31	321	24	61	32	376	25	46	34	431	26	31	35	486
23	22	29	267	24	7	31	322	24	62	32	377	25	47	34	432	26	32	35	487
23	23	29	268	24	8	31	323	24	63	32	378	25	48	34	433	26	33	35	488
23	24	29	269	24	9	31	324	24	64	32	379	25	49	34	434	26	34	35	489
23	25	29	270	24	10	31	325	24	65	32	380	25	50	34	435	26	35	35	490
23	26	29	271	24	11	31	326	24	66	32	381	25	51	34	436	26	36	36	491
23	27	29	272	24	12	31	327	24	67	32	382	25	52	34	437	26	37	36	492
23	28	29	273	24	13	31	328	24	68	32	383	25	53	34	438	26	38	36	493
23	29	29	274	24	14	31	329	24	69	32	384	25	54	34	439	26	39	36	494
23	30	29	275	24	15	31	330	24	70	32	385	25	55	34	440	26	40	36	495
23	31	29	276	24	16	31	331	25	1	33	386	25	56	34	441	26	41	36	496
23	32	29	277	24	17	31	332	25	2	33	387	25	57	34	442	26	42	36	497
23	33	29	278	24	18	31	333	25	3	33	388	25	58	34	443	26	43	36	498
23	34	29	279	24	19	31	334	25	4	33	389	25	59	34	444	26	44	36	499
23	35	29	280	24	20	31	335	25	5	33	390	25	60	34	445	26	45	36	500
23	36	30	281	24	21	31	336	25	6	33	391	25	61	34	446	26	46	36	501
23	37	30	282	24	22	31	337	25	7	33	392	25	62	34	447	26	47	36	502
23	38	30	283	24	23	31	338	25	8	33	393	25	63	34	448	26	48	36	503
23	39	30	284	24	24	31	339	25	9	33	394	25	64	34	449	26	49	36	504
23	40	30	285	24	25	31	340	25	10	33	395	25	65	34	450	26	50	36	505
23	41	30	286	24	26	31	341	25	11	33	396	25	66	34	451	26	51	36	506
23	42	30	287	24	27	31	342	25	12	33	397	25	67	34	452	26	52	36	507
23	43	30	288	24	28	31	343	25	13	33	398	25	68	34	453	26	53	36	508
23	44	30	289	24	29	31	344	25	14	33	399	25	69	34	454	26	54	36	509
23	45	30	290	24	30	31	345	25	15	33	400	25	70	34	455	26	55	36	510
23	46	30	291	24	31	31	346	25	16	33	401	26	1	35	456	26	56	36	511
23	47	30	292	24	32	31	347	25	17	33	402	26	2	35	457	26	57	36	512
23	48	30	293	24	33	31	348	25	18	33	403	26	3	35	458	26	58	36	513
23	49	30	294	24	34	31	349	25	19	33	404	26	4	35	459	26	59	36	514
23	50	30	295	24	35	31	350	25	20	33	405	26	5	35	460	26	60	36	515
23	51	30	296	24	36	32	351	25	21	33	406	26	6	35	461	26	61	36	516
23	52	30	297	24	37	32	352	25	22	33	407	26	7	35	462	26	62	36	517
23	53	30	298	24	38	32	353	25	23	33	408	26	8	35	463	26	63	36	518
23	54	30	299	24	39	32	354	25	24	33	409	26	9	35	464	26	64	36	519
23	55	30	300	24	40	32	355	25	25	33	410	26	10	35	465	26	65	36	520
23	56	30	301	24	41	32	356	25	26	33	411	26	11	35	466	26	66	36	521
23	57	30	302	24	42	32	357	25	27	33	412	26	12	35	467	26	67	36	522
23	58	30	303	24	43	32	358	25	28	33	413	26	13	35	468	26	68	36	523
23	59	30	304	24	44	32	359	25	29	33	414	26	14	35	469	26	69	36	524
23	60	30	305	24	45	32	360	25	30	33	415	26	15	35	470	26	70	36	525
23	61	30	306	24	46	32	361	25	31	33	416	26	16	35	471	27	1	37	526
23	62	30	307	24	47	32	362	25	32	33	417	26	17	35	472	27	2	37	527

写真 图版 番号	图版 内番 号	图内 番号																		
27	3	37	528	27	55	38	580	28	37	40	632	29	19	41	684	30	1	43	736	
27	4	37	529	27	56	38	581	28	38	40	633	29	20	41	685	30	2	43	737	
27	5	37	530	27	57	38	582	28	39	40	634	29	21	41	686	30	3	43	738	
27	6	37	531	27	58	38	583	28	40	40	635	29	22	41	687	30	4	43	739	
27	7	37	532	27	59	38	584	28	41	40	636	29	23	41	688	30	5	43	740	
27	8	37	533	27	60	38	585	28	42	40	637	29	24	41	689	30	6	43	741	
27	9	37	534	27	61	38	586	28	43	40	638	29	25	41	690	30	7	43	742	
27	10	37	535	27	62	38	587	28	44	40	639	29	26	41	691	30	8	43	743	
27	11	37	536	27	63	38	588	28	45	40	640	29	27	41	692	30	9	43	744	
27	12	37	537	27	64	38	589	28	46	40	641	29	28	41	693	30	10	43	745	
27	13	37	538	27	65	38	590	28	47	40	642	29	29	41	694	30	11	43	746	
27	14	37	539	27	66	38	591	28	48	40	643	29	30	41	695	30	12	43	747	
27	15	37	540	27	67	38	592	28	49	40	644	29	31	41	696	30	13	43	748	
27	16	37	541	27	68	38	593	28	50	40	645	29	32	41	697	30	14	43	749	
27	17	37	542	27	69	38	594	28	51	40	646	29	33	41	698	30	15	43	750	
27	18	37	543	27	70	38	595	28	52	40	647	29	34	41	699	30	16	43	751	
27	19	37	544	28	1	39	596	28	53	40	648	29	35	41	700	30	17	43	752	
27	20	37	545	28	2	39	597	28	54	40	649	29	36	42	701	30	18	43	753	
27	21	37	546	28	3	39	598	28	55	40	650	29	37	42	702	30	19	43	754	
27	22	37	547	28	4	39	599	28	56	40	651	29	38	42	703	30	20	43	755	
27	23	37	548	28	5	39	600	28	57	40	652	29	39	42	704	30	21	43	756	
27	24	37	549	28	6	39	601	28	58	40	653	29	40	42	705	30	22	43	757	
27	25	37	550	28	7	39	602	28	59	40	654	29	41	42	706	30	23	43	758	
27	26	37	551	28	8	39	603	28	60	40	655	29	42	42	707	30	24	43	759	
27	27	37	552	28	9	39	604	28	61	40	656	29	43	42	708	30	25	43	760	
27	28	37	553	28	10	39	605	28	62	40	657	29	44	42	709	30	26	43	761	
27	29	37	554	28	11	39	606	28	63	40	658	29	45	42	710	30	27	43	762	
27	30	37	555	28	12	39	607	28	64	40	659	29	46	42	711	30	28	43	763	
27	31	37	556	28	13	39	608	28	65	40	660	29	47	42	712	30	29	43	764	
27	32	37	557	28	14	39	609	28	66	40	661	29	48	42	713	30	30	43	765	
27	33	37	558	28	15	39	610	28	67	40	662	29	49	42	714	30	31	43	766	
27	34	37	559	28	16	39	611	28	68	40	663	29	50	42	715	30	32	63	1	
27	35	37	560	28	17	39	612	28	69	40	664	29	51	42	716	30	33	63	2	
27	36	38	561	28	18	39	613	28	70	40	665	29	52	42	717	30	34	63	3	
27	37	38	562	28	19	39	614	29	1	41	666	29	53	42	718	30	35	63	4	
27	38	38	563	28	20	39	615	29	2	41	667	29	54	42	719	30	36	63	5	
27	39	38	564	28	21	39	616	29	3	41	668	29	55	42	720	30	37	63	6	
27	40	38	565	28	22	39	617	29	4	41	669	29	56	42	721	30	38	63	7	
27	41	38	566	28	23	39	618	29	5	41	670	29	57	42	722	30	39	63	8	
27	42	38	567	28	24	39	619	29	6	41	671	29	58	42	723	30	40	63	9	
27	43	38	568	28	25	39	620	29	7	41	672	29	59	42	724	30	41	63	10	
27	44	38	569	28	26	39	621	29	8	41	673	29	60	42	725	30	42	63	11	
27	45	38	570	28	27	39	622	29	9	41	674	29	61	42	726	30	43	63	12	
27	46	38	571	28	28	39	623	29	10	41	675	29	62	42	727	30	44	63	13	
27	47	38	572	28	29	39	624	29	11	41	676	29	63	42	728	30	45	63	14	
27	48	38	573	28	30	39	625	29	12	41	677	29	64	42	729	30	46	63	15	
27	49	38	574	28	31	39	626	29	13	41	678	29	65	42	730	30	47	63	16	
27	50	38	575	28	32	39	627	29	14	41	679	29	66	42	731	30	48	63	17	
27	51	38	576	28	33	39	628	29	15	41	680	29	67	42	732	30	49	63	18	
27	52	38	577	28	34	39	629	29	16	41	681	29	68	42	733	30	50	48	12	
27	53	38	578	28	35	39	630	29	17	41	682	29	69	42	734	30	51	53	5	
27	54	38	579	28	36	40	631	29	18	41	683	29	70	42	735					